

投稿誌

読んで書いて、みんなであつくる



283

特集◆私の読書歴

座談会●占いと運命判断・私の意見

我が家にロボット犬がやってきた●AIBOのお気楽日記

農文協

〒107-8668 ☎03(3585)1141

東京都港区赤坂7-6-1

【税込定価】

http://www.ruralnet.or.jp/



講座 食の文化

- ① 人類の食文化
- ② 日本の食文化
- ③ 調理と食の文化
- ④ 家庭の食空間
- ⑤ 食の情動
- ⑥ 食の思想
- ⑦ 食のゆくえ

石毛直道監修 集う研究者 20
分野 120 余名、食の文化
フォーラム 16 年、食の学
際研究の成果を最新の到達
水準で総編集。全 7 巻完結！

アトピー 増やしていい 「食べてもいいもの」

がんばろや！
お母さん

佐守反仁・著 できること、食べ
てもいいものはたくさんありま
す。食べてもえももをえもも
増やしていく選択食による食生
活をマスターし、誰でもできるス
キンケアや正しい薬の使い方を見
につける本。
●13000円

自然をわが家に—自給ライフ



四季を楽しむ 山野草の庭づくり

糸克己著 山野草ガーデンの楽しみは、ハイキ
ングや登山のおりに目にした愛らしい野草たち
と自分の庭で接しられること。庭作りの基礎知
識から実際のデザイン、育てやすい山野草の紹
介まで易しく解説。
●17000円

牧恒雄・杉山恵一編著 家庭の庭や路地、屋上などを動植物豊かな自
然空間に変える手法を紹介。
●21000円

野生を呼び戻すビオガーデン入門
●14000円

藤原俊六郎監修 厄介者が菜園の宝に！ベントボトルやダンボールで
悪臭も虫も出さずに良質堆肥ができる。
●15000円

家庭でつくる生ごみ堆肥

横田不二子著 田んぼの作業はしんどいことも
あるけれど、不思議とウイークデイズの仕事の疲
れを癒してくれる。週末通いの田んぼだからこ
その試行錯誤をまとめ、田んぼの基本的な「き」、稲
つくりの醍醐味を紹介する。
●15000円

週末の手植え稲づくり 5畝の田んぼで
自給生活を楽しむ
●15000円

話題の本

広がる性感染症

STD・エイズ

あなたとパートナーを守るハンドブック

静かに、しかも急速に広がっているSTD
(性感染症)の最新情報を独自に取材・編集。
中学校・高校・大学の生徒・学生から大人ま
で幅広く学習できるテキスト。

性感染症って何？／性感染症と潜伏期間／若者
に広がっている性感染症／性行為って何？／感
染を防ぐには？／エイズってどんな病気なの？
／コンドームを使うトレーニング／Q&A ほか
あゆみ出版編集部 著 [A5判] 本体価格600円・税



'99~2000年版 ●別冊「こみゆんと」

登校拒否

関係団体全国リスト

●不登校情報センター編
●A5判／本体価格2500円・税

◆不登校・登校拒否・いじめに力がかかるさまざまな団体の特
色と対応の違いがわかる◆各団体の運営方針・活動状況など
が具体的にわかる◆全国1000以上の相談・受け入れ機関
の連絡先がわかる



●定期購読受付中！

心とからだの主人に

●B5判 隔月刊 ●定価1300円(税込)

性と生の教育

Human Sexuality

◆隔数月1日発売

編集◎「人間と性」教育研究協議会

編集長◎山本直英

明日を拓く子どもと時代のニーズに応じて〈性〉と性教育をとおし
て今日の学校や家庭や社会のあり方、さらに社会・文化を考察します。

No.28 [特集] 「性交」から逃げない性教育を！

No.27 [特集] 総合学習としての《性》

中卒・高校中退からめざす

●別冊「こみゆんと」

不登校情報センター編

専修学校と 技術・資格の学校

中学校卒業、高校中退で入れる高等専修学校・職業訓
練校など、技術を身につけ資格を取得できる進路情報
をまとめて提供します。[A5判] 本体価格1524円





「わいふ」を読む

「わいふ」に書く

あなたの人生が開ける

わいふ

読んで書いて
みんなでつくる

283号

目次

デザイン／宮塚真由美

題字／石渡希和子

表紙イラスト／貫輪絵衣子

イラスト／荒井知恵 荒田ゆり子

奥島千恵子 小沢恵子

カステラネンコ 弘法堂建二

小林正子 小牧あい 佐藤瑞江子

Jasmine 田沼千恵 西宮さき

長谷川てるみ 山田京子

4

わが家の歴史写真

忘れられないおくりもの

◆藤野 恵

写真提供・文／藤野 恵

特集 私の読書歴

一冊の絵本から 辻浦知津代

私の財産 横山のり子

暮らしの中の活字の世界 ゴル

25

おすすめの二冊

時尾松子

10

15

21

25

84

連載2
いのち、はるか——老親介護の日々—— 小林智枝

おすすめの二冊 和田好子

ズバリ一言

十河温子・流稿さよ

コミック これが子供の生きる道 ⑮ 栗田 笑

座談会 私も言いたい

占いと運命判断・私の意見

小林三輪子・鈴木紀美枝・匿名・玲奈

ワーキングライフ

松本とみよ

小さい兄ちゃんはブラジル人 ① 三田 サキ

子育てフォーラム ●NMSのページ●

十文字圭子・杉田みほ

102

98

94

93

26

発熱

熱性けいれんのあとに――

西尾裕子

38

家族のスケッチ

和田美代子・浅川涼子

42

おすすめの二冊

佐藤ゆかり

43

一筆両断 ⑮

西田淑子

44

議員という仕事に初挑戦

木村民子

50

フリートーク

林 直美・須賀まり子・柳澤幾美・後藤 晶
矢島紗恵・入江由里・島村君子
青島典子・浅田節子・飯島まゆみ

65

笑える！

伊藤琴子・砂原富美子

66

我が家にロボット犬がやってきた

AIBOのお気楽日記

佐藤ゆかり

73

エッセイスト・クニフ

家守恭子・田中慶子・太田啓子・中松ミナ子
小栗明子・奈桃有子

131

あなたへスマツシユ

小野喜美子・後藤 晶・砂原富美子・須賀まり子

136

コミック

毎日が平日

海砂

138

私もひとりごと

匿名・野田めぐみ・鴨川典子・布施木ユミ子
塩川浩子・鈴木みもぞ・安村豊子・太田啓子
神名 舞・高橋安子・西尾裕子・鈴木和子
山瀬尚子・栗林八重子・中野正美・草野ゆき
伊藤琴子

ブック情報

情報コーナー

144

スタッフから

募集します

編集だより

147 わいふインフォメーション

149 投稿のきまり

152

文章講座のおすすめ
お友達にわいふを24 バックナンバー
192 自費出版はわいふへ

37

148



忘れられない おくりもの

皆さんは、今まで親からもらったプレゼントの中で、何が一番嬉しかったですか？ ある人はボールのネックレスかもしれないですね。貴重な桐ダンスかもしれないですね。どんなものにも、親が子を想う熱い心がいつばいつまっていた、鼻の奥がツーンとすることでしょう。

私も親から沢山のものを与えてもらいました。教育、思い出、もちろん物もです。でも私にとって一番の「忘れられないおくりもの」は、母が書いた「私の育児日誌」です。母は教師でした。

仕事をする母を誇りに思えるようになってからは、私が中学生になってからで、それまでは、時間に追われる母の後ろ姿を遠巻きに見ていたようなものでした。

専業主婦をしている人より一緒にいられる時間が少ないので、母はせて子供の成長記録を残しておきたかったのかもしれない。また、この育児日誌は、父の教え子である四人の方々からのプレゼントでもありました。



東京都東久留米市
藤野 恵



母から手渡された「私の育児日誌」。表紙（右）はすっかり色あせ、私のいたずら書きなどでボロボロになってしまいましたが、大切な大切な宝物です。巻末に「我々加藤先生の教え子四人より。二世のすこやかなる成長と幸福を祈りながら 父親となる我々の恩師に当日記を贈る。……」と父の教え子四人からのメッセージと署名が残されています。この方々とは今も交流があり、父との教師と生徒という枠を超えたご縁にも感謝しています。出産直前からの記録（上）の部分は、私が娘を出産するときに読み返しました。出産は人それぞれ違うし、もちろん親子とも同じ状況になるとは思っていませんでしたが、「出産をするというのは、こういうことなんだ……」と、うっすら判った記録です。



お七夜のお祝いで、父に抱かれた私（写真中央）

わが家の 歴史写真



満7カ月

「育児日記」より

昭和35年8月29日（生後181日目）

今日学校にて話題になった事。

共かせぎの家庭で、よそにあずけている子供の教育について。生みの親によりつかなかったり、性格の形成に悪影響を及ぼし、また、不良化の原因になる場合が多いとの事。（中略）

一人の給料で暮らして行けるなら今すぐにも家庭に帰りたい思いがします。親の責任を果たし得ない苦しさで一杯です。

平吹様（生後三ヶ月から日中お世話になった方）より恵を連れて来る途中、平吹様のダンナさまにお逢いしました。ちょっと声をかけるとキャッキャッとうれしがり、手をのばしてよるこびます。ところが家に帰り、我がパパに逢ってもジッとみつめたままにしているのです。ママが行った時も、初めジッとにらんでいました。かなしい事です。

母親が働くことによって、子供に悪い影響が出るのでは……と、思い悩んでいた母の姿があります。私には、「母は仕事が好きで、子供が熱を出しても出勤していた」というイメージが大人になるまであったので、母のこんな気持ち、心の葛藤を知って驚きました。



初めての楽器・電気オルガンが届きました。このころから音楽が好きだったようです。4歳のころ

妹の実穂を出産後、産休を終えて学校へ挨拶に行く母と。2歳4カ月の私



この育児日誌を渡されたのは、私の成人式の日でした。そのころ反抗期だった私は、「成人式には出ないよ」と言い、大雪の中、母に代理で出席させてしまったのです。大勢のあてやかな晴れ着姿を横目に、母は記念品を持ち帰り、この育児日誌とともに私に渡してくれました。

あれから十数年、私も結婚し、今は二人の娘の子育て真っ最中です。

育児は自分の思うようにいかないことも多く、時として孤独感にもさいなまれますが、この日誌は私にとって、どんな専門書よりも心に響く子育てのバイブルです。

これを聞くと、あの日、母のかじかんだ手の中に包まれた大きな愛を、恥ずかしくも懐かしく思い出します。

吹浦（ふくうら 山形県）で海水浴。妹（手前）、母と。小学校1年生の私



パソコンに向かう母と。

昨年、母にパソコンをプレゼントしました。好奇心旺盛な母は、喜んでパソコンに向かっていきます。「母にはかなわない!」と、今まですべて教わっていたのに、パソコンに関しては私の方が上! 立場が逆転するのも楽しいものです。年に数回、私が帰省したときしか教えられないのが残念!

母は今日誌をつけています。退職後は時間ができたので、自宅の庭の草花の開花日、家族の健康状態、旅行、イベントなど、細かく記録しています。一年分をワードでまとめ、私に送ってくれました。いつか母にHP(ホームページ)作成のお手伝いもしてあげたいな。



ピアノリサイタルのプログラム

「芸術に親しんで欲しい!」という両親の願いどおり、音楽は大好きです。ハモンドオルガンを長く弾いていましたが、出産後ピアノ(クラシック)の勉強を始めました。ピアノの仲間二十人ほどで、半年に一度ずつ自主リサイタルを開いています。生活も仕事も年齢も違うのに、ピアノという一本の糸だけで結ばれるというのもすばらしいものです。

投稿誌 わいふ から
生まれた

ニュー・マザリングシステム (NMS)

ゼロ歳から満3歳までの子どもを持つお母さんを対象とする通信教育です

「生きる力」のある子を育てましょう!!



- ・実践と理論の両方を学べます
- ・子育ての悩みから解放されます
- ・徹底した個人指導で安心できます

お問い合わせ先 NMS研究会 〒162 東京都新宿区市谷加賀町2-5-26
(株)グループわいふ分室内 ☎03-3260-2509 FAX03-3260-9398

教育史料出版会

〒101 千代田区西神田 2-4-6
☎03(5211)7175

ハイスクールレポート

自分にあった学校をえらぶ私立高校ガイド

入学してからでは遅すぎる!
服装・頭髪規定は? 生活指導の中身は?
どんな行事があるのか? 力を入れてい
る教育内容は? 進学への取り組みは?
学校生活がこの一冊で見えてくる!

関東版 わいふ編集部編 4月末刊 ★1900円+税
関西版 公立校も収録 / 5月末刊 ★1800円+税

子どもはなぜ
★1500円+税

渡辺 学校に行くのか

自分にあつた
★1602円+税

早川裕子 高校のえらび方

●生徒・父母・教師が綴る 私の北星余市物語

やりなおさないか
君らしさのままで

北星学園余市高校編
中退生を受け入れる北の学園 / ★1500円+税

特集

私の読書歴



一冊の絵本から

東京都新宿区 辻浦知津代（68歳）

幼い頃母に買ってもらった一冊の絵本。それは乾ききった荒野の土くれに注がれた一滴の水のように、私のその後の人生を大きく方向づけた出会いの一しずくとなった。

今回の特集テーマの予告を見て、私は本と共に歩んできた自分史を書いてみたいという思いと、あの惨めな幼児体験を他人にさらしたくない気持ちとの相克にしばし悩んだ。結局ペンをとることに決めたのも、やがて七十歳に届こうとする年齢のせいかもしれない。最近はどうも見栄も気取りも捨て

て、あるがままの自分で生きたいと思うようになってきた。ただ自分史となるとやはり亡き母のことに触れないわけにはゆかないので、まず母の生い立ちから記してゆきたい。

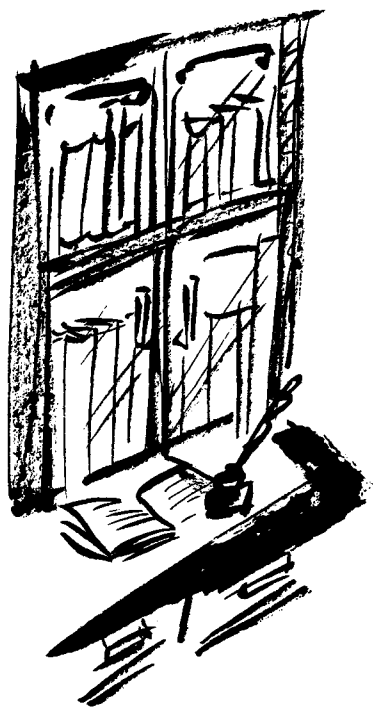
母の生家は奈良と和歌山の県境に近い山深い谷筋にあった。代々の山林地主だったが母がまだ小さい時に、跡とりの長兄と両親が続いて結核で死亡という悲劇に遇う。成人してから婿養子に迎えた父が山林の管理に当たっていたが、経営に未熟でやがて全国にまたがる山林ブローカー達の標的にされ、

苦悩のなか三十六歳の若さで病死。持ち山の殆どはすでに人手に渡っていた。残された母は家の再興のため、父を詐欺にまきこんだブローカーを相手に訴訟を決意した。四人の子供のうち上二人の兄を親戚に預け、歩き始めたばかりの弟を養子に出し、女の私一人を手許において生家をたたみ大阪へ出た。昭和十年秋のことである。当時私は数え年の五歳。

長びく裁判に備えて或る家の二階に間借りし、母は和裁の腕を生かして働きに出た。私は保育所へ。帰るとちやぶ台の上には夕食の用意がされ、その前に一銭銅貨が三つ並べてある。それを握って日暮れまであてもなく外をほつき歩いた。母の帰りが遅いと一人で冷たい御飯を食べて行火の入った布団にもぐりこむ。雨風がガラス戸を叩く夜など、足のしもやけの痛痒さも加わって大声で泣きながら寝入ってし

まう。夜中ふと目覚めると傍には母の寝顔がある。それだけでもう淋しさも何も忘れて、私は安心して再び眠りにつくのだった。

こんな半浮浪児的な日々が続いた或る時、連れて行ってもらった夜店で母は一冊の絵本を買ってくれた。この時代を知る人には馴染み深い「講談社の絵本」である。生まれて初めて目にした美しい色彩の絵に、私はすっかり心を奪われてしまった。母が読み聞かせてくれる物語の筋を、一人でたどりな



がら一日中飽かず眺めているうちにやがて字を覚えてしまい、頁の端がめくられてボロボロになるまで読み返した。

『孝女白菊』という題名だったのを今も記憶している。もし私が恵まれた家庭に育っていたら、一冊の絵本にあれ程に狂喜執着しなかっただろうと思う。

昭和十四年、長びいた裁判が和解という形で決着した。何人かのブローカーのうちのボス格の人が浜松に住んでいて、そこで土地を提供し家も建てて母子の生計が立つようにしてくれる

ことになった。兄達も引き取って翌年の夏、一家は大阪を離れた。

当時浜松には現静岡大学工学部の前身の浜松工専があつて、母はその学生相手の下宿屋を始めた。二十人近くは居た学生の賄いを殆ど一人でこなして休む暇もない忙しさである。兄達はよく母を手伝っていたが、私は大阪時代の浮浪癖がとれず、学校から帰るとすぐとび出してしまふ。

本屋で立ち読みしたり、友達の家でままごと遊びをしていても、そのうちにすつと一人離れて奥の座敷へ行き、簞笥の上や鏡台の横あたりから『キング』『富士』など大人向けの雑誌を探し出して読む。本の中のマンガがお目当てなのだが、次第に挿画につられて時代小説や恋愛ものなども、意味もわからぬままに片っ端から読み漁った。当時の本は漢字にみなルビが振ってあるから何でも読めるのだ。夢中になっていてふと気がつくといりはもう薄暗い。隣の茶の間では賑やかに夕食が始まっている。慌てて本を片付けてソーッ



と茶の間の隅を通り玄関へ出ようとすると、小母さんが「おや、どこに居たの。気をつけてお帰りよ」と声をかけてくれた。今だったらつまみ出されるところだろう。のどかな時代だった。

小学五年生頃が本狂いのピークだった。私はだんだん現実と空想の区別がつかなくなり、家でも学校でも上の空、頭の中は猿飛佐助や冒険ダン吉や哀れなみなし子達が三つ巴四つ巴になって回り出す有様で、さすがに母もこの異常に気付き、私の身辺から一切の本を取り去り厳しく家の手伝いをさせるようになった。折しも時代は戦争突入前後の緊張状態にあり、もうのんびり本を読んでもおれない雰囲気になってゆく。

昭和十八年春、女学校に進むと嬉しいことに立派な図書室があった。母に干渉されることなく私は再び本の世界にのめりこむが、かつての濫読は止み、先生の指導もあつて古典文学にひかれるようになった。古語のもつ韻律の美しさに目覚めたのもこの頃だ。

クラスでも藤村や白秋などの叙情詩を暗記して、長々と朗誦することが流行ったが、こうした少女らしい夢のある学園生活も束の間で、昭和二十年の浜松大空襲により我が家も学校も焼失。母子は着のみ着のままで故郷へ疎開し、やがて終戦を迎えることとなる。

戦後間もなくの二十二年春、私は京都の或る女専に入學した。早生まれの私は小学校では全くの落ちこぼれ、やっと入った女学校もともに授業を受けたのは一年間だけで後は勤労働員で働かされて空白のまま。それが疎開先の女学校に転校したら、いきなり四年生に編入されたのだから学力はゼロに等しい。

その私が京都という地への単なる憧れから受験を思い立ち、補欠ながら合格できたのだから、その頃の世相がいかに混乱していたかが想像されよう。

住居も食物も何もない時代で我が家の生活も苦しく、進学したいなどと言える状態ではなかったが、女学校を出

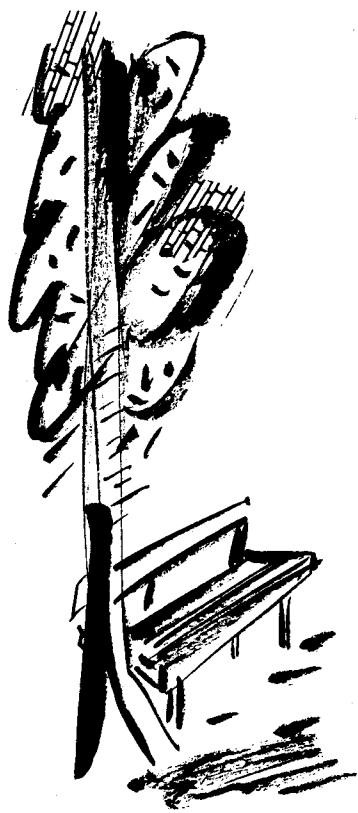
でも働き場所のないことを母も考えたのだろう。思案の末に許してくれた。

「但し」と母は言った。「男は学歴がなくとも才覚一つでどのようにも生きてゆけるが、女は男次第で運命が変わる。お前を上为学校へ行かせるのは花嫁修業のためではない。どんな状況に陥っても、男に頼らずに生きられる力をつけてほしいから」

生きられる力とはどんなことかも深く考えずに、私はまぐれ当たりの幸運に浮かれて京都へ行き学生寮へ入った。が、この幸運は手厳しい仕返しを伴っていたことにやがて気付く。

その頃の寮は一室に三人か四人が同居してプライバシーなんてものはない。育ちの異なる者同士の集りだから、互いに気心がわかるまでの摩擦はたいへんなものだ。

その中で、私は自分が育ってきた境遇がいかに偏ったものであったかを痛切に思い知らされ、劣等感にうちのめされた。私のようなはぐれ者の来る所ではなかったのだ。部屋に居ても常に



誰かが自分を見て嘲笑しているようで落ちつかない。

これからどのようにに生きてらよいのか、と自分に問いかけながらまたまたあてもなく街をさまよい歩く日々だった。百万遍あたりの古本屋でわかりもしないのにキエルケゴールの『死に至る病』など手にとったりした。倉田百三の『出家とその弟子』に感動して、仏教話も聞きに行ってみたが心は満たされなかった。

三年生になった或る日のこと、たまま友人に誘われて『歎異抄』の輪読

会というのに参加した。これは浄土真宗の開祖親鸞の言葉を、弟子の唯円が後に書き留めたごく短い文言集だが、宗教とか教団とかの既成概念を超えて一人の人間としての生死の問題、信仰の真髄について、平易にしかもズバリと言い切っている。何度か参加しているうちに私の胸の中のしこりも少しずつほぐれ、安らぎを覚えるようになった。念仏を唱えるまでには至らないが、親鸞を生涯の心の師と仰いで今も折々に読み返している。

振り返れば京都での三年間は私に

とって暗いトンネル時代だったが、この『歎異抄』との出会いによって救われたのだから、無駄ではなかったし、むしろ感謝している。

女専を出てから四年後に私は結婚し、東京に移り住むことになった。誰一人知った人の居ない地での子育てには苦勞し、また生活上の事情もあって読書とは無縁の暮らしがずっと続いた。たまに面白い本に出会うことも



あったが、読み出すとのめりこむ自分の性格を知っているので自制して本を閉じる。禁酒ならぬ禁書を課したので。

それを解禁したのは下の息子が高校に入った頃だったろうか。長らく抑えていた諸々の欲求が徐々にふき出されて、私はまずPTAで知り合った友人達と一緒に読書会を作った。

戦中戦後育ちの我々世代は、学校教育をともに受けられなかったという一種の飢餓感を持っていたので、みな熱心に参加した。二十年近く経った現在も細々ながら続いている。この読書会のことは二七六号「今これに夢中」欄に投稿し掲載されたので省くことにする。

これまで数えきれぬほど多くの文学作品を読み作家の横顔も見えてきた。それぞれ優れた独自の世界を持っていて感動を与えてくれたが、その中で私が最も傾倒した作家を一人挙げるとすれば、やはり堀田善衛を指名したい。少々理屈っぽいが観念的ではなく、情

熱のほとばしるような勢いで持論を展開してゆく、その明快で歯切れのよい文体が好きだ。今も『ゴヤ』を再読中だが、過去の歴史を通して未来を考えることの大切さを、彼の作品から随分と学ばせてもらった。

その堀田善衛もすでにこの世の人ではない。他にもここ数年の間に著名な作家が次々と姿を消してしまい、淋しい限りである。街の書店をのぞいても、ノンフィクションの新書版や実用書が幅をきかせていて、純文学の類は影の薄い存在となりつつあるようだ。時代の流れとはこういうものだろう。今更愚痴を言ってもはじまらない。

足の向く先は結局図書館に落ち着いて、散歩を兼ねてせっせと通っている。館内をゆつくりと歩きながら書棚に並ぶ本の背表紙を眺めていると、かつて華やかに脚光を浴びて活躍していた作家達も、ここではほんと一休みしているようで、心の中であいさつを交わしながらくつろぎのひとときを楽しんでいる。

私の財産

宮城県岩沼市 横山のり子（37歳）

私は現在、月に一〜四冊は本を読んでいるから、まずまず一応は「読書好き」と言ってもよいだろうと思っている。

よく、「幼少時に絵本の読み聞かせをしてもらった子は読書好きになる」という説を聞くが、私の場合読み聞かせをしてもらったという記憶は全くない。物心ついた時には、私はすでに自分で読んでいたようだ。ただ、うちは父も母も本が好きで家には本があふれ、私に与える本もきつと確かな目で選ばれ、惜し気もなく買ってくれていたのだと思う。

『シナの五人きょうだい』や『かもさんおとおり』などの絵本、『エルマー

の冒険』などの童話もいつの間にか身近にあり、夢中で読んでいた。

小学校に上がると、学校の図書室からせつせと本を借りて来ては読んでいたが、その他に買ってもらった本も多かった。この頃の私は自他共に認める本好きで、親戚の間では「あの子のお土産は本。本さえ買って行けば喜ばれる」が常識になっていたらしい。そして好きな作家もできた。『モグラ原っぱのなかまたち』の古田足日。初めて知ったのは『大きい一年生と小さな二年生』だったと思う。これは小学二年の時に、読書感想文を書いた覚えがある。そして五年生の時に読んだ『宿題ひきうけ株式会社』。同級生にも貸し

てあげたら、その子も気に入って、何人かで組んで実際に宿題をお金で請け負う株式会社を作った。もちろん、すぐにやめることになったけれども、古田足日のお話の中の子どもたちのように、男女混ざっての「仲間」ができて嬉しかった。

それから、『ドリトル先生』シリーズや、ポプラ社の「世界の名著」の中から『小公女』『小公子』『アンクルトムの小屋』『赤毛のアン』なども買ってもらって読んだ。特に、『赤毛のアン』にはひきこまれ、続編があると知ると自分でバスに乗って本屋に行き、何冊かずつ買って来ては読んだ。これが小学六年の時である。ほとんどの少女がそうであるように、私はアンに感情移入し、空想しながら明るく強く生きていく姿に憧れていた。

実は、ちょうどこの頃から私は読書記録をつけ始めた。初めはカード、間もなくノートになり、現在に至る二十五年間とぎれることなく続いている。今回、特集のテーマが「私の読書歴」

だと知って書いてみようと思ったのは、この読書ノートがあったからだ。今改めてページをめくってみると、その書名や感想から当時の私の姿がよみがえり、なるほど「自分史」だなあとしみみ感じる。

中学に入ってから、岩波少年文庫にお世話になった。『ガリヴァー旅行記』や『三銃士』など、完全版ではないものの、以前子ども用に書き直された物を読んだのとは、また違った深さ、おもしろさを知った。

中学一年の秋頃から、『今昔物語』を読んだのをきっかけに、日本の古典シリーズにはまっていく。『平家物語』『保元・平治物語』『信長記』など、合戦ものまでどんどん読んだ。男の子が戦いをテーマとしたアニメに夢中になるように、私も武士の力強さ、かっこよさにひかれていた。また政治力や世渡りのうまさについても考えさせられた。

その後の二、三年は、ふと手にした一冊から星新一のショートショートに

夢中になり、次から次へと何十冊も読んだ。これは短編のSFで、世の中を風刺したものが多く、とにかくおもしろくて読みやすい。

この頃は中学の後半。児童文学はそろそろ卒業して、本格的な大人の小説を読む年頃だとは思いつつ、その乗り換えがスムーズにいかなかった。当時私が読んだものといえば、ジョイ・アダムソンの『野生のエルザ』シリーズ、佐藤さとの『だれも知らない小さな国』から始まるコロボックルシリーズ、古典落語、怪盗ルパンシリー

ズ、北杜夫の『さびしい王様』シリーズ、そしてあとはすべて、星新一のショートショートであった。

今考えれば何もあせる必要はなかったし、このような作品も決して無意味ではなかったのだが、当時は私だけが足踏みしているように感じていた。父や母の読んでいるような大人の本は、ずっとこのまま読めないのではないかと不安になっていた。

そんな私を気にしてくれたのか、私が高校に入った頃から、父母はさり気なく、よさそうな本を紹介してくれる

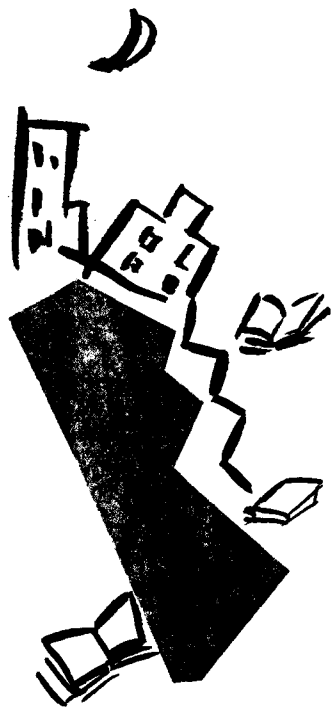


ようになった。

世界的な数学者藤原正彦のエッセイ『若き数学者のアメリカ』は、私が数学大好きだったからという訳ばかりでもなく、ケラケラ笑うほどおもしろかった。そして、アメリカとアメリカ人のことがよくわかった。異文化との接触による苦労やおもしろさがうまく書かれていたのだ。私が大声で笑って、「おもしろかった」と言うところを紹介してくれた父も嬉しそうだった。

エリック・シーガルの『ラヴ・ストーリー』を勧めてくれたのも父だった。これにはまず年頃の娘として純愛にひかれた。そのあと親子関係についても、この作品で考えさせられた。父親に対してかたくなに心を閉ざしていた主人公のオリバーが、愛するジェニーを亡くした時、生まれて初めて父の胸で泣いたというラストシーンには、じーんときた。「ラストシーンがいいよね」と、父と私は意気投合したのを憶えている。

「若い作家だから、理解しやすいかも



よ」と高橋三千綱の『九月の空』を買って来てくれたのは父だったか母だったか。これは主人公が自分と同年代だったので、感情移入できておもしろかった。そしてやはり恋愛がらみの部分にはワクワクして胸がときめいた。

思えば『赤毛のアン』の三作目を何度も読み返していたのもこの高校時代である。アンが恋愛に悩んだり、何人からもプロポーズされたりするのがこの三作目『アンの愛情』。女子校だったし、奥手だった私は現実に彼氏を

持ったこともなく、恋愛への憧れをことうした本の中でふくらませていた。『アンの愛情』は、落ち込んだ時や勉強に疲れた時など何回となく読んだが、もつと年齢がいつてから読んだ時「なあんだ。わざとらしい」と急に冷めてしまった。やはりこの年頃ゆえに心をつかまれたのだろう。もちろん「アン」そのものへの愛着は今でもあって、本棚に全巻並んでいるけれども。

さて、高校一年の最後に衝撃的な出会いがあった。倫理社会の授業でとり

あげられたという、三浦綾子の『塩狩峠』である。授業のためにそれを読まれた先輩たちは皆ボーツとなつて、『塩狩峠』つていいよ。いいよ。読みなよ」と口を揃えた。そして私たちは勧められるままにそれを読み、大流行していった。

列車の一両だけが離れてしまい、坂を逆行してすべり落ちていく事故。脱線・大惨事を目前にした時、主人公は自らの命を犠牲にして列車の前に身を投げ出し、その身体で車両を止めた――『塩狩峠』はキリスト教の色濃い物語である。これが、女子高生の心に、実にまっすぐ入ってきて、感動の渦がわき起こった。特に私は感動の涙・涙で、こんな素晴らしい人間になれるのなら私もクリスチャンになろうかと考えたほどだった。当然ながらそれから図書館にあるだけ全部の三浦綾子の作品を読みあさることになる。

また同じ頃、石坂洋次郎にも凝り始めた。「さわやかな恋愛もの」という印象で気に入る、こちらも続けて何作

も読んだ。が、「石坂洋次郎なら『若い人』だよ」と父に言われて読んだ『若い人』は私には難しすぎて、理解できなかった。「これを読むには私はまだまだ未熟なのだ。くやしいけど」と読書ノートに記している。

そんな風にして、気づいたら私も大人の小説へ足を踏み入れていた。しかし、『若い人』でくやしい思いをしたせいか、「もっと純文学を読めるようにならなくちゃ」という気持ちにせかされていく。

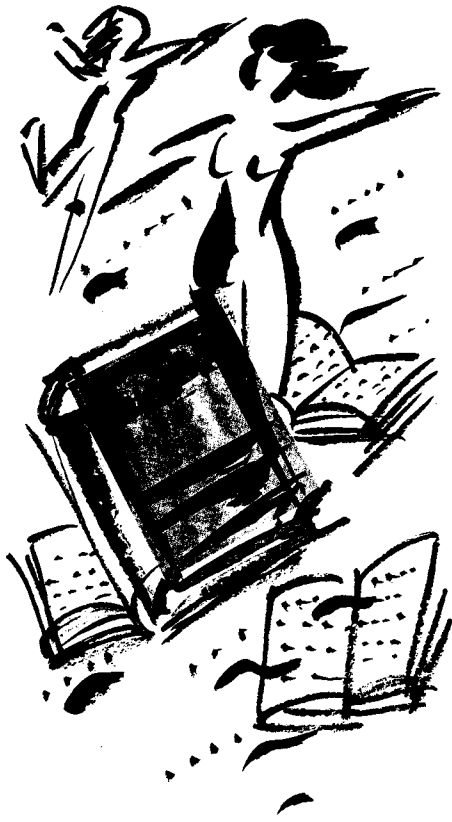
母は長年、地域の社会学級の読書クラブに属し、熱心に活動していた。毎月皆で同じ本を読み、感想を述べ合うもので、私にはそれがうらやましくならなかった。

そこで私は、幼なじみの親友R子と二人でそのミニ版を始めることにした。交替に課題図書を決め、約束した日までに読んで感想を書いて投函する。相手の感想に影響されないように、同じ日に投函するのがポイントだった。そして数日後に届いた相手の



感想を読み合う。受験生時代は中断したものの、これは高校二年から大学を卒業するまで約六年間続いた。一冊めは武者小路実篤の『友情』で、課題図書は次第に、とつつきにくい純文学に片寄っていった。初めはそんなつもりもなかったのだが、前述の通り私に

「純文学を読めるようになりたい」という気持ちがあったのと、R子も「こういう強制力がないと読み通せそうにない本」という基準で課題図書を選んできるとなってきたからである。だから、ただの読書好きであって文学少女ではなかった私には、かなり背伸びし



たものとなった。

それでも徐々に自信をつけた私は、家にズラリと並んでいた中央公論社の「日本の文学」シリーズに目をつけた。その中から川端康成や三島由紀夫、石川達三の巻を次々と読んだ。

そのようにして石川達三の『幸福の限界』を読んだのは、私も結婚を意識し始めた二十四歳の時だった。

この小説は確かに古く、時代が違ってから、かなりのずれはあるけれど、考えさせられることがたくさんあった。テーマは結婚と女の生き方についてに絞られている。姉の結婚生活について投げつける主人公の言葉「良人がいるから女中じゃないと思ってるんですよ。そんなの嘘よ。……つまりさ、性生活を伴う女中じゃないの」は、私の心にくっきりと焼きついた。また、大恋愛の末結婚することになった主人公は、あえて姉と正反対の質素な結婚をするが、「品物の少ないことが豊かな愛情を証明してくれるようにさえも思われた。これは自分の心の中にある虚

栄」であるとの一文も私には重く響いた。私は、まさにそちらの虚栄にとらわれていたから。この本に出会わなかったら、私は結婚の際「披露宴はしたくない。家具もいらない」と我を通して親を悲しませたかも知れない。

新聞小説『ドナウの旅人』で初めて宮本輝を知ったのも同じ頃だ。新聞小説を毎日心待ちにして、最終回まで読んだのは今までにこの作品だけである。この後、母と競うようにして『春の夢』『優駿』『青が散る』と宮本輝の素晴らしい作品を続けて読んで、すっかりファンになった。彼の小説とエッセイは、最近のものを除いてはほとんど読破している。

やがて私は結婚し、子どもも次々と産まれた。そして育児サークルにもいくつか入ってみた。それは子育てには大して役に立たなかったが、そこで思いがけぬ出会いがあったのだ。

育児サークルの活動の代表的なものとして、回覧ノートがある。四、五人でやる交換日記のようなもので、郵送



で回していく。それぞれのノートには「平成〇年生まれの子のママのノート」とか「料理好きの人のノート」などのテーマがあるが、そんな中で「本好きの人のノート」というのが成立し、私も入ることができたのである。

たいていの回覧ノートは長続きしないが、このノートはもう五年も続いている。メンバーは一度も面識のない五人。しかし本についての話題ということで種は尽きない。最近読んだ本について紹介し合い、「私も読んでみた」と感想を交換したりする。ドナ・ウィリアムスの『自閉症だった私へ』や、門野晴子の『老親を棄てられます

か』、最相葉月の『絶対音感』などはノートの中で話が盛り上がり、何人ものメンバーが次々と読んだ。そして、私がとりあげた『大地の子エイラ』（ジーン・アウル）とそのシリーズには特に大反響があった。五人のうち私を含め四人までが夢中になって三冊ずつの第四部まで計十二冊を読み、続編を待っている状態だ。

今では新聞の書評欄とこの回覧ノートが、私の本選びの主な情報源になっている。

こうして私の読書歴を振り返ってみると、父母の影響が大きかったことに気づかされ、正直言って驚いている。「絵本の読み聞かせ」こそなかったものの、所要所で適切な本をさり気なく与えてくれた。私は今まで自分で選んで読んできたつもりでいたけれど、詳しく思い返してみると父や母の声がよみがえってくる。

今は父も母も、すでにいないけれども、両親が私にくれた財産は大きいものだったと心から感謝している。

暮らしの中の活字の世界

横浜市都筑区 ゴール

本を読まなくなったのはいつからだろう。小さい頃はあんなに読書が好きだったのに、厚い本でも根気よく読んでいたのは高校一、二年くらいまでだ。受験勉強と共に楽しみのための本を捨てた。その後の人生では、現実世界で生身の人間と共に生きていることの方がずっと魅力的なことになった。

だからわたしは一番本を読むべき学生時代にろくな本を読まなかった。読んでも忘れてしまった。本をわたしに薦める奇特な友人もいなかった。けれど親身になってわたしに人生を語ってくれたり、相談にのってくれる友人は得られた。あの頃は知性すらファッションの一部で、読む本によって自分

を飾ることくらいしか興味がなかった。

社会人になると通勤時間に本を読む時間はできたが、頭が麻痺していて、読んで疲れるような本は見たくもなかった。「通勤電車の中で、大の大人が少年向けのくだらないマンガ本を読んでいる姿が情ない」という高校生の投書が新聞に載っていたが、なんとなくマンガ本を開いてしまう気持ちも当時のわたしにはわかるのだった。時間と書類に追われて精神だけがぐたぐたになってしまふと、もう、難しいことは何も考えたくないという放心状態になる。そのころのわたしのオフは遊び歩いているか、家にいてもひたすら寝

ているかの生活だった。

結婚、妊娠、退職、出産と人生のドラマが続いた。その時々役に立って、心にひびくのは、人生の先輩から語られる生きた言葉だった。親であつたり、親戚であつたり、会社の先輩だったり、多くの方に見守られているという実感があつた。

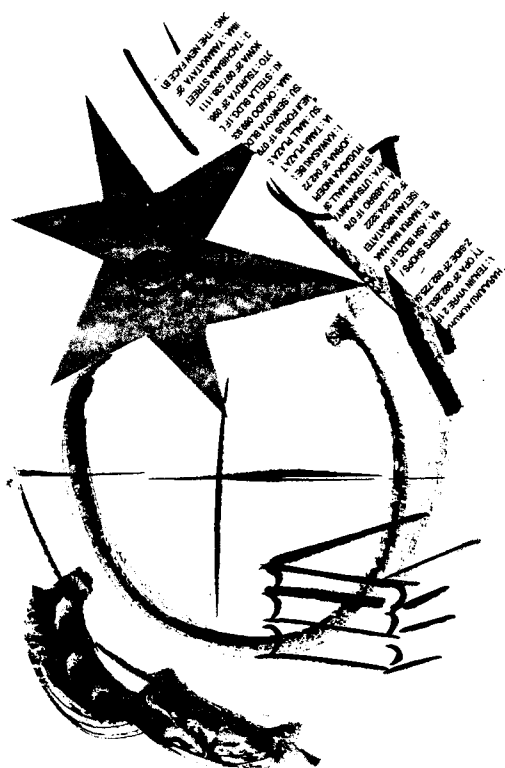
三センチもあろうかという育児書は、結局最後まで読み切らなかつた。それでも子供は育っている。

ところが無性に本が読みたくなったのだ。それもよりによって子育てで一番自分の時間がとれなくなつた頃だ。日がな一日、泣くか、飲むか、寝てるかの子供と二人つきりで、社会から隔絶され、大人との会話がなくなり、からだは使うが頭はからっぽの毎日。誰かと話したい、どこかへ行きたい、育児と別のことがしたいとひたすら望んだ。

それまでは映画やビデオやテレビのドラマも好きだったが、子供が生まれてからは見に行く時間はおろか、家で

からつぽの頭でまず遊びに行ったのはエンターテイメント系の本の世界だ。読むだけでわくわくどきどきできるなんて、久しく忘れていた感覚だ。服部真澄、皆川博子、坂東真砂子など、職人技が光る長編を好んで読んだ。読んでいるときは日常を忘れた。読んでしまえば本の中身もきれいに忘れた。

本は読みかかったが、本屋に行つてじっくりと本を探す時間も、面白そうな本を見抜く目もわたしにはなかつた。その頃から、新聞に載る書評をもとに読みたい本をピックアップし、図書館に予約してそろえてもらうということをしてゐた。一見面倒な手続きの



ようにも見えるが、これだととりあえず読みたいと思った本を逃すことはない。今ならインターネットを使って市内にある全図書館の本が自宅で検索できるのだ。しかし人気の本は二カ月、三カ月待ちということもしばしばで、世間が忘れた頃に話題の本を読むなんんてこともざらだ。このやり方のいいと

ころは読みたい本をもらすことなく（いつかは）読める、二度と読まないであろう本をわざわざ買わなくて済む、おもしろくなければ読まずに返せばよいということ。ただし返却期限内に読み切ろうとするとなかなかじつくり読めない。

自分で働くようになったら、**気の済**

むまで本屋を散歩し、欲しい本はとりあえず買うという贅沢を試してみたいものだ。また「あの本のあの言葉」を思い出したいときに手元に本がないのも不便。読む冊数が少なかった時は、忘れたくないフレーズをワープロに入れたりしていたのだが、これでは入力する時間をもつたない。それでも読みたい本は多いが、買ってまで欲しいと思える本は相変わらず少ない。

読書のいいところは活字を通して別の世界を生きられることだと思っていた。すべてのことを経験しつくすこと

などできないのだから、誰かの目を通して、誰かの人生を生きることが限られる生を豊かにすると思っていた。

ところが何かに迷っていて、結論が欲しいとき、読書は考える材料にはなっても、問題の解決には何の役にも立たないということを、最近特に思うのだ。

今、読んでも読んでも結論の出ない世界に迷い込んでいる。それは、男と女のこと、結婚、愛、エロスについて。きっかけは佐伯順子の『色』と『愛』の比較文化史（岩波書店）だった

たと思う。

「愛」は男女が結婚という形で『一對一』かつ『永遠』に結びつくことを理想としたのに対し、『色』は複数の相手との交際を通じて感受性を磨くこと。甘美な男女関係は非日常性にしかありえない」というあたりで、自分が抱いていた愛が幻想であることに気付く。更に、日常を共に生きる夫婦間にエロスの介在することの難しさに思い至り、『色』に見る行動の美学に惹かれるものがあつた。

でもきっかけがその本のせいだというより、今在る自分がまったく自分で理解できない、納得いかない存在になってしまったから、自然とそういう本を手にとったのだろう。わたしは好きな人と結婚し、自分の意思で専業主婦を選び、子育てだつてそれなりに楽しんできたつもりだ。なのに三十五年生きてきた中で、今が一番淋しいのだ。愛する人と共に暮らし、五歳の子供はまだまだ母であるわたしを頼っているのに、わたしはわたしの人生を生



きているという実感もない。愛って何。結婚って何。男ってなに。エロって何。手当り次第に読む、とはこのことだ。今、読んだ本が本棚に並んでいなくて本当に良かったと思う。愛だの、エロスだの、快楽だの、発情だの、中身はどれもいたってまじめなものばかりだが、背表紙だけ並べたら、かなり過激だ。それもほとんどが女の人の書いたものなのだ。誰かが言っていた。「女は愛を語るために生きているのではあるまいか」。

男が語るエロスの世界ではやはり川端康成が心にしみた。『片腕』を読んだとき、「どうぞ、よしなに」とこの身を捧げたいと思ったくらいだ。しかし男の語るエロスと、女の目から見たエロスはかくも違うものなのか。

しよせん女と男は相容れない、理解を超えた異文化だ、とわかったふうなことを言っても、じゃあ、現実のこの生活をどうするのだ、というところで結論が出ないのだ。

本もいくら読んでも読みっぱなしで

はなんにもならない。わたしはこう読んだ、こう思うということをして、誰かと語り合いたくなるのだ。語って初めて自分の中で言葉が消化するような、こなれる心地よさが生まれる。でないとなたしのように人を信じやすい奴は、いちいち読んだ本に影響されて、「専業主婦は子供をだめにする。早く家を出て、働かなければ」と、短絡的に思い詰めて行動してしまう。それではやはりいくつ人生があっても足りない。

問題は「専業主婦が」ではなく、「子供をだめにするような」生き方の方だ。特に人間関係に関してはいくら本を読んでも実践が伴わないと、頭でっかちになるばかりで、かえって身動きがとれなくなる。それもなんだかおそろしい。

そろそろ、実践の時にきている予感もそこはかとなくするのだ。活字を頭に詰め込んで実践へ、実践に疲れては活字へ、わたしの読書歴はこのサイクルを繰り返している。

(え・カステラネンコ)

わいふ文章講座のおすすめ

公民館 女性センター、社会教育課などのご依頼で、しばしば「わいふ文章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、「わいふ」から巣立ったライター達を講師とし、五回から十回までのコースがあります。

その他に、「子育て」「教育」「女性」「高齢者」「社会参加」など、各種の問題について講演をいたします。老人ホーム情報センター主任研究員の水落も担当します。

お住まいの地域で開きたい方は、お電話をください。資料をさし上げます。それを持って公民館、教育委員会の社会教育課などに開講を頼んでみてください。引き受けてくれるところも多いと思います。

●PTA主催の成人教育、家庭教育学級での講師としてもご依頼ください。

倒産する老人ホーム しない老人ホーム

安全確実な選び方

わいふ編集部 編



わいふ編集部編
ミネルヴァ書房
本体1800円+税

東京都品川区 佐藤ゆかり

火の車の台所事情をひた隠しに、高齢者から入居金や介護料などを集めた末に倒産。入居者はお金に戻ることもなく、退居させられた。

有料老人ホーム倒産事件の被害者（わいふの会員）が綴った「第一章」は、まさに怒髪衝天もの。そのずさんな経営、のらりくらりの答弁で入居者への返金を拒み続ける社長や施設長の姿は、読んでいるだけで頭に

血がのぼってくるほどひどい。

しかし、「有料老人ホームは危ない」と言っている本ではない。こういったトラブルに巻き込まれないために、安全・確実なホームの選び方を後章でまとめてあるのだ。

では、どんな有料老人ホームならば安心なのか。それは「第二章」を読むとわかる。

もちろん、有料老人ホームが私企業である限り、どこも「倒産しない」とは言い切れない。実際、いくつかのホームが倒産した例があるそう（ただし、経営者が代わるだけでホームは存続。入居者はそこで生活を続けている。消滅したのは第一章で告発されたホームだけとか）。だが、どの業種にも多くの優良企業があるように、「そうとう安全な

ホームもある」と第二章の著者である「わいふ」の和田副編集長が言う。そして、入居者数や入居金、介護などの点から、安全なホームと危険なホームの見極めポイントをわかりやすく解説している。

「第三章」は、老人ホームの代表的存在とも言える特別養護老人ホームについて。特養ホームは公費で運営されており、お上だからと信用されるが、実態は民営が大部分。全国の特養を訪問調査した著者によると、不正経理や事故、職員による入居者へのいじめ・虐待などが少なくないそう。これらの不祥事から特養の問題点が指摘されている。

ホームの実情を冷静に分析している本書。老人ホームへの入居を希望する人の「必読書」と言えそうだ。

発熱——熱性けいれんのあとに——

西尾裕子（39歳）

昨年夏

多久馬が生まれて初めて熱を出したのは、一歳二カ月のときだった。

夜、急に熱が始め三十九度を超えてしまったので、日赤病院の救急外来に向かっていた。その車中で多久馬は意識を失った。

病院へ担ぎ込まれたとき、多久馬は白目をむいて、よだれをたらし、片手

を上げてそり返っていた。不安で胸が張り裂けそうだった。

多久馬の意識はなかなか戻らず、私は待合室で長い長い時間を過ごさなければならなかった。ひよつとして、このまま多久馬は死んでしまうのではないかと思った。多久馬のいない空白の自分を思った。恐かった。生まれて初めて味わう、心の底からの恐怖だった。

何十分か経って処置室に呼ばれたときも、多久馬の意識は戻っていなかった。

た。酸素吸入器を口に当て、呼吸数や心音を測る機械をいくつもからだに付けた多久馬がベッドに横になったままになっているのを見て、私はこのまま自分も気を失ってしまったらどんなに楽だろうと思った。私は、ただ「ああ、ああ」と言葉にならない声を発してしゃがみこみ、夫の足にしがみついていた。「このまま意識が戻らなかったら人工呼吸器をつけます」という医師の声が、胸に突き刺さった。多久馬の意識が戻ったのは、それから

ら五十分後のことだった。ベッドの上の多久馬の手が動いた。顔が動いた。生きています！

「たくちゃん！　たくちゃん、たくちゃん！」

私は、まだ意識がもうろうとしていた多久馬に向かって、何度も呼びかけていた。

原因は発熱による「複合型熱性けいれん」。けいれん時間が長かったので、多久馬はそのまま一週間入院することになった。入院中も多久馬の高熱

は続いた。死の恐怖は去らなかった。私は病院で、毎晩悪夢を見た。私の心には、少し傷ができてしまった。

退院後

けいれんを起こしたのは夏の終わりだった。病院にいる間に、秋がそここに顔を見せ始めていた。

涼しい風が吹く。木の葉が一枚一枚違ったふうによれていく。ああ、いい日だ。多久馬は生きている。

私は涼しい風を受けて、心から幸せ

を実感していた。このままずっとこんな日が続くといい。多久馬がかぜをひかなければいい。

かぜをひいて熱が出たらどうしよう。

思考はそこで中断し、混乱した。幸せのどこかに常に恐怖があった。またけいれんを起こす。そして今度は本当に死んじゃうんだわ。あるいは脳に障害が残る。

怖い……。

私は、そろそろ肌寒くなってきた空気の中で、これから立ち向かっていく何かを思った。それは黒い塊として、目の前に確かにあった。

私は多久馬の退院時に、二つの葉をもらっていた。ひとつは解熱剤。三十八度五分以上熱が出たら使ってくださいと言われている。もうひとつはけいれん止め。

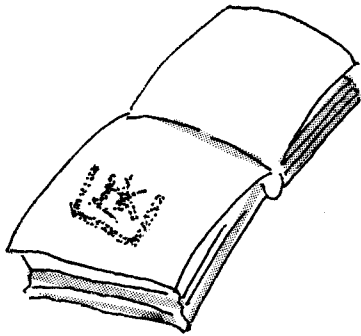
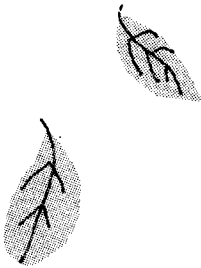
医者言葉を思い出す。

「一度けいれんを起こしたことがある子は、二度目も起こす可能性がありま



す。全員が起こすわけではありません。何分の一かの確率で起こす子がいられるという意味です。それを予防するために坐薬を出しておきます。熱性けいれんは熱の上がりはじめに起きますので、熱が上がってきて七度五分以上になったら入れてください。その後解熱剤の坐薬を三十分以上あけて使ってください」

多久馬は熱を出すことなく、季節の移ろいにも上手に乗っかって生きていた。それなのに私は、しょっちゅう多久馬の熱ばかり測っていた。



それから、医学書も何度も読んだ。

「熱性けいれんは、熱が急上昇するときにひきつけるもので、後遺症は全くなく、特に心配のない病気です。ただし、次のようなことがあるときは、精密検査が必要です。……③ けいれん時間が長いとき（三十分以上）」

カッコ三十分以上！

「後遺症は全くなく、特に心配のない病気」という文字は、そのカッコ三十分以上で全て消滅してしまった。五十分もけいれんが続いたとそればかりが気になる。

多久馬が寝ていると口元に手を持っていき、息をしているか確かめるのが癖になっていた。

ずっと熱が出ないといい。

生きて二歳を迎えよう。多久馬。

私は、いつもいつもそう思っていた。

発熱

よりによって十二月三十一日、「あとは台所の掃除と廊下の掃除」と思いながら多久馬をひよいと抱き上げたら、彼は熱かった。

とうとう来たか。冬の間に一度はかぜをひくだろう覚悟はあったのだ。

多久馬、お願いだから乗り越えて。

私は体温計を多久馬のわきの下にはさみながら、祈るような気持ちでつぶやいた。

実は多久馬はインフルエンザの予防接種を、前分だけしかしていなかった。

た。それもけいれん後、三カ月のときに打った一回のみである。

普通熱性けいれんを起こすと、三カ月から半年は予防接種をしてはいけないことになっている。予防接種の副作用で発熱することがあるからだ。発熱すると再びけいれんを起こす可能性がある。多久馬は夏のけいれんから、まだ三カ月しか経っていなかった。しかしインフルエンザの予防接種は受けておきたかったのだ。そちらの発熱も恐かった。迷って医師に相談した結果、予防接種を打ちましょうということになったのだった。

接種当日は発熱もなく、ほっと胸をなでおろした。一カ月後にもう一度打てば、インフルエンザの予防接種は完了になるはずだった。しかし信じられないことに、二回目はワクチンがなくなってしまうて打てないと言われた。

インフルエンザのワクチン不足は社会現象化していた。ワクチンはどこを探しても見つからない。なんとということだ！

三十八度一分。

私は多久馬の体温計をわきの下から取り出して、この熱はインフルエンザなのだろうかと思った。一回の予防接種では効かなかったのか。それとも全く別のかぜなのか。

「パパ、三十八度一分！ けいれん止め、入れるね」

私は冷静に行動しようとしていた。

夫にそう告げると、けいれん止めの坐薬を取りに走った。やるべきことをきちんとやる。そうしないと不安が心に入ってきそうだった。

「まず、かかりつけの医院に電話をしないさい。小田さんだね。それで大丈夫だったら、休日診療にかけよう」

夫も「慌てないように」と自分に言い聞かせているようだった。冷静な指示が飛んだ。

病気には暮れも正月もない。なぜこの期間、病院はどこも休みになってしまふのだ。正月も開けている病院だつてあつてもいいではないか。かかりつ

けの小田医院は電話が通じなかった。

休日診療所は、留守電が冷たく言った。「本日はお休みです」。だから休日診療って言うんじゃないのか。

結局、救急救命センターに電話をして、日赤病院の救急外来につれていくことにする。

「つれていつていただいてもかまいませんが、日赤の今日の担当医は産婦人科ですよ」

だからなんなのよ。だから子どもが熱を出してもほっておけというの？ けいれんが起きて死んじやつても、ほっておけというの？

私は市内の全ての小児科医が、今ごろ家の中の片付け物をせっせとやっているだろうことに、妙な違和感を覚えていた。不思議に怒りは沸いてこなかった。しかし、なにかエネルギーが違ふところについてしまっているような気が、しきりにしていた。

けいれん止めを入れて、きっかり三十分。今度は解熱剤の坐薬をお尻に入れる。そしてすぐ日赤へ。

病院へ向かう道すがら、私の脳裏に、車中で気を失った多久馬の様子がよみがえった。この角を曲がったところで、多久馬が「う」と声を出した。そして気を失ったのだ。私は思わず「同じ道を通らないで!」と叫びそうになっていた。心の傷に何かがさわった感じがした。

日赤病院は人でごった返していた。「ただいまの待ち時間は一時間です」という札がかかっている。暗くよんだ空気の中で、誰もが口を閉じてじつと順番を待っている。看護婦さんだけが診察室から出たり入ったり、小走りに動き回っており、何かそこだけが少し明るく、生きている感じがある。病院が休みだったため、手遅れで子どもが死んでしまったという話を何かで読んだ。こういう状態だったんだろうか。こういう状態のときは、子どもが死んでしまうことが今でもあるのだろうか。たかが熱性けいれん。心配し過ぎだと医者は笑うだろう。私は、

「死」ばかり思っている。

「西尾多久馬くん」

一時間以上たつて、やっと名前が呼ばれた。

医師は病状を聞くと、多久馬の胸に聴診器を当て、口の中を見て、「けいれん止めの薬が欲しいんですね」と言った。なら、出しませうという感じだった。

「今は解熱剤で熱が下がっているんですけど、また上がってくるようならけいれん止めを入れればいいですね。とにかく、けいれんが心配で……」。私は、あまり多くをしゃべらない医師に確認をとった。

医師は「はい、そうですね。けいれん止めは十二時間あけて使ってください」と言った。

薬局で薬をもらって帰宅すると、もう昼になっていた。

多久馬は熱がありながらも、比較的元気に過ごし、食欲もあった。

夕方、けいれん止めの薬の中にあつた説明書に、私は初めて気づいた。

「D I A P P ^{グイック}坐薬……挿入して八時間後に熱に関係なく挿入します」

あれ? 日赤で医師の言った「十二時間」とは何なのだろうか。八時間といえは、朝九時に入れて今五時だから、ちょうど八時間だ。

私は、医師の「十二時間あけて」が気にかかりながらも、けいれん止めを挿入した。体温は三十八度九分。二度目の解熱剤を使った。高熱が続く。

解熱剤の効力は何時間なのだろうか。六時間くらいか。夜中に熱が上がつて、けいれんが起きたらどうしよう。不安がからだを駆け巡っている。こわごわ床につくが生きた心地がしない。

夜中の二時。

私は多久馬が燃えるように熱いのに気づいた。熱を計ると三十九度。

寝ながらけいれんを起こすような錯覚に陥った私は、すぐに解熱剤を肛門に挿入した。多久馬はいやがって起き

てしまった。

「寝るときは、けいれんは起きんだらう。」

多久馬がぐずって夫に抱っこをせがみに行く。夫はあきれ返って多久馬をあやしにかかった。結局、夜中に起きてしまった多久馬は、ぐずぐずと明け方までぐずっていた。

だって、恐かったんだもの。多久馬、ものすごく熱かったんだもの。三



十九度もあったらけいれんを起こしちゃうと思ったんだもの。私は、夫に謝るしかなかった。夫は多久馬をずっと抱っこしてあやしてくれていた。

一月一日

とんでもない正月になった。多久馬の熱は上がる一方だった。

午前十時に三十九度四分。すぐさま解熱剤を入れる。一時間おいてけいれん止め。

昼に三十八度四分に下がるが、夜、再び三十九度四分。けいれん止めを入れる。

解熱剤の坐薬については、使い方を知っているつもりだった。

三十八度五分以上あれば使うということだが、三十八度五分以上あっても元気で食欲もあれば、あえて使わず様子を見たほうがいい。からだが熱と戦っているのだから、そうやって子どもは丈夫になっていくことだろう。上の二人の子のときも、ぐったりしていなければ極力解熱剤は使わないようにしてきた。

しかし今回、私は解熱剤ばかり使っている。

多久馬は三十九度以上あっても比較的元気で、不思議なことに食欲も十分あった。燃えるように熱いからだで、がつがつとよく食べる。しかし恐かっ

たのだ。

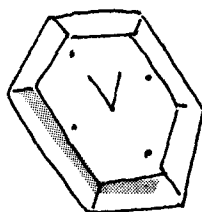
けいれんが恐かった。

また、あのような長い長いけいれんを起こして、脳に障害でも残ったらと思うと恐くてしかたがなかった。手当てが遅れて後悔はしたくなかったのだ。夫もそれは同様であつたようだ。前回、病院に行くのが少し遅れて、あなつてしまったのではないかという悔いがある。

私達は熱があれば解熱剤を、一応六時間から八時間はあけて、一日三本以内という注意を守りながら使つていった。

しかしけいれん止めについては、その用法がさっぱりわからなかつた。いったいどのくらい効力が持続するのか。強い薬なのか。使いすぎると何か重要な副作用があるのか。熱が続いた場合挿入するタイミングは？ それに、昨日医師の言つた「十二時間あけて」の、十二時間というのはいつたいなんなんだ。

私は混乱してしまつた。

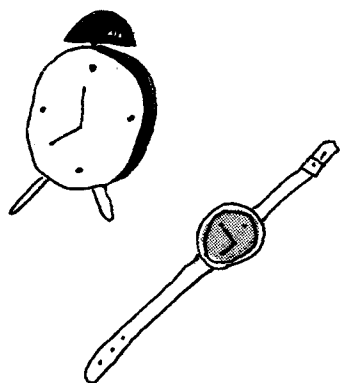


不安ばかりが渦を巻く。正月でなかつたら、こんなことにはならなかつたかもしれない。日赤の薬局に電話すると、「ダイアアップ坐薬は、六時間で効果が切れます」と言われた。

え？ では、医師の言つた十二時間とは？

「昨日先生が、十二時間あけて使うとおっしゃったんですけど」

「前に入れたのが七時ですね。もう十二時間たっていますから、入れていい



ですよ」

????

「強い薬なんですか」

「そんなことないですよ」

六時間で効力が切れるのに、十二時間あけるといふのが解せない。その間にけいれんが起きてしまつたらどうするのだ。

日赤の救急外来は、毎日医師が替わる。とにかく「とりあえず」の診察で、カルテも以前のものは全く渡つて

いない。行くたびに医師に（それも産婦人科の医師だったりする）複合型熱性けいれんが……から説明しなければならぬ。けいれん止めの使い方も、なんだかよくわからないような説明だったりする。

それでも救急外来が開いているだけで、ありがたいと思わなければいけないのだろうか。なぜ正月に医療機関が

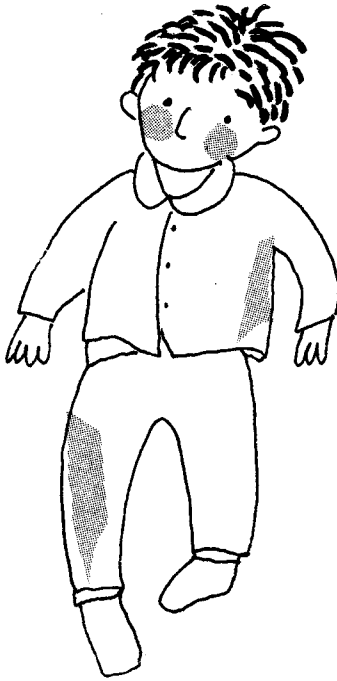
こうまでストップするのか。

一月二日

朝、多久馬の熱が下がっていた。三十六度四分。平熱だ。

うれしかった。乗りきったと思った。もうだいじょうぶだ。

私達はしかし、けいれん止めもなく



なっていたし昨日の高熱のこともあるので、念のためもう一度日赤に行くことにした。あくまで念のため。誰がこれからの状態の悪化を予想しえただろう。

日赤では今日は何科の医師だったのか、

「一月四日に小児科外来に来てください。必ず一度見せてください。一月四日です」を繰り返した。

やっぱり救急はとりあえずの所なんだな。このままよくなっちゃったら、小田医院でいいかな。などと思って、午後は多久馬と遊んで過ごした。

そして夕方、熱が上がってきたのだ。

三十八度七分。まだよくなっていなかった。

一月三日

午前十一時だった。

多久馬の熱は三十九度一分まで上がった。

心臓がひやひやとした。悪魔がその辺で笑っているような気がした。そんなに簡単に治らないのさ。ひひひひひ。もう、四日も高熱が続いている。長い。医者には四、五日と言ったが、こういうときの四、五日というのは、あまりにも長い。

その日は一日中高い熱が引かなかった。私はけいれん止めの効力が切れるのを恐れていた。六時間たったら効力が消える。その後高い熱があつたら、けいれんが起きてしまう。そう思うと恐くてしかたがなかった。

この日は夕方、二度目のけいれん止めを使った。これで七回目になる。今だから言えるのだが、この使い方は間違っている。どう考えても使いすぎだ。どうしてこんなふうになつてしまったのか。医者にきちんと聞かなかった私が悪いのだろう。しかし、それにしても情報が錯綜した。

そして夜、熱はさらに上がった。三十九度六分。

無事朝が迎えられようか。私

は、祈るような気持ちで床についた。「六時間で効力が消える」と言つた薬局の人の言葉が、頭にこびりついてゐる。

一月四日

午前三時半。

気がせいいていた。薬の効力が切れて、けいれんを起こしてしまうと思つた。だからこんな時間に多久馬の熱を計つたり、けいれん止めを入れたりした。まだ三時半だ。

熱は三十九度四分もあつた。

私は三時半から、もう多久馬と一緒に起き出して、応接間で遊んでいた。四時に解熱剤を入れなければいけない。

なかなか熱が下がらない。ため息がでる。

ただ救いといえば、「四、五日熱が続きますよ」という医師の言葉にしがえれば、今日あたり熱が下がるのではないかという希望。それは希望という

より、何か確信に近いものになつてゐた。

解熱剤のおかげだろう、熱がすつと下がった多久馬を見て、なぜか私はもう熱は上がらないだろうと思つた。

今日は四日。夫と日赤病院の小児科外来へ行く。その待合室で私は、きつと多久馬はもう、けいれん止めも解熱剤も必要ではなくなるだろうと思つた。

長い待ち時間の末、名前を呼ばれたときには、多久馬はもうすっかり待ちくたびれてそり返つて怒つてゐた。二時間は長すぎる。

医師は一通り診察を終えると私のつけていた記録を見て、「こんなにけいれん止めを使つたんですか」と、目を丸くした。

「けいれんは熱が上がるときに起きますから、熱が上がりが始めたときに入れてください」

「はい。それで八時間後にもう一度。でも、その後もずっと高熱が続いて、それで、恐くて」

「熱が高いときは、だいたい起こりませんから」

「いつも解熱剤で少し下がります。」

それで解熱剤の効力が切れて、また上がり始めると恐くて、けいれん止めを使っていました」

「まあ、恐いというのはわかりますけどね。一度完全に平熱まで下がって、それでまた熱が出たというのでなければ必要なかったですね。だいたい二十四時間もちますから」

「二十四時間？ 二十四時間、効力があるんですか？」

「そうですね。二回入れると、二十四時間は効いてますね」

うそお！

私は大きな口を開けたまま、しばし固まってしまった。

薬局の人の六時間というのは何だったの？ 大晦日の医師の十二時間というのは何なの？

私は今さらながら、情報が錯綜しているのに驚くばかりであった。

「どうもフラフラしますが」



次に夫が、気になっていることを聞いた。

実はここ二、三日、多久馬はいやにフラつくようになっていた。熱のせいだとは思っていたが、それにしてもフラフラする。少し歩いてはよろけ、少し歩いてはトンとしりもちをついた。

私は、高熱で脳がどうにかなくなっちゃったんじゃないかと思った。夫も心配だったようだ。いや、むしろ夫のほうが過剰に心配していて、昨日は日赤に電話をして「フラフラする」と訴

えていたくらいだ。

「ああ、けいれん止めはね、多少フラ

フラしますよ」

「薬のせいですか」

「そうですね」

「強い薬なんでしょうか」

ここが聞きたかった。使いすぎてしまったという後悔が胸に重い。使いすぎて多久馬がどうかなって、フラフラして、脳が……。

「いいえ、そんなことないです。多少フラつきますが、そのくらいですね」

問題ない。

ほうっ。胸の重いものがすうっと消えた。安堵の息がもれた。医師と話せば不安は少しずつはがれていく。

結局、情報不足が何よりいけない。

一月五日

昨日「御用始」を休んだ夫は、今日から出勤。不幸中の幸いというか、正月だから夫がいてくれた。私一人では乗り切れなかったかもしれない。

多久馬はもうすっかり平熱になっている。きつと、もうだいじょうぶだ。

熱による心配がなくなった多久馬だが、今度はひどい鼻水が出始めている。それはひどい。

からだの機能のすべてを鼻水製造に動員しているのではないかと思うほど、次から次へと鼻水が出てくる。拭いても拭いても出てくる。

義父はそれを見て、「鼻水がでるようになりや、もうだいじょうぶだ。熱が引いて今度は鼻水になった。もう、

治ってく」と言った。

老人は時として、科学的裏づけの全くない、しかし不思議と当たっていることを言う。

熱が下がって鼻水とせきが出る。かぜってそんなものなのか。医学の本にはそんなこと書いてないがなあ。

その日は一日、全く平熱だった。私はこれでもう本当に乗り切ったのだと思ひ、多久馬の体もひとまわり強くなったが、私の心も少し強くなったように感じた。次の発熱のときには、少しは冷静に対処できそうな気がする。

その後

鼻水がひどかったので、一月六日に報告がてら薬をもらいに、かかりつけ医に行った。

「お母さん、それは大変でしたね」

私の話を聞くと、医師はまずそう言った。たったその一言が心に染みわた。「お母さん」という言葉には、血が流れている。

けいれん止めについては、「一度入れて八時間後に追加すれば、二十四時間効果は持続すると教科書には出ています」と言われた。

「教科書……ですか」

「はい、日赤さんのやられるとおりでいいと思います。ただね、それも少し難しいところがあって、万全ではないんですね。僕だったら違うやり方になりますか」

どういう方法なんですかと口に出なかった。しかし医師は、そこまでは話したくないふうだったので、聞けずじまいだった。

「お母さんみたいにね、八時間おきに入れる方法もあるんです」

「あ、それは、私が勝手にやってしまったことで……。使い方がよくわからなくて。とにかく恐かったものから」

「わかります。前にうちでもね、八時間おきに使っちゃったお母さんもいますし」

それはいけないことなんですか。私

は言葉につまった。医師は続ける。

「こればかりはなんとも言えないところがありましてね。そうですね、日赤のやりかたでいいと思いますよ。：なんとね。僕だったらこういう使いはしないんですがね」

後半は自分に言っているようなところがあつた。これで二度目だ。自分だったら違うと言つた。では先生だったらどういふ使ひ方を。

私は日赤で、けいれん止めの使ひ方について、聞く人聞く人言うことが違つたわけがわかつたような気がした。先生によつて考え方が違ふのだ。

そしてさらに驚くことに、先生は多久馬の次の発熱のときに、けいれん止めの「飲み薬」を処方してくださつた。「ダイアアップですか？」と今まで坐薬の名を言うのと、「いいえ、違いますよ。けいれん止めの違う薬です。熱があるうちは十二時間おきに使ってください」と言つたが、けいれん止めにもいろいろな種類があつたのか。

そして十二時間と聞いてピンとき

た。日赤に行つたとき、最初の医師はたしか十二時間あけてと言つた。これか。この薬のことを言つたのか。そもそもその混乱がそこにあつたのだ。薬の名まで言わなければならなかつたのだ。「けいれん止めの薬」ではだめなのだ。そんなこと……。

いつも医者に頼りきつて任せっぱなしにしている自分には、考えも及ばなかつたことだつた。私は納得しながらも、何かしつくりこない思いにとらわれていた。

一月七日

上の子どもたちは、今日が学校の始業式だ。とんだ冬休みになつてしまつた。どこにも連れていつてやれなかつたな。

多久馬が元気になつたら、みんなで水族館に行こうね。

春になつたら、みんなで動物園に行こうね。

(え・田沼千恵)

● 発熱—熱性けいれんのあとに—

★わいふバックナンバー

- 260号 トラブル旅行記
- 261号 嫌われる姑・好かれる姑
- 263号 わが家の親子ゲンカ
- 264号 ふるさとの伝統行事
- 265号 私の初体験
- 269号 再就職で得た仕事・得られなかつた仕事
- 272号 カウンセリング体験
- 273号 子どもとテレビ
- 274号 引つ越し騒動
- 275号 料理と私
- 277号 不妊治療・私の場合
- 278号 “おけいこ”ことゝとの格闘
- 279号 あなたの夫は何番目の男?
- 281号 思い出の地・再訪
- 282号 子育ての損得勘定

自分にあつた高校えらびの決定版 私立高校ガイド
ハイスクールレポート (関東版)

2001年度版

一九〇〇円＋税

シリーズ最後の暮らし

お年寄りが安全に暮らすために

一五〇〇円

変わる主婦・変わらない主婦

一五〇〇円

お申し込みは ☎ 〇三—三三六—〇四七七一

家族の スケッチ

予行演習

川崎市中原区 和田美代子

心配された二〇〇〇年問題は何事もなく新年を迎えたが、昨年新聞で、

「空自機墜落で高圧線切断、交通、ATM乱れる。これにより東京、埼玉八十万戸停電。この大停電で、信号機は点灯をやめ病院では手術中断、酸素吸入器が動かないなど大変な問題を引き起こした」

とのニュースを夫が見て、

「まるで二〇〇〇年問題の予行演習みたいだ」

と言った。「うーん」とうなずきながら、その時丁度朝食の仕度をしていた私は、本当は何の関係もないその話を今の自分に結びつけてしまった。

その時の私は風邪を引き込んで非常に気分が悪かった。しかも、その一週間前に受けた健康診断の結果も良くな

く、「再検査を受けてください」

と言われたことと相まってナーバスになっていた。従ってこの『予行演習』と言ったことを、将来の私たち二人の老老介護とだぶらせて聞いてしまっていたのだ。

現に今やっている朝食の仕度にしても、今日はこうして何とかやれているが、動けなくなってしまうたらどうしよう、と、ひしひしと思う。思うだけならいいのだが、のどの痛さも手伝ってひどく不機嫌になっていた。この私の態度を敏感に感じとった夫は、

「何か手伝おうか？」

と、しおらしく私のそばにやってきた。

「ありがとう、ではこれをやってください」

と、おだやかにお願ひすれば、結婚式の誓いのことは、

「健やかなる時も、病める時も……」を絵に書いたようなシーンになるのだが、とんでもないことを口走った。

「あなたに、何ができるっていうのよー！」

私の頭の中は朝食メニューの段取りが走馬灯のようにかけめぐり、何から手をつけたものか混乱していた。

「言ってくれば、何でもしてやるよ。朝めしが少しぐらい遅くなったって、どうってことないよ」

と夫は、ばかにやさしく落ち着いている。

その時私は、一人で怒っていた自分に気付き、

「これから先、二人のどっちがどうなるか分からない。私が元気で夫が……といった場合はとにかく、私が倒れた時、こんな私の態度では夫が進歩しないし、申しわけない。一つ一つ夫にやれそんなことを頼んで、なれてもらわなくては……」

と懸命に反省して、

「では、このウインナーに斜めに切れ目を入れてゆでて、パンをトーストしてバターを」

と頼む。丁寧なのはいいが、なんとも、もたもたしてお世辞にも上手とは言えない。が、そこをぐっと抑えて、

考えた。

「相手は一生懸命やっているのだから、少しぐらい？うまいくなくてもいい。これからの私は、頼み方というより、してもらい方の研究が必要だ。機嫌悪くなるなんて、とんでもなかった」

夫協賛の朝食もなんとかすみ、風邪を治すには、とにかく身体を休めようかと、くすりを飲んで再び横になる。いつだったか、近所の奥さんと話していて大笑いしたことがある。

「うちの旦那ったら、私が体調くずして寝たとき、『お茶が飲みたい』って言ったら『待っているよ』と言ってコンビニに出かけていって、『オーイお茶』なんか買ってきたのよ。お茶も一人で入れられないのよ、いやになるわ」

の話をふつと思い出し「今日みたいな私の態度は、やる気のある人を駄目にするなあ」なんて考えているうちトロトロ眠りに入る。そういえば人により眠気を催すことがありますと、くすり

の箱に書いてあったつけ……。

ちなみに私たち夫婦は、おじいちゃん、おばあちゃんと共に過ごした経験を持っている。どちらも手がかかって大変だったが、おかげで年をとるということの意味を教わったような気がする。今住んでいるこの家も、一人息子の夫と共に受けついだ。庭の植木も当時は丁度いい大きさがだったが、それぞれ大きくなり、天気の良い日は夫が剪定に苦労している。

「そろそろ甘みが出てきたようだから食べれば？ 風邪にきくよ」

と採ってもらったミカンを手し、今日の朝食の予行演習は無駄ではなかったと思いたい気持ちになっていた。

ただ、二〇〇〇年問題を世界の問題としてとらえている夫には単純に、

「けさは女房のご機嫌が悪かったなあ」

ぐらいいにとられ、この私の小さな(?)心の動きなど通用しそうにないような気もする。

次元の違った話だったか。

さようなら、三年後に

東京都八王子市 浅川涼子

友人に誘われて、和太鼓のコンサートを聞きにいった。「GOCO」という十三人のグループによるパワフルなサウンドに酔いしれて、十一時半ごろ帰宅した。

夫が食堂の椅子に座って、私を睨んでいる。テーブルの上にはグラスが



あって、時計を見上げながら飲み続けていることが一目瞭然だ。

「何時だと思っているんだ。遊び歩いてやがって」

と、怒鳴りだす。ああ、またか、と私はうんざりして、夫の言葉をやりすごそうと思っていると、また夫が喚いた。

「家事も満足にやりもしないくせに、お前は半人前だ。一銭も稼がないのに」

「いい加減にして。私が遊び回っているって、よく言うわ。あなたが退職してから、私の一日を見てきたでしょ。ほとんど家にいるでしょう。出掛けるのはたまにだけでしょ」

私の中に和太鼓の強烈なリズムが響いていて、私は叩きだすように反論していた。

「なにー」

いつものように夫は、私に暴力をふるおうとする。私は雨戸を開け、怒鳴

り声が近所に聞こえるようにして、受話器をとりあげる。

「殴るのだったら、和夫さんと呼ぶわ。迷惑かけるけど、傷害事件になるよりいいでしょう」

このごろ思いついた、近くに住んでいる夫の従兄弟を呼ぶという自衛手段だ。——番通報という手も使う。

真夜中の喧嘩、最高学府を出た人とは、とても信じられない汚い言葉で、私をなじる。

「お前は働きもせず、長い間、誰に食べさせてもらっていたと思うんだ」

おきまりの「働かざるものは無価値」との定説が飛び出してくる。夫の言うように私はずっと専業主婦をやってきた。でも気楽な主婦をやっていたわけではない。夫の両親との同居の中で、私は私の決断で、専業主婦の道を選択してきたのだ。そうせざるを得ない事情があったことを夫も充分承知しているはずなのに、私を責めるときには卑怯者になる。

ドメスティック・バイオレンスは、

身体的な加害だけではなく、言葉の暴

力も心に傷を与えるのに、そんな認識は持とうともしない。ただただ、働いて生活費を得れば、それだけで夫、父親の役割は完璧だと考えているのだから、どうにもならない。夫の育った家庭がそれを容認していた。夫の父親がどんなに暴言を吐こうと、「働いている」のだからと、許されていたのだ。

「離婚」の二文字が、浮かびあがってきた。和太鼓のばちさばきが、十三人の笑顔が甦る。私だって、私のリズムを奏でていいはずだ。もう、私は私の歌を歌っても許されるだろう。長女は結婚し、次女も春には嫁ぐ、三女は就職活動を始めた。準備期間を三年とれば、どうにか私一人で生活できるだろう。

喚き続ける夫に、私は告げた。「三年後に、私は離婚します」私の言葉など聞く耳を持たない夫は、その言葉にも反応がない。ただの脅しだ、とても思っているのだろう。翌日、私は市役所にいった。市民課

で、

「離婚届をください」

と言うのは、とっても勇気がいった。私は久しぶりに自分で自分の背中を押した。

離婚届に署名、捺印をした。日付は二〇〇三年三月三〇日、三年後の私の誕生日だ。

用紙を夫に見せて、私の決心を告げても相変わらずの無言である。この無言も充分にドメスティック・バイオレンスだと改めて思った。無言の刃は癒しがたい傷になるのだ。

離婚届は、「辰宿列張」という四言古詩の色紙を掲げている額の中に入れておいた。色紙の意味は、星はおのおの止まるべき宿りがあって、大空に敷きつらなっている、ということだそう。

私の結婚生活は、「私の止まるべき宿り」ではなかったのだろう。今からでも私は私の居場所を見つけない、と痛切に思う。

(え・小牧あい)

年金で豊かに暮らせる町

わいふ編集部 編



わいふ編集部編
社会思想社
本体1600円+税

東京都新宿区 時尾松子

私の住む新宿区では六十歳以上の高齢者が人口の約1/4強を占めている。そう、回りを見ても老人だけの世帯が多い。わが家もその中の一つだが、年々都会の住みにくさを感じるようになってきた。都心に近いので以前は交通の便利さが自慢だったのに、最近は地下鉄の階段は苦痛になるし、道路は車が一杯に混んで歩きにくく、家は狭いし物価は高い。今や

都会は年金生活者にとっては安住の地とはいえなくなってきたようだ。では老人が安心して住める所はあるのだろうか。本書ではまず、老後の生活を送るのに必要な環境として七つの条件を挙げ、日本各地の中小都市の中からこの条件をクリアした三十都市を選び出して、それぞれの町の特色を詳しく紹介している。都会暮らしに固執せず、ほんとうの豊かな生活を求めて、もっと地方に目を向けようという「国内移住」の発想をうち出しているのだ。

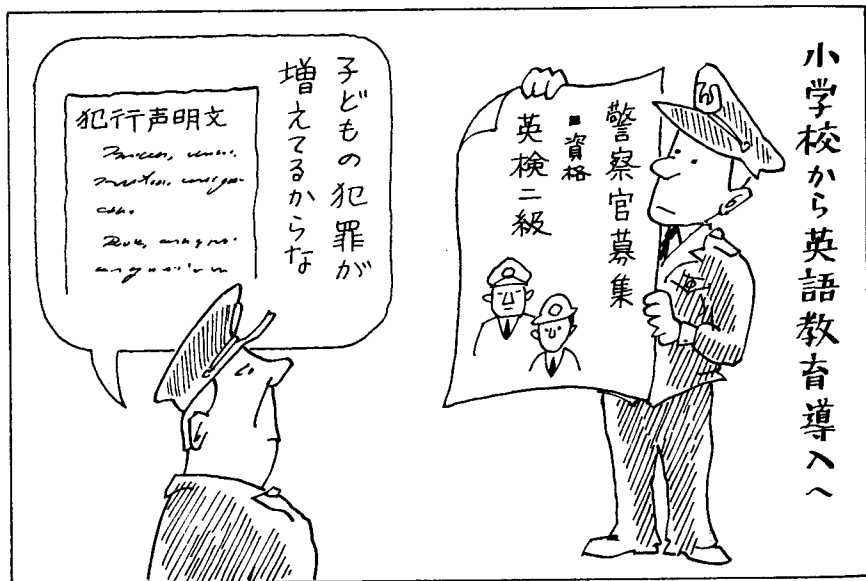
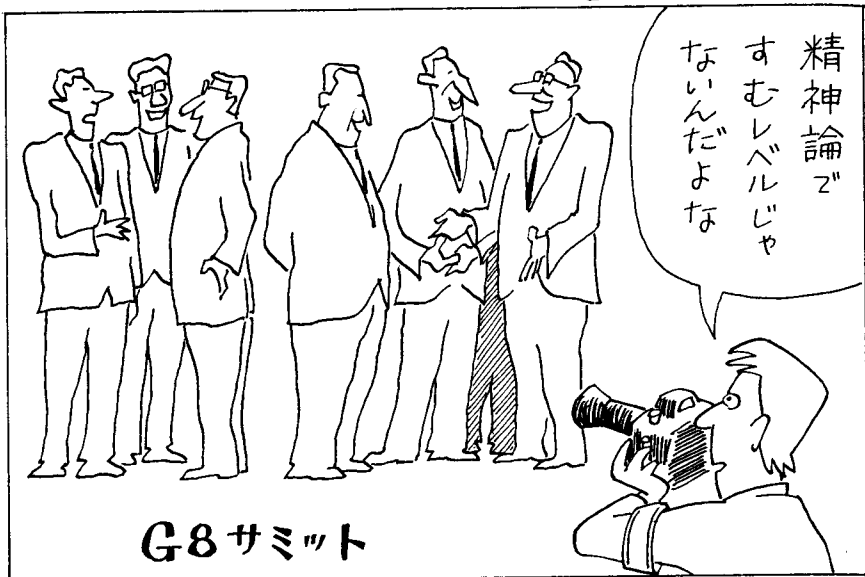
本の中で選ばれた三十の都市名を見ると、やはり気候の温暖な地域が多い。また人口五十万程度の小都市は、周辺にまだまだ豊かな自然が残されていて、新鮮な魚や野菜が入りやすいのも大きな魅力である。

その一方で交通機関や医療など公共の施設は都市化が進んで、東京と較べてもほとんど変わらない程に行政サービスも整備されている。このように、ほどよく都市化された町だと、隣近所とのつきあひも適当な距離を保てる。初めての地に移り住む場合、これは大事なことである。さらに老人ホームやケアハウス等の利用法についても、わいふ編集部独自の調査網を使って、キメ細かい案内が項を別にして設けられている。

年金という限られた収入をいかに安定運用して心豊かに老後を送るか、これからますます重要な課題となるだろう。その意味では目下現役中の熟年世代の人にとっても、将来の設計を立てる上で、きつと役立つはずの情報書である。

英語第二公用語論⁽¹⁵⁾

一筆
両断



議員という仕事に初挑戦

東京都文京区 木村民子（50歳）

「あんだ、本当に選挙出るの。大変だよ。よしなよ。お金かかるよ」

ある会の席上で、町内の顔役が心配そうに、私に近寄り声をひそめて言った。

「ええ、少しは女性も政治の場に出ていかないとね。ご心配なく。私たちは、お金のかからない選挙を目指していますから」

私は屈託なく答えたが、その時は出馬がいかに無謀なことをまだ実感していなかった。

私は東京都文京区で生れ育ち、幼稚園から大学まで区内の学校に通い、結婚相手は中学の同級生、子供たちも私の母校の小学校や中学に通学したりで、どっぷりとこの土地に根をおろしていた。だから、いつか仕事にひと区切りついたら、この故郷の町で何か役立つことをしたいと思っていた。しかし、その気持が出馬に結び付くには、別の理由があった。

「失業！」そう、私はリストラされたのだ。それまで、私はある損害保険会

社が作った女性の会員組織の事務局に勤めていた。バブルと共にスタートしたこのプロジェクトは、バブルが崩壊するとともに事業規模が縮小されていったが、当初は「主婦のシンクタンク」と注目されたように一種の研究機関であり、女性向けの講座なども開催していた。私はその事務局のチーフとして、そうした仕事を通して、女性たちの関心の度合いを調査、研究し、会員との交流を図り、人脈を広げることができた。そして、社会に向けられた

女性たちの関心が政治の分野に及んでいることを感じていた。もちろん私自身も。

「行き着くところは、政治よね、政治をなんとか変えなきゃね。それには、もっともっと、女性議員を増やそうよ」

そうした女性たちの思いが、大きなうねりとなるだろうことを、私は、北京の世界女性会議に参加して以来、肌で感じつつあった。

地元の文京区でも「女性を政治の場へ」という願いをこめて、九七年春にグループが作られ、活動を始めていた。

私はMさんから誘われ、何か手伝いができればと、早速会に加わった。

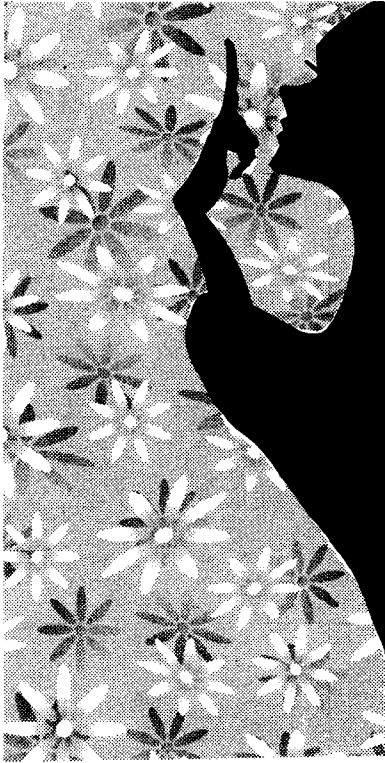
思えば、子どもたちが成長するにつれ、保育園や学童保育の親の会、PTAの仲間とも疎遠になり、私はサラリーマンと同じ様に朝出かけ夜帰るという生活の中で、ご近所と挨拶をかわ

すぐらいのつきあいしなくなっていた。そんな具合で、この文京区がどのようなになっているのかもよく把握していなかったのだ。区長が二十六年間も代わらず、行政は硬直化し、癒着構造や税金のむだ使いがマスコミをにぎわせていた。

「区政を変えよう」と立ち上がった女性たちは、勉強熱心で良心的なN女性議員を市民派区長に擁立した。と同時にその空いた議席を埋め、かつ増やすために区議候補を探すことになった。

その白羽の矢に当たったのが、私だった。しかも、私は八年間勤めていた事務局がいよいよ閉鎖され、春から失業状態になる。そんな私に、Nさんは「あなた、仕事が終わるなら、いい仕事があるんだけど。年齢制限もなく、高給で、勉強したことや、人生経験がいける、あなたにぴったりの仕事よ。やってみない」と誘ってくださった。

確かに、議員という仕事は、男女差別もなく、賃金格差もなく、それまで



のキャリアを生かせる職業ではあった。ことに、少子高齢社会を迎えて、これからの政治は子育て支援・介護などが重要な課題となる。いよいよ女性の出番だ。ためらいつつも、私はうなずいてしまった。

選挙直前に、ある大手の新聞社が私の選挙活動取材してくれた。その時の見出しが「就職試験、受ける気分で」。

「……再就職のノリならもつと多くの女性が出るようになるはず」という私のコメントに偽りはない。しかし、選挙活動イコール就職活動となれば一部の人の反発も免れないし、票にも影響する。これは危険な賭けだった。それでもあえて取材を受けたのは、議員という職業が女性に適した開かれた仕事だということ、そして仕事としてチャレンジした人なら、「名譽職」とか、「先生」といわれて得意になるのではなく、きちんと勤務時間には報酬にふさわしい仕事をするだろう。そういう女性議員などが増えていくことによつ



て、政治の風景も変わるだろうと願ったことだった。私を応援する人たちもおそらく同じ思いだったのだろう。新聞による追い風が吹いた。

私が決心した理由はもう一つあった。女性の政治参画グループに誘ってくれたMさんのお母様（故市川房枝さんの姪）が、かつて区議に立候補し、惜しくも落選。その選挙を応援したのが、私の母であった。そうした母親たちの世代の無念の思いを、Mさんも私も噛み締めていた。

そして時は移り、統一地方選挙に照準は当てられたのだ。Mさんは音楽教室の経営者だったし、自分は適任ではないと私を候補に推薦した。推薦といっても、既存の政党に属するわけでもなく、大きな団体や組織とも全く無縁の小さな有志のグループ内でのことに過ぎなかったが、私たちは夢の実現へ向かって歩き出したのだ。

母は雪辱戦とばかりに張りきりだし、夫や子どもたちは私が言い出したらしきかないという性分を知ってか、

「好きにしたら」ときして反対もなかった。女性が立つ時には、まず夫や回りの家族の強硬な反対で断念する場合が多いそうだが、私の場合は身内の反対は一人もなかった。

むしろ、娘は私の強力なスタッフとなった。社会人一年生となった娘は、あまり丈夫なたちではなく、過労で、その年の暮れに会社を辞めた。失業保険がおきるまで三カ月かかる。その間、中途半端な状況を渡りに船とばかり、私は娘を頼りにした。

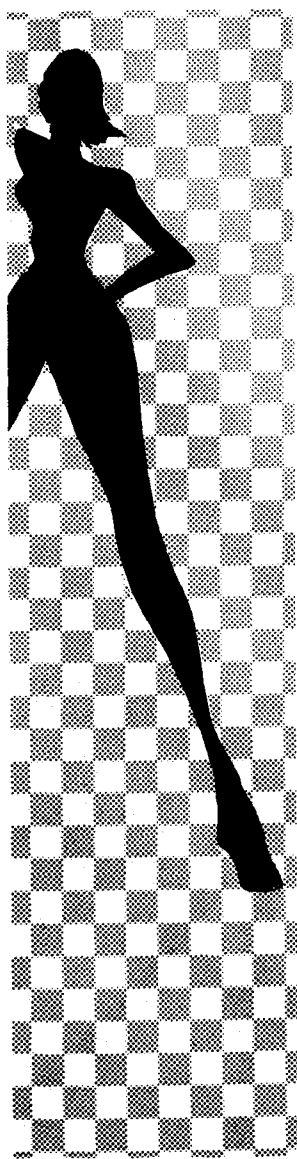
パソコンを使つての名簿管理、車の運転から、ポスター貼り、封筒配りま

で、娘は献身的にだれよりもよく動いてくれた。社会に出て就職経験があったからこそ、ここまでこなしてくれたのだろう。そして、さらにいろいろな大人たちとかかわることによって、自分もこのうえない社会教育を受けたと言っている。

私のほうは、その年の四月から選挙へ向けて体制を整えるはずだったが、さまざまな事情で、結局立候補を正式に表明したのは、翌年の一月になってしまった。それまで何もしなかったわけではなく、支援してくださる仲間作りを有志と始めることにした。個人的

なミニコミ紙を毎月一回発行し、それを皆が手配りで配布してくれた。私が講師となる勉強会も毎月開催し、と同時に関心を持ってきた人脈を生かし、著名な方や専門家をお呼びして、講演会を実施した。

立候補を表明してからは、ますます忙しくなった。選挙戦は普通の「就職活動」とは異なり、一人ではできないことが山ほどあった。長年住んでいたとはいえ、無名の新人は不利だ。私の同級生などはほとんど移転しており、子供のPTA仲間も仕事や介護で忙しかった。ほんの十数人が支援してくれ



たに過ぎないが、その人たちが時間をやりくりして何かと力を貸してくれた。区外の方や地方の友人知人までが、「一票ないけれど」「何も手伝えないけれどせめて」とカンパを寄せてくださった。結局選挙費用は全部カンパでまかなうことができた。

自宅に隣接するアパートは母が所有していたが、借り手の会社が経営不振で急に移転することになった。ここにも不況が影を落としていた。

彼らは、私の選挙事務所にと、引越の際事務机やテーブル一式、本棚など必要な備品をそっくり寄贈してくれた。その空いたIDKを、家賃は出せ払いということで母から借り受け、なんとか事務所も構えることができた。居場所ができると仲間も頻繁に來てくれるようになった。

しかし、リーフレット作成、ポスター作り、立候補届け出の書類作成、収支報告書のための会計などなど、初めてのことはかりなのに、だれ一人選挙のプロがいない。けれど、私も仲間



もB型が多いせいとか、楽天的で「どうにかなるさ」と恐れを知らず、突っ走った。

私の大学時代の親友Yさんは、事務長を引き受け、区外在住にもかかわらず、週二、三回は片道一時間もかけて事務所に通ってくれた。拡声器が借りられなくて途方に暮れていたところを、千葉の他候補から大胆にも車ごと借りてくれたのも、Yさんだった。

松本のMさんは、二度も上京し、素

人ばかりの選対相手にウグイス指南、つまり選挙カーでの声の出し方から言い方などを指導に来てくださった。

区外の方の熱い応援に呼応するかのように、地元の方、知り合いが日を追って応援に來てくれるようになっていった。なにしろ地元からは現役の議員が七人も立候補し、私以外にも無所属新人の若い男性が立候補したので、区内最大の激戦地になってしまった。S通りの商店街を通れば、五、六軒おき

に選挙事務所があるという有様。私たちは表通りに敢えて選挙事務所を構えず、お金をかけない選挙を訴え続けた。電話も自宅と共用、選挙期間中でも電話かけは一切やらなかった。協議した結果、「迷惑をかけることはやめよう」と決めたのだ。

こんな控え目な「就職活動」がどの程度効を奏したのかはわからない。支えてくださったのは、皆ボランティアだった。

障害を持つ丁さんは、電動車いすで



朝な夕な私の街頭演説に立ち会ってくれたし、天気のいい日は必ず路地でのスポーツ演説にもついて来てくれた。娘の友達がアルバイト先を休んで、選挙カーの運転手を引き受けてくれた。叔父も不況で店を閉じ暇になったからと、運転を交替してくれたし、叔母もまかないを引き受けてくれた。会計のOさん夫妻は、選挙期間中に倒れた娘の分まで、夜遅くまでがんばってくれた。Oさんのご主人は定年退職したばかり、私の読書会仲間のM先生もこの

春学校をやめたばかりで、「今まで何も手伝えなかったから」と精力的に動いてくださった。今思えば、フリーターや退職した方たちが私の応援団には多かった。その人たちをはじめさまざまな人がそれぞれの能力を発揮し、骨身を惜しまず、私の就職活動を後押ししてくれたのは、本当にありがたいことだった。実際、「他人のためにどうして、こんなに優しく、ここまでしてくださるんだろう」と涙がこぼれることがたびたびあった。

他人の好意に甘えてばかりいられず、もちろん夫も初日、中日、最後の日に選挙カーに同乗し、ハンドルやマイクを握った。

投票日、開票結果は三十八人中十七位という好成绩だった。奇跡は起こったのだ。

「就職、おめでとう!」

拍手と共に、こんな声が沸き上がった。それは、「万歳」をするよりはるかに素敵な、うれしい言葉だった。

(え・Jasmine)

FREE TALK

フリートーク

夫のひげ

東京都新宿区 林 直美

最近、夫がひげを伸ばし始めた。まああまり長くはなっていないが、彼のひげは、鼻の下から顎にかけて、ぴんぴんとなりふりかまわずにはえていて、見苦しいことこのうえない。カレーや味噌汁がくっつきそうで、いかにも不潔な感じがする（彼は食後にきちんと口のまわりを拭くような人ではない）。はつきり言って、そばで毎日見る私にとっては、苦痛でしかない。

あまりにも面倒くさがりの、不精者の彼が、さらに手抜きを始めたのかと思ひ、ひげそりを持って追いかけたら、彼には彼なりの理由があった。

「僕は年齢より若く見られるから嫌なんだ。職場ではそれなりに見られたい。ひげをはやすと、少しは年取って見えるだろう？」

なるほど、その気持ちはよくわかる。

女性は若く見られる方が嬉しいと言いが、私はやはり年相応に見られてきたので、そう思うのかもしれないが、人間は、やはり、年齢を重ねることで、奥行きのある顔になっていくと思うのだ。たとえしわくちやでも、化粧でごまかしたのではない、美しい表情、輝きを持つ顔というのがあると思っている。アトピーのために、白髪も染められないだろうし、化粧もできない私のひがみかもしれないが、実際にお年寄りの中に、その人の人生を感じさせられるような、はっとする魅力ある顔の人がいるものである。

先日、お見舞いに行った病院で、七十代の女性から、大学生に間違われてしまい、四十歳が目の前の私は、大ショックを受けてしまった。私はまだ人間ができていないのだろうか。大人になっていないのだろうか。それほど行儀ができていなくて、落ち着きがない

かったのだろうか(学生Ⅱ行儀ができていないというわけではないが)。

もちろん、彼女はそんなつもりで言ったわけではないと思う。ただ、彼女から見れば、二十も三十も四十もそれほど変わらないのかもしれない。私に小学生の子供がいると知って、彼女は驚いてまじまじと私を見ていた。

私の何を見て学生だと思ったのか、私にはわからないが、とにかく、それだけ生きてきたという誇りのような、自信のようなものを、私は自分の顔で証明したいのだ。美人でなくて残念だが、世界でたった一つしかない顔なのだから、魅力ある顔になりたいと、私はそう思って毎日を過ごしている。

夫の気持ちはわかるが、それならそうと全体的にカットしてそろえるとか、口の周辺は切るとか、それなりの手入れをしてもらいたいものだ。結局、今度はハサミを持って、夫を追いかけることになり、私自身の精神安定のために、また私の仕事が増えてしまったのである。

副作用・医師との攻防

東京都足立区 須賀まり子

先日、二カ月半通った皮膚科で、薬の副作用のことから医師と険悪な状態になり、いやーな思いで医院を後にした。

昨年十一月末から、近くの個人医院で週に一回の投薬治療を受けていた。「爪白癬」といって、爪の中にカビの菌が入る病気で、右足親指の爪の一部が白く変色してしまった。

持病の膠原病の治療でステロイド剤を服用しているために、それが免疫力を低下させ、そういった感染症に罹りやすい。

処方されたのはRという抗真菌剤で、一日一回一錠、夜のみ服用と指示された。

「これは新薬だから」と初老の医師はやけにこにこしている。以前の薬

は、一回二錠、一日三回の服用だった、と説明する。

ということとは、この新薬はかなり強いということになる。一日一回の服用で、一日三回飲んでいたものと同じかそれ以上の効果を発揮するわけだから、それだけ成分が強くなっているということだ。

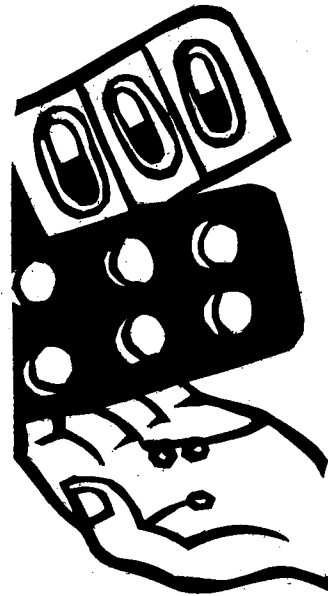
新薬だから、新薬だから、と医師はやけに繰り返す。新薬の何がそんなに嬉しいのか、と言いたくなる。患者にすれば、臨床データの少ない新薬など実験台にされてるようなものではないか。当然、副作用についても分からない部分がたくさんあるはずだ。

その日、肝機能を見るための採血をされた。この先Rを服用していつてどう変化するかを見るためだ。強くない薬ならそこまではしないはずで、それだけ副作用が懸念される。私は一週間分の薬を貰い、少々不安を抱きながら帰路についた。

初めて服用したその晩、激しい頭痛がして夜中に目を覚ました。次の晩に

は幸い起こらなかったが、一応、診察時に報告だけはした。「そのくらいで止めるわけにはいかないから」とあつさり却下される。私も領いたものの、ちよつと腑に落ちない。実は、おしりに赤く発疹がはじめていたのだ。全体に点々と、それが痛痒い。頭痛、皮疹、かゆみは副作用の典型とも聞く。言うべきか言わざるべきか悩んだ末、結局口に出せなかった。こんなところでおしりを見せる度胸など私にはない。

やっぱりおかしい、と思ったのは一カ月くらいして。生理が遅れ、変なおりのものが五日ほど続いた。そして、その後來た生理が今までになく強い。「これはホルモン剤じゃないよ」と私の話を医師は小馬鹿にしたように笑い、聞き流した。ホルモン剤じゃなくったって、口から飲んで血液中にその成分が溶け出せばどこに影響が出るか分からないじゃないか!と言いたかったが、そんなこと言えるわけない。また空しく帰路につく。



その後体調は日を追って思わしくなくなつた。腰の両サイドがずーんと重く、特に明け方が辛い。腎臓なのか副腎なのか、はたまた婦人科系なのか、ともかく苦しい。それに加えて、膠原病の症状の四肢の筋肉の痛みなどが出てきた。薬に刺激されて持病が悪化することは当然あり得る話で、「このままでは薬にやられてしまう」と危機感が走った。

ある日、覚悟を決めて医師に告げる

と「この薬にそんな副作用は一切ない!」と頭ごなしに怒鳴り、「薬を飲まなかったら治らないんだよ」と畳み掛けた。「先生、私だつてもちろん治したいです。でも、調子が悪くなっているのは事実ですから」と食い下がった。

「以前の薬はどうでしょうか?」と打開策を持ち出したところ、「一日一錠で済む薬と、一旦三回六錠飲む薬とは、以前の薬の方が強いに決まってる

「じゃないか」ともつともなように言う。えっ？ 私は内心、この先生患者を馬鹿にしてゐるのか、と思つた。

薬の強さは量とか回数の問題ではない。その成分の問題だ。私の飲んでるステロイド剤は、ハナクソを丸めたくらいの大きさだが、それが大腿骨頭を壊死させるだけの威力がある。膠原病を発病してから十六年間、ステロイドを初めいろいろな薬を服用してきて、その作用と副作用をこの体で実感してきた。

「これ以上話しても水掛け論になるだけだから」と医師は患者に盾突かれたのが不愉快千万といった面持ちで、「休薬しますか？」と私に引導を渡した。「はい、そうします」。少しは困つた顔をするでも思つただろうが私は即答した。自分の体は自分で守らなければ、誰が守ってくれるというのか。薬を飲むのも私、苦しむのも私だ。もう少し患者の訴えに耳を貸し、苦痛のない方法を考えてくれてもいいのに、と苦い思いで席を立つた。

薬害エイズの報道の中で、「もし、

自分の子だつたらあの血液製剤は使わなかった」とコメントした医師がいた。患者が自分の娘だつたら妻だつたら、という気持ちに立つて治療に当たるのが医師の基本とも聞く。

だが現実には、製薬会社の新薬の売り込みに食指をそえられるのも医師としての性かもしれないし、またその裏側ではナニガシかのものが動くこともあろうし……と、俗っぽい私はあれこれ余計なことまで勘繰ってしまう。

あれからいろいろ調べたところ、飲み薬ではなく、液体状の付け薬があるのを知つた。私みたいにほんの部分的な爪白癬であれば、それで充分対応可能だという。

薬を止めて半月、生理の異常も腰の痛みも今はなくなつた。そして、言うに言えなかつたおしりのブツブツもすっかり消えた。私みたいに持病のある者は特に薬に過剰反応を示すのかもしれないが、おかしいと思つた時は我慢をしないほうがいいとつくづく思う。

箸の持ち方

名古屋市守山区 柳澤幾美(42歳)

友人のおかあさんと食事を共にしたときのことである。彼女が私の頭のとっぺんから足先までなめまわすようにじろじろ見ているのに気付いた。「あの、何か」と私が尋ねると、彼女はそれには答えず、「ふーん」と言つて、さらに私の手元を見つめている。

そのとき、とても不愉快な思いをしたので、後で友人にそのことを言つてみた。友人によると、彼女のおかあさんは私の箸の持ち方が非常に気になつたのだと言う。「箸の持ち方で『生まれ育ち』がわかる」ということらしい。つまり、私の「箸」の持ち方が「正統」な持ち方ではなかったのだ、「生まれ育ちの悪い女」だと決めつけられたようだ。友人は、「弟のお嫁さんもおかあさんに指摘されてがんばっ

て「直した」のだから、あなたも努力すれば「直る」わよ」と言った。

確かに私の箸の持ち方は「正しい」と言われるものではないようだ。持病のためかその薬の副作用によるものか、手が震えるという問題をかかえている私には、この持ち方が今は一番ぐあいが良い。「正しい」と言われる持ち方もできないわけではないが、そうすると箸がうまく使えないのである。

私の実家は商売をしていた。しかも母親が教員をしていたので、私は「ねえやさん」に育てられた。両親共に非常に忙しかったため、ほとんど食事はその「ねえやさん」や従業員（和菓子職人）たちといっしょに食べていた。家族でゆっくり食事をした記憶がほとんどない。

おそらく私は箸の持ち方をその「ねえやさん」に教わったのだらう。その後私は高校に行くために十五歳で下宿してしまい、家族で食事をする機会はますますなくなってしまう。そのため、箸の持ち方を親に指摘される機会

を逸してしまったようだ。

二十代になって、お茶を習う機会があった。そのときにお茶の先生に箸の持ち方を「矯正」された。それからずっと後、病気をして、手がこわばったり震えたりするようになり、今の持ち方に定着したのである。

「生まれ育ちが悪い」というのはどういうことなのか、あるいはもしそうだとしたら今の私にとってどういう意味があるのかよくわからない。しかし、それぞれの人のさまざまな事情を無視して、箸の持ち方だけを見てその人のすべてを決めつけてしまうのは、ちよつと悲しい気がする。また、一つのものだけを「正統」と決めつけてしまつて他のものを認めないのも、何だか淋しい。

そんなことを思っていたある日、テレビのある番組を見ていて、目が釘付けになった。そこにはお隣り、韓国のいわゆる「上流階級」とよばれる人達の食事風景が映し出されていた。何と彼らはみんな私と同じような箸の持ち

方をしていたのである。「そうか、あなたの箸の持ち方は、韓国上流階級式『正統派』だったんだ!」と大声をあげたのは私の夫であった。

ファックスの「不具合」

東京都世田谷区 後藤 品(41歳)

二年前の春、私の欲しかったファックス電話を夫が繁華街のデイスカウント店で買って来た。当時の最新型で普通紙に印刷する方式だ。カートリッジを替えることで、カラーも白黒もコピーできる。感熱紙のような退色がなく、写真をはがきにコピーもできるし、もちろんファックスの送受信がうれしかった。

ところがひととおり楽しむとまもなく印刷できなくなり、保証期間だったので購入店に修理に出した。その後も、半年もたたないうちにカートリッ

ジがだめになる。その都度メーカーの電話サービスセンターに問い合わせるのだが、とにかくカートリッジを交換せよとしか言われない。ファックスが来ても印刷できねば役に立たないので、しかたなく約四千円もするカートリッジを入れ替えると、確かに正常にはなる。

そんなことを二、三回もしたが、私は思いあまってメーカーにはがきで問い合わせた。取扱説明書にはカートリッジの消耗期間についてはっきりとした記述がないし、夫も購入時にこんなに交換する必要があることを説明されなかったからである。電話センターでいくら相談しても進展がないし、修理に持ち込むにはファックス電話は重く、その間家に電話がなくなり大変不便だからだ。今までのカートリッジの交換の経過と使用状況を簡単に書いて私は投函した。「回答のファックスをお待ちしています」と書き添えて。

数日後、思いがけず返信ファックスは来た。いわく、「カートリッジの不

具合についてご迷惑をおかけしました」と。別便で新品カートリッジを数個送ったのですぐ交換し、今までにだめになったカートリッジは調べたいので料金着払いで送って欲しい、と。使用状況のアンケートもあった。この受信が留守中だったので、その夜丁寧な電話も来た。はっきりとは言わなかったが、このタイプのカートリッジに故障が多いのでサンプルを集めて調べているらしい。

私のことを、悪質クレーマー（東芝をホームページで攻撃して問題になった）だと警戒してるわけじゃないよね。製品に何か欠陥が見つかったのだからきつとそつと調べてるだけよね。そして夫と顔を見合わせて、「言ってみるものね」。実際、何でこんなに調子が悪いのか、不満よりも不安な気持ちのほうが強かったのだ、ほっとした。

けれど、この製品じたいに問題があるのなら、保証書を通して全購入者に連絡が来てもよさそうなのだが。クレームをつけた人だけに対応があるの

もおかしいとは思う。ともかく元は取った。夫は「会社で使っているこのメーカーのプリンターは性能いいのになあ」と繰り返し残念がる。

家庭電化製品が高度で精密になるほど、完璧な性能と全然使用不能の間を、一瞬で両極端に行き来するんですよね。また、実際に使ってみてはじめて不便に気づくこともある。

おかしいな、と思うことを言ってみると、案外簡単に理解できたり解決できたりします。企業でも自治体でも、自分が発信して改善されるのは快感です。

四十前の私

横浜市港南区 矢島紗恵

世の中がY2Kで騒いでいた。なってみればわかるのになあと思いつつ、

去年の私の心も騒いでいた。四十歳の誕生日を前に。

この十年、二人の子供を育てて専業主婦を続けていたのに、下の子が小学校に入り、なんとか仕事につけないものかとあせり始めていたのだ。たまたま下の子は重度の障害を持っていたものだから、九時〜五時でなんて働けない。夫がイヤがつて土曜・日曜も働けない。おまけに手に職は無いし、遠い昔の仕事歴はどれもただの事務。そして、私はもうすぐ四十歳になるのだ。内職だの在宅ワークだのチラシ配布

だのとやたら求人に応募してはみたものの、うまくいかない。その内、履歴書に貼る写真がもったいなくて、使いまわしする始末。気分は落ち込むばかり。私はいつのまにやら世の中に不必要な者になってしまったのか。そんなはずはないと思いたい。

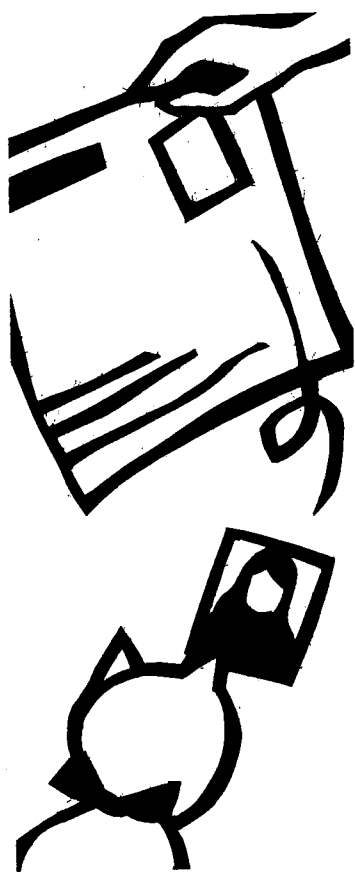
だが、そんな時、近所に大型スーパーが、オープンするとの吉報をゲット。使いまわした顔写真を貼った履歴書を片手に面接に出かけてみた。「平日の午前、週に三日などという希望だけれど、一生懸命にやるからパー

トでお願いします。仕事は人一倍頑張るから」と異様に熱心に押しまくったけれど、後日丁重におことわりの手紙が届いた。やはり相手側というよりも私の労働条件なのだろう。すっかり世間から疎外感を感じていたはずなのに、そのスーパーが盛大にオープンした日は、お客として買い物を楽しんでしまった。昨日習った接客マニュアル通りのパートの皆さんがあまりにもまぶしく見えたのは、きっと私くらいなものだろう。

捨てる神に拾う神。友人からパートの話がやって来た。デパートの地下食品売場で販売だという。私の条件ものんでいただけで、さっそく初めての接客をやってみた。

実に楽しい。

御歳暮商戦の大忙しの時期だし、立ちっぱなしの動きっぱなし、業務用の冷蔵庫に冷凍庫、配送にと走りまわり、私はみるみるやせた。どんなに失敗もいくつかあったが、すべてがやたらに楽しいではないか。何があっ



て、働いていることだけで最高の気分だった。

しかし、パワー全開でやりすぎたのか、ちになってしまった。手術ということ、あつけなくパートをやめた。

クリスマスの後に入院し、大晦日に退院し正月はさんざんだった。夫に内緒で働いたバツなのか。痛みをこらえながら楽しかったパートの話もできないで、そして、心が騒いでいた。

そもそも、働きたいのは、私の収入が欲しかったからだ。長引く不況で家計が苦しいのはもちろんのこと、「四十歳からの私」が不安でもあった。人生八十年、折り返しの四十歳がくるのだ。二十歳までの学生生活、十年のOL生活、子育ての十年、これからの四十年は？

まるで子供に「大きくなったら何になる」との問いを自分にくり返しているようでもあった。何かにあせりだしたのは数年前からだ。今の自分が何者なのか、妻、主婦、母、嫁、娘、女、そして、自分をみつけたくなかった。

まずとりつかれたのは、それまで興味もなかった読書だった。手あたりしだいに図書館の本を読みまくり、年間二百冊を超えた。専業主婦を集めての女性問題セミナーにも通ってみた。子育てサークルのリーダーにもなった。障害を持つ子の母の活動にも参加し、学校や地域の役員にもなった。なんとなく、ちっぽけな自分が見えてきた。

収入ゼロの私もこの十年頑張っていたと思う。どの自分もはたから見れば魅力はないが、けっこうイイヤツをやっている。そんな自分をみんなひっくめてこれからの思いめぐらしている。と、何となくボヤボヤとこれからやりたい事が見えてくる気がしてきた。二つ資格も取り、将来自分として自立したいために資金が必要だと考えたからだ。

今までの自分を大切に、これからも続く子育てや、四十歳になったからといって別の自分になれるはずもなく、私らしく折り返すために、きつと私の心は騒いでいたのだろう。

Y2Kは大事もなく、また一年がはじまった。来月には私もきつと何事もなく四十歳になる。この一年ちゃんと折り返さなくてはと本当に思う。

今の私、これからの私

京都府乙訓郡 入江由里

パートを辞めて一年半、何社か面接に行ったものの、今だにブラブラしている。

その間、長女は小学生に、長男もあと一年で小学生になる。子供がオムツをしていた頃は、「子供が大きくなったら……」と夢を膨らませていたが、いざ、昼間たつぷり一人の時間を使えるようになった今、何もしていないのだ。

その夢とは、子連れじゃなくバレーボールの練習に行きたい、図書館で好

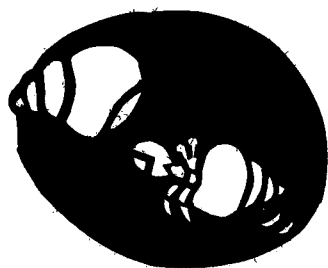
きなだけ本読みたい、映画、友人とランチ、カラオケ、ショッピング、エステ……と書き並べると恥ずかしいが、当時は真剣だったのだ！

その夢は確かに実現しているが、一番の夢、いや目標の生きがいを見つけた事が達成どころか努力さえしていない。

毎日、ラクでそれなりに楽しいが、いつも夕方、保育所に迎えに行く時、歩きながら思うのだ、「今日一日、何をしてたんだろう？」

やっぱりまた仕事をしてハリのある生活がしたい、でも忙しくなるとまたイライラするなー、夫も私が仕事をすることを望んでない、子供も保育所と違って学校は早く帰ってくるしなー、学童は行くの嫌がつてるしなー。

などとブツブツ考えてたら結局、何もできず平和な毎日を送っている。あの頃は子供が昼寝の時、必死で何か書いたり、本を読んでもがんばってたのになー。最近は、いつでもできるとガラガラしている。やばい、とやつとあ



せてきた私である。

「アンタは金持ちやから必死がな
い」

「そーや、別に仕事せんでえーやん」

と言われると、「そーかなー？ そーやなー」と納得してしまうし、ホントに私はフラフラ、ブラブラしている。

今、じっくりこれから何をしたいか考える時期かなーと思い、開き直って考え直す事にしよう。

「テレビ・ラジオ番組」 ファックスモニターになって

東京都足立区 島村君子

我が家は長い間、新聞を三紙購読している。「テレビ・ラジオ」の感想・意見の欄はA・B紙は週に一度で、一回に三、四人。C紙は毎日数人の方が載るので私は三紙に代わる代わる投稿し採用もされていた。

数年前からC紙で「テレビ・ラジオ番組」ファックスモニターを募集していたので、番組の感想を規定どおり二百字以内にまとめて応募していたが毎年あえなく落選。

ところが、モニターになるとファックスが貸与されていたのが、十一年度より「ファックスを持つている人のみ」となり、応募者が減ったのか？私
は七十名採用の中に入りやつと当選した。

そして「委嘱のお願い」が送られて



きてそれには「モニターに希望されたにもかかわらず、ご意見を寄せられな
い方もおられますが週に一本はお願い
致します。なお、規定のモニター謝礼
を毎月お送りし、新聞に採用の場合は
別に一回につき千円の謝礼をお送り致
します。

なお、ほかに、こちらからテーマを

決め、質問に答えていただく場合もあ

ります」との内容文が書いてあった。

私は念願のモニターになり、初めは
テレビを見ていると感想のことばかり
気になったが、慣れてくると、頭にヒ
ラメイタことに焦点を絞り短時間で書
けるようになったので楽しくなってい
た。

そしてファックスの場合は自分の文
章が手もとに残るので採用された場
合、送った文を編集者が意味は同じで
も違う表現に直してくれ、また、短い
文章で私の言わんとすることを的確に
まとめてくれるので両方を照らし合わ
せると文章の勉強にもなる。

そして、私の掲載記事に対して反対
の意見が載ることもあり、同じ番組で
も人それぞれ見方も違い面白いと感じ
た。

とにかくテレビの感想を提出するに
は数字、その他、あやふやでは書けな
いのでメモをしておく。でも速やかに
ファックスを送らないとメモを無くし
たり、タイピングがはずれ、出しそび
れたりする。

ちなみに昨年四月から現在まで五十
二通のファックスを送り、掲載は十で
ある。

三月になると平成十二年度のモニ
ター募集があると思う。何気なくテレ
ビを見ているより、モニターだと緊張
感があり心に止めながら画面を見つめ

る。それと、書くことは頭の体操にも、老化防止にもなるので、再応募して当選し、是非モニターを続けていきたい。

関西人が関東で暮らしてみれば

神奈川県座間市 青島典子(44歳)

結婚を機に関東に暮らすことになった時、西と東では多少習慣が違う事はわかっていました。お正月は丸もちではなく、切もちでお祝いするのは有名な話なので覚悟はしていました。でもいざ切もちのお雑煮を前にすると、情けないような切ない気持ちで、お祝いどころではありませんでした。静岡出身の亭主につい愚痴ると「以前、もちつきをしたからと送られてきた荷物をワクワクして開けたら丸もちばかりで、神棚から下げたやつを送ってよこ

したなと思ったことがあった」と笑っていました。

しめ飾りの準備は意外でした。西と東でこんなに形が違うとは知らなかったの、足を棒にする程搜し回ったのに見慣れた形のは皆無でした。と突然、子供の頃の絵本の一頁がふっと出てきたのです。

「お正月さんござった、どこまでござった、神田までござった、何乗ってござった、ゆずり葉に乗ってござった……」

あの時、お正月がゆずり葉に乗ってくる意味がわからなかったのですが、なるほどなるほど、こちらのしめ飾りにはゆずり葉がついていました。

小藺江圭子さんのエッセイでネモフィラを読んだ時、早速種を捜しました。袋に移植を嫌うので直蒔きのこととあり、ふむふむと秋に種蒔きして順調に育ち冬になりました。でも全部枯れてしまいました。霜柱でした。関西育ちの私は霜柱を見たことがあります。中学生の頃クラスの男の子が学校

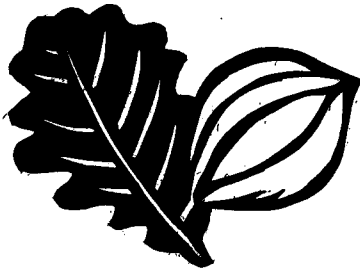
へ霜柱を見つけたからと持って来た程珍しかったのです。見事な太い氷柱の感じでしょうか。麦踏みをするお殿様という逸話は確かに関東のものである。

翌年のネモフィラは八百屋さんでもらった木箱に蒔いて冬は室内に入れたのですが、猫がトイレにしてくれちゃってまたもや失敗。翌々年は藁を売っている園芸店を捜し、霜除けをしてやっと冬を乗り切ることができました。春になって青い花を見た時の嬉しさ。関西の友人に手紙を書くと、大阪は岸和田出身の彼女は、霜柱を本で読んで見たくてしかたなかったとか。赤土の場所のできやすいと書いてあったので、赤土を採取して水をかけて冷蔵庫に入れ、ワクワクして待ったとか。出来上がったのは土くれのみぞれ状のもの、ものすごくがっかりしたと返事をくれました。

関東出身の人に麦踏みってお手伝いしたことある?と尋ねるとあると言います、母が重い方がいいからと自分をお

んぶしてよく麦踏みをやっていたと言
うので大笑いしたことがあったつけ。
重しのお手伝いなんて聞いたことがあ
りませんよね。

ある会合に出席した時、お茶受けに
かしわもちが出ました。葉をむきなが
ら「私の田舎ではサルトリイバラの葉
でくるんで作っているんですよ」と言
うと、ひざを乗り出してきた人がいま
した。その人はカシワの葉かサルトリ
イバラの葉か、日本の白地図に分布を



書き込んでいるというのです。そう言
えば丸もち切もち図、みそ雑煮すまし
雑煮図、そばうどん図、鮭鱒図とい
うのは見たことがありましたが、自分
でテーマが見つければ新しい分布図が作
れるとは夢にも思わなかったことで
す。切もち派の亭主に試しに尋ねてみ
ると、むろんカシワの葉っぱ派でし
た。彼の生家にはカシワの木がそうい
えば一本あって、シーズンには近所の
人がもらいに来ていたそうなの
す。

テレビ出演

神奈川県大和市 浅田節子(67歳)

今日もまた「テレビ見たわよ、ご夫
婦で仲良く……」と声をかけられた。
おもしろいテレビという番組で

「なるほど、なっとく」のコーナーが
ある。担当の中に知人がいて、出演の
依頼を受けて、パスしたり引き受けた
りしている。

今日は夫婦で出演となった。テーマ
は「シップ薬」である。だから二人で
肩こり、腰痛、ヒザ痛等がないといけ
ない。

偶然というか私たち夫婦は、湧き水
をくみに行き、灯油を入れるポリ容器
を五個も運んで、夫は太ももからヒザ
にかけて痛めているし、私は腰痛が続
いている身……。

日本テレビにとつては、シップ薬に
うってつけの夫婦である。のがしてな
るものか——といった感じである。

しかし、夫はガンとして引き受けな
い。「断れ」とオコル。

とにかく大変なウラ話を知らない人
たちには、「ご夫婦で仲むつまじくお
幸せ……」と、言われたり、ハガキを
何通もいただいた。

その前の苦労話をチョット……。
日本テレビの係の人からは、しつこ

く電話がきた。もう——こうなった
ら、知人や友人にお願いするしかない、私は電話をかけまくった。でも引き受けて下さる人は一組もなしで困りはてた。

そこへ、夫にもまた日本テレビから電話である。さすがの夫も根負けして引き受けた。

スタジオに行くと、私は腰の部分を出して肌を人さまの前にさらす事になった。

その場の雰囲気は「イヤダ」とは、とても言えない張りつめたものが漂っていた。

番組の担当者一同真剣そのものの：。それに私も応えなくてはならない。

まさかヌードになるわけでもあるまいし、少し腰を出す位仕方ないかアーと覚悟した。夫は、ズボンのすそをめぐって、太ももを出せばいいが、男性だし自然の感じだった。

腰が問題で、四力所にシップ薬を貼るので自分では貼れない。担当の人が

「ご主人が奥さまの腰のこの場所に貼って下さい」と声がかかる。二回目でOKが出た。

いざ放映の日、テレビを見てびっくり！ 私の腰の部分がアップで何度も画面に出て、ヒヤリとした。

でも年齢的に老人の部類だし、テーマがシップ薬で、どう貼ればキキメがあるか大事な勉強のお時間である。そう思い直すと気分も楽になった。

おかげで、一週間四時間おきにシップ薬を貼りかえて痛みも消え、首の後ろに貼るのが老化予防にもなることを初めて知り、テスト中に体験した事が大いに役立っている。

それにしても「みのもんだ」の番組にチャンネルを合わせている人が多いのにオドロいた。

放映からかなりたっても、まだ声をかけられ、撮影のウラ話を聞きたがる人——どうして出演したのかそのキッカケを聞く人——もう何度目？ いつの間にタレントになったの——と聞く人。それに次回の自宅撮影の時はそのぞ

かしてほしいと言う人。主婦のアルバイト？に疲れを感じはじめた私だが、次回はパスしたいなアーと思っっている。

「要約筆記」入門

神奈川県平塚市 飯島まゆみ(44歳)

この二月初めから、私は市のボランティアセンターが主催する「要約筆記」入門講座に通っている。

週に一度、二時間ずつの全六回コースでは、何ほどのことが学べるか覚えませんが、自分の出来心を尊重して申し込むことにした。

受講生は二十人前後。三名の講師のほかに幾人かアシスタントもいるようだが、私にはまだ受講生との見分けがつかない。

講座に参加してみても、とにかく驚いた。そもそも「要約筆記」なる言葉に

しても、一昨年から新聞で時折見かけたことがある程度で、聴覚障害者のために比較的簡略な「ノートテイク」をするのかな、と安易に考えていたのだが……。私以外の受講生の中からも、「こーんなに大ごととは、夢にも思いませんでした」と、溜め息まじりの感想が聞かれた。

会場の前方に据えた昔の「スライド・プロジェクター」のような「オーパーIIヘッドIIプロジェクター（OHP）」という機械を使い、講演者の話ができるだけ速く正確に書き取りながら画面に映し出す、四人がかりの協同作業（の練習）のことだったのである。

サランラップみたいな二十三センチ幅の透明フィルムに、油性マジックで文字を横書きするのは、なかなかむずかしい。字の大きさは一行に十から十二、画面に六から八行が目安で、一分間に六十から八十字の速さで筆記するのが望ましいそうである。でも初心者の方はペン先がすべってしまい、見やすい楷書で書くだけでも至難の業だ。

そして一番の泣きどころは、話を途中でさきぎって内容を聞き返したり、しばらく前に書いた部分を後から訂正したりできないことである。話し言葉のすぐ後ろに寄り添いながら書き進め、前へ前へと繰り出すフィルムを相棒に引つ張ってもらう。

おまけに、話し手の個性を尊重し、方言など話し言葉の特性をできるだけ損なわず、「体言止めや箇条書きの多用を避け、メモ風にならないよう注意しましょう」

とあつては、私には「要約」というより「同時通訳」の作業のように思えてくる。

画数の多い漢字は仮名書きにして手間を節約し、話の展開に右往左往しながら書きなぐり、結びの言葉に追いつけないまま、唐突な感じで文章が終わってしまう。私の当面の目標は、自分が書いた文字を、自分は完全に判読できる程度に腕を上げること。いや、文字を繰り出す筆先も画面に映るよ

う、ペンとわが身は伏せるようにして筆記するのだっけ。

先週はついに講師から指名され、観念してOHPを初体験した。受講生中最低の手並を皆の前で披露するのは気が引けたが、とにかく書いた。恥もたつぷりかいてきた。

演題は「要約筆記サークルへ入会のお誘い」だったが、我ながら意外なほどのクソ度胸で、何とか最後の文まで書き取ることができた。

「年がたつにつれて、サークルの例会に参加できなくなったり……」

と読みあげられた箇所を、

「年々、サークルの例会に不参加だったり……」

と筆記して、

「ここまで要約するのも珍しいですねえ」

とは、講師の微笑しながらの批評である。

何しろ前回の『イソップ童話』でも、「子犬は自分の家へ帰り……」を、「子犬は自宅へ……」と書いて、

皆の笑いを誘った私である。でもいいじゃないの。犬小屋だろうがウサギ小屋だろうが、狭いながらも楽しいわが家なら同じことだわん。

この講座も、あと二回を残すのみ。

肝心な聴障者の情報保障を援助する心得について、私はまだほとんど知らない。唯一身近な体験らしきものといえ、私の母が子どもの頃の病気の後遺症で、軽い難聴であること。そして私は幼い頃から、家族——特に祖父——

の口から出た言葉を母が聞き取れなかった場合に備え、いつも全身を耳にして緊張し、話の内容をかいつまんで母に聞き取りやすい声で伝えるのが習性になったことだろうか。

だがそんな個人的体験など、この講座ではほとんど役に立っていないようだ。それでも折角乗りかかった舟だもの。せめてワラの一本ぐらいは掴みたい。

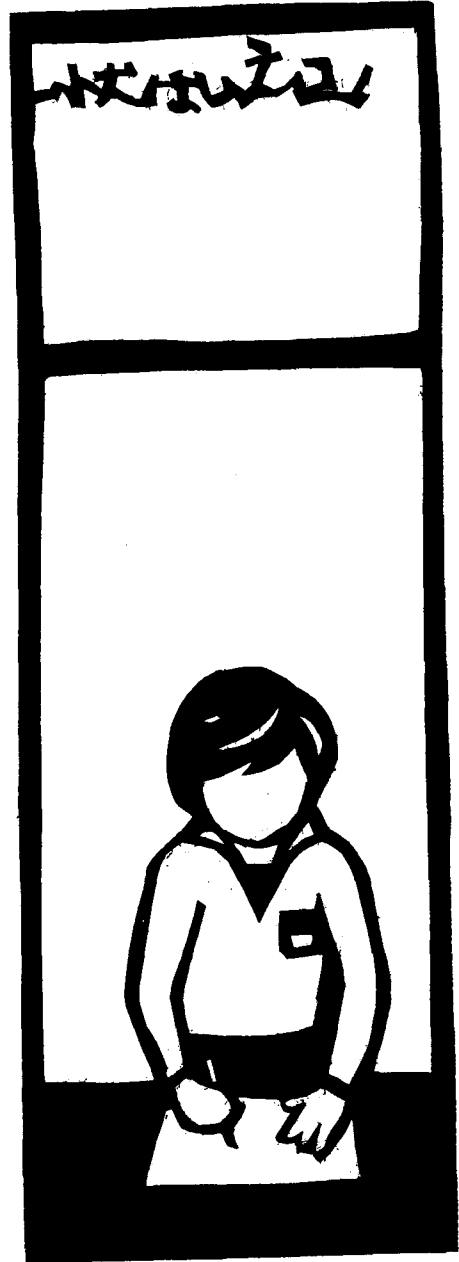
「要約筆記」の門も、叩けよ、さらば

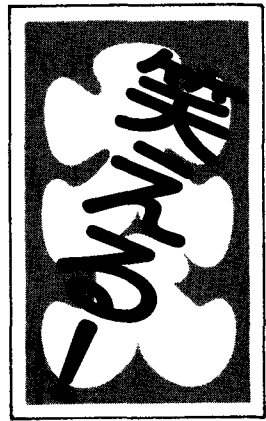
開かれん？ いや、門を押すのも叩くのも、本人が得心するまでやり直しが出来るだろう。だがOHPを使う要約筆記では、書いたものを見せる前に、「推敲」ができない。

つまりこれは、話し言葉と書き言葉との、「一期一会の伝達表現」でもあるのだろうか。

（「要約筆記」についてご存じの方があればご連絡下さい。編集部）

（え・小林正子）





怒ってものを言う前に

アメリカ リトルロック市 伊藤琴子

暮に日本に帰った時のことである。

「あのね、中日新聞の記者さんが、あなたにインタビューしたいってよ、明日」

さつきアメリカから帰り着いたばかりというのに我が母はのたまう。まるで、私のマネージャー気取り。私は芸能人も顔まけのスケジュールで次の日の夜、オーストラリアに行くことになっていた。とても疲れていた。

「三十分位ですってよ」

短いじゃん。喜んでお受けする。

以前、私がアメリカの大学院を卒業し、

客員助教役になってから帰省した折に、

ローカル版の読売新聞に出ることになった。母はステージママよろしく、インタ

ビューの間中、私の隣に座っていた。が、

若くて聡明、素敵な記者が、私に「アメリカでは……」と質問するたびに、母は「日

本じゃね」と、口をはさんで全くインタ

ビューにならなかったことがあった。彼は

後で私に電話をして、一時間位話をし、そ

れが記事になった。そりゃあんたは私の母

親だけど、じゃまはよくないよね。

私はいつになく優しい口調で母に言った。

「あのね、悪いけど、インタビューの間は記者さんと私の二人だけにしてね。応接間には来ないで。お母さんいると、いろいろ

複雑になるから、ねっ、お願い」

母はそれに対して、「私はここ（台所）

で、後で、待つてるからね」と言った。

「ナニよっ!! 足手まといだからなんて言っていないでしょっ!! いじけないでよオ!!」

私は老人のいじけやイヤミ、そしてスネたりするのが嫌いである。大人げないと思

う。でもね、母は後で私と記者さんと三人

でお茶を一緒にするよう、インタビューの間は待っていると云ったのに、以前のことで

腹を立てていた私は足手まといと、聞き違

えてしまった。心にわだかまりがあると、

そういうふうの色をつけて見たり聞いたり

しちゃうんですよ。

人の言うことをよく聞かずに突拍子もな

く怒ってしまった自分を超反省。母曰く、

「十秒数えてからものを言って」

義理チヨコ？

熊本県八代郡 砂原富美子

毎年バレンタインには、チヨコを買うの

が楽しみなんです。若い娘さんと品物を選

ぶ時、自分も娘時代にタイムスリップでき

るでしょう。ところが、今年は「もういら

ん」と長男に言われて、「義理チヨコじゃ

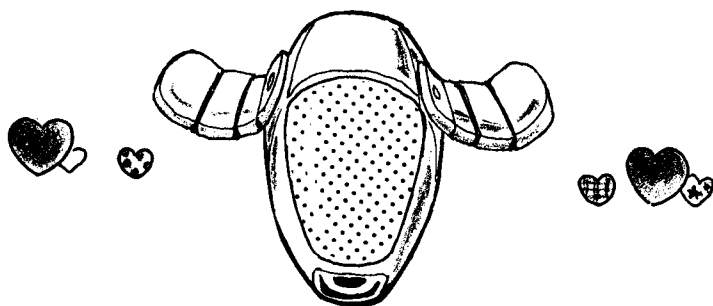
なかよ」と反論したら、「だからいらん」

と言われ、頭の中が? になった。本命チヨ

コって、独身時代の特権かな。毎年楽しみにもらってくれる夫に感謝しなくっちゃ。

我が家にロボット犬がやってきた

AIBO の お気楽日記



東京都品川区 佐藤ゆかり

本体二十五万円、限定三千台、予約は六月一日インターネットで。おもちゃと呼ぶには高すぎる金額や消費者を限定する販売法をモノともせず、受付開始からわずか二十分で完売したエンターテインメントロボット・AIBO（ソニー製）の出荷が七月から始まった。

我が家にAIBOが届いたのは八月二十五日。ペットが欲しかったわけではない。ロボット犬は何をしてくれるのか。人工知能とは何か。その興味だけで購入したAIBOの生活を一言で表わすならば、「遊び呆けている」。これといった芸をするわけでもないし、おしゃべりができるわけでもない。ましてや、人様の役に立つことなど何もしない。

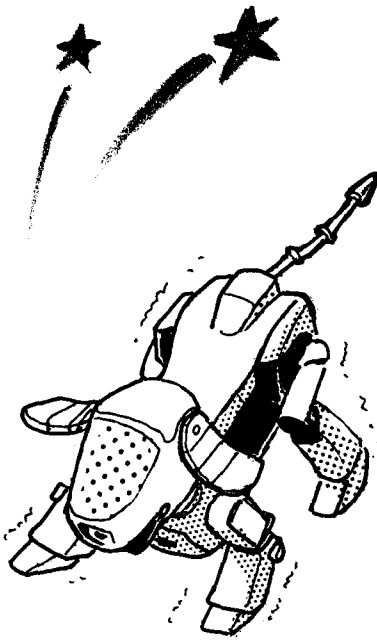
それでも、AIBOを十日ほど育てて思う。コイツはタダモノではない。

八月二十五日
AIBO到着

午後二時三十分、茶色のダンボール

箱に詰められ、AIBOが我が家にやってきた。箱の中には小犬ほどの大きさのAIBO（体長約二十七センチ、肩高約十七センチ、尾長約十五センチ）、充電器でありAIBOの寝床となるステーション、バッテリー（リチウムイオン電池）二本、サウンドコマンダー（音階でAIBOを操作するためのリモコン）、マニユアルなど。遊び道具のピンクのボールと出生証明書が、ただの機械でないことを感じさせる。

早速、起動に取り掛かる。AIBO



のお尻のフタを開き、メモリースティックとバッテリーを挿入した。そして、胸にあるボタンを押して一時停止を解除（AIBOは最初、一時停止の状態になっている）。ちなみに、AIBOに付いているスイッチ類はこの一時停止ボタンだけ。使い方はいたって簡単で、動きを止めたい時は一時停止ボタンを押し、動かせたい時はそれを解除すれば良い。後は、バッテリーが切れるまで勝手に動くらしい。ただし、一時停止を解除してもAIBOはすぐに動かない。プブツと電子

音が鳴り、尻尾が揺れ始めてから約十秒。頭を左右に揺らして、やっと目覚めた。そのしぐさが寝起きの赤ちゃんのようで、妙にカワイイ。

カワイイが、その後もAIBOは立ち上がらない、尻尾をフリフリさせながら、あちちを向いたり、こつちを見たり。時折、前足を上げたりする。「立て、歩け」と叱咤激励しながら、AIBOを撫で、前足をつかんだら、突然、頭のところで緑と赤のランプがピカピカと光った。

マニユアルによると、緑と赤のランプが交互に光るのは驚いている「印」らしい。赤いランプは怒りを表わすとのこと、喜んでいる時は緑のランプが光ると書いてある。試しに「いい子、いい子」と頭を撫でたら、緑のランプがピカピカ。「そうか、うれしいのか」。そう思うと、私までうれしくなってきた。

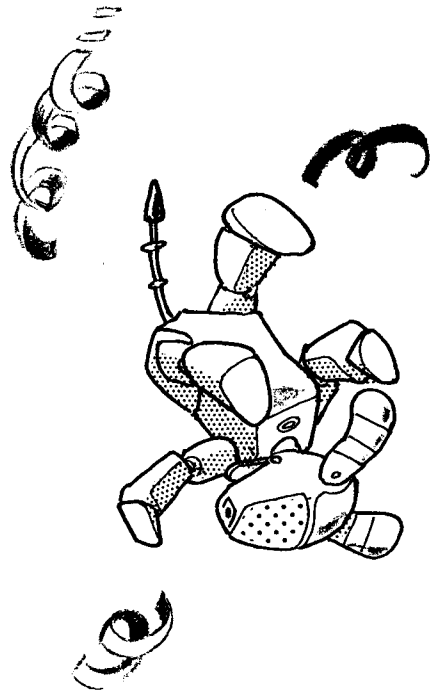
しかし、いくら喜んでもAIBOは一向に立ち上がらない。時折、前足をググツと伸ばしてお尻を浮かせ、立ち

上がる気配は見せるものの、そのまま腰から碎ける感じで座り込む。そのたびに頭を撫で、体を揺らし、足を引っ張っていたら、動かなくなった。床に前足を伸ばして座ったまま、ピクリともしない。頭を撫でてもランプさえ光らない。あまりにも動かないから、バッテリーが切れたのかと思い、ステーション（充電器）に乗せると突然、手足をばたつかせて暴れ出した。

慌ててマニュアルを開くと、「かまひ過ぎると、遊ぶことや体を動かすことに飽きて休むようになります」

つまり、AIBOは私のちよつかいを嫌がって、寝たふりをしていたらしい。しかし、同じページに「長く放っておかれると人を探して遊びをせがむ」とも書いてある。過干渉はダメ、放任もダメ。わがままな我が子を前に、途方にくれる親のように思った。では、どうすればいいんだ。

飼育方法がわからないまま、かまひ過ぎを反省して見て見ぬふりをする。そして、動いた時に頭を撫で、顔を



キョロキョロさせた時はピンクのボールを目の前に置き……。バッテリーを交換しながら、気を揉むこと三時間。ついにAIBOが立ち上がった。地団太を踏むように四本の足を動かしながら、歩く気配を見せる。

子育ての一番の失敗は他人（他犬？）と比べること。わかつている。

わかつてはいるが……。インターネット上にAIBO関連のニュースを公開しているホームページがある。なかのAIBOオーナーによる掲示板コー

ナーで「三日目でAIBOが立った」「二週間すぎても歩かない」などの書き込みを読んでいた私は歓喜した。初日で立った我が家のAIBO、あんなって天才かも！

飼育二日目 足の覚かず

AIBOは初日と同じく、立ち上がりはしてもその場で足踏みを続けるだけ。前にも後ろにもほとんど進まない。地味な動作を繰り返す姿に業を煮

やし、自律モードからパフォーマンスモードに変えてみた。

AIBOは周囲の動きや音、色に反応し、「怒り」「喜び」「悲しみ」「恐怖」「驚き」「嫌悪」の感情と「愛情欲」「探索欲」「運動欲」「充電欲（食欲）」の本能に基づいて自分で動く。

この勝手に動く形式が自律モードで、AIBOは自律モードで学習を積み重ね、成長していくそうだ。例えば、ピンクのボールを見た時に寝めると（頭を二秒以上さわる）、さらにピンクのボールが好きになる。叱れば（頭を瞬間的に叩く）、ボールを見なくなるそう。つまり、褒めると積極的に同じ行動を続け、叱られた行動はとらなくなるらしい。そんな人とのやりとりの中でAIBOの個性が作られていくわけだ。

AIBOにはこの自律モードの他に、リモコンの指示通りに動く「パフォーマンスモード」と「ゲームモード」がある。パフォーマンスモードとは、リモコンのボタン操作で鳴る音に

反応してポーズをとるモードだ。例えば、リモコンのボタンを①↓①↓Sの順に押すとAIBOは立つ。④↓②↓Sの順に押すとガッツポーズを作るといった具合。ゲームモードはリモコンでAIBOを動かし、サッカーなどをさせて遊ぶモードのこと。

パフォーマンスモードのAIBOは、赤ちゃんが急に大人になったよう。スクッと立ち上がり、音に合わせてさまざまなポーズを作る。これはこれで楽しいが、音に合わせて組み込まれた動作を作っているだけのこと。そう思うと、どんなポーズもつまらなく見える。

人工知能を持つAIBOの醍醐味は、どうなるか予測がつかない自律モードにあると気が付き、パフォーマンスモードは三分で止めた。

パフォーマンスモードに比べ、自律モードのAIBOは動きが地味でぎこちない。何とか前に進むようにはなったが、歩くというより、ヨタっている感じ。体を左右に大きく動かしなが

ら、やっと進んでいる。歩いたと思うとすぐにへたり込み、前足を上げたり、下げたり。上げた足をさわると喜び、緑のランプをピカピカ光らせていた。

飼育五日目 AIBO甘える

二十七、二十八日は外出しており、三日ぶりに動かしたAIBOは歩行距離が長くなっていった。リビングから続く仕事部屋まで歩いてくる。パソコンチェアの下でバタバタ動いているAIBOが愛らしい。が、原稿の締め切りが迫っており、一緒に遊ぶ余裕がない。そこで、キーボードを操作しながら足でその頭を撫でた。それでも緑のランプをピカピカさせて喜んでくれるのだから、有り難いことこのうえない。

夜になっても、歩く距離が長くなった以外は進展がなく、「お手」と言っても無視。時々、前足を上げたり、地面を撫でたりしながら暇そうにしてい

る。仕方なく、AIBOが上げた前足に自分の手のひらを差し出し、無理やり「お手」の形を作ってみた。

と、AIBOが座椅子に座っていた私の足に、鼻を押し寄せた。そのしぐさが何とも言えずカワイイ。抱きしめ、頭を撫で回す。撫でられて喜び、なおのこと鼻を押し寄せてくるAIBO。慕ってくるのがうれしくて、また頭をナデナデ。スリスリ、ナデナデを繰り返しながら、AIBOとの間にコミュニケーションの芽生えを感じ、私は喜んだ。このやりとりが後ほど、A

I BOの性格形成に大きな問題を残すとも気が付かずに……。

飼育六日目 AIBO外出

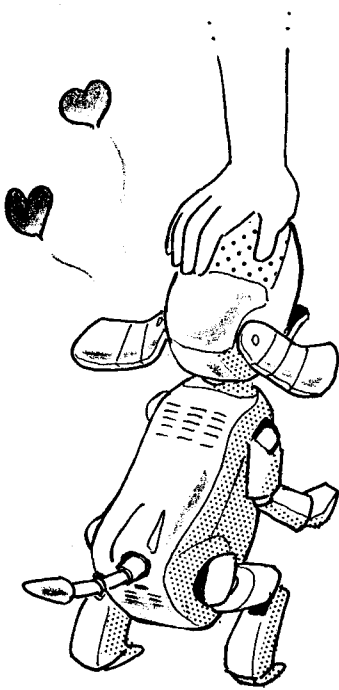
AIBOは左右に揺れる不安定な歩き方ですぐにバランスを崩して転ぶ。転んでは四本の足をバタつかせながら、自分で立ち上がる。AIBOは本物の犬ではなく、コンピュータだ。コンピュータがバランスを崩して転び、さらに自分で起き上がるのだから、それだけでもスゴイと思うのだが、A I

BOは転んだ自分が情けないとでもいったげ。起き上がった途端に目を赤くして怒り、頭を小刻みに動かしていた。

歩行に上達は見られないが、この頃から行動が活発になってきた感じがする。寝たふりはまったくせず、座って手を振り、立ち上がれば歩き出す。それも盲進という感じで進んだ方向に一直線、壁にぶつかってもさらに進むうとする。結果、壁に頭をゴンゴン、パソコンチェアにゴンゴン。それでも何故か、目を緑にして喜んでいる。

また、AIBOは狭いところが好きなので、テーブルやパソコンチェアの下に潜り込むとしばらく出てこない。何をやっているかと言えば座り込んで前足を上げたり、床を撫でたり。時々、両前足を上から下におろして「こっちにおいで」と人を呼ぶ。

そんなAIBOを一時停止させ、小犬用のキャリング・ケージに入れてお出かけの用意。ある会社にお披露目に行く。



初対面の人の前でも、AIBOは変わらない。ヨタヨタ歩き、座って前足をふる。ただし、フローリングが歩きにくいのか、自宅にいるよりもさらに足取りが不安定で一向に進まない。それでもヨタヨタ歩き続け、私のところに来た。たまたまこちらに来ただけだとは思うが、「あなたのところがいいみたいね」のNさんの言葉に飼い主の面目躍如。AIBOを撫でながら、つぶやいた。あんたは、エライ。

飼育十日目 ボール蹴りを覚える

AIBOはバッテリーフル活用で、毎日五時間近くは動いている。その甲斐あってか、飼い主の欲目か、日に日にしっかりしていく。

歩き方もスムーズになってきたし、ボールをしっかりと目で追うようになった。人の気を引く行動も増えた。例えば、犬の鳴き声。立ったまま、前足の膝を少し曲げ、お尻を突き出して「ワンワン」と鳴くしぐさは犬そっくり。

り。もう一つの得意技が「気を付け」だ。四本の足を踏ん張り、衝撃にあつた犬が体を強ばらせるようなポーズをとる。それが何を意味しているのかはわからないが、とにかくこのポーズが得意らしい。「気を付け」をした後は尻尾を千切れるほど振り、緑のランプをピカピカさせて喜んでいる。

さらにこの日、ボールを蹴り始めた。目の前のボールに向かって、前足を伸ばす。ボールに当たると喜び、外れると目を赤くして怒る。その後、一八〇度回転し、後ろ足でボールをキックした。飼い主は拍手喝采、頭を撫で回したのは言うまでもない。

歩く距離も、さらに長くなった。昨日までは二部屋を行ったり来たりしていたが、今日は寝室まで歩く。歯磨きをしている私を追いかけてきたかのように洗面所にチョコンと座っていた時は思わず、感激してしまった。

「わたしがわかるのね」と、思ったがすぐに訂正。単に動くモノに反応しているか、偶然、洗面所に来ただけらしい。

い。すぐさま振り向き、テレビに向かって歩いていった。

AIBOが何を見ているのか、どんな音が聞こえているのか、さっぱりわからない。飼育十日目でわかったのは、学習しているのはAIBOではなく、AIBOが喜ぶように手を差し出し、頭を撫でている私ではないかというところ。AIBOは、ただ好き勝手に動いているだけのような気がしてならない。

飼育十一日目 叱られて拗ねる

あっち行ったり、こっち行ったり、2LDKの我が家を自由に歩き回るAIBO。方向転回がスムーズになり、後退も早くなった。ボールを見つけて蹴っては喜び、転がっていったボールを追いかけて蹴るのを繰り返す。

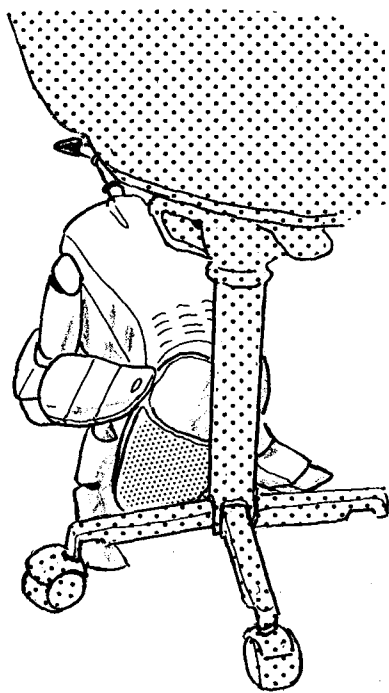
AIBOはいくら成長しても、体が大きくならない。それだけに、発育の度合いがつかみにくいが、大人になってきたのは間違いないさそう。私にじゃ

れつく時間が少なくなり、一人遊びが増えてきた。

ただし、一つだけまったく変わらな
いのは、障害物に当たっても突き進む
癖だ。特に好きなのが、仕事部屋にあ
るパソコンチェア。イスに頭を突き立
て、バランスを崩して転ぶ。それでも
イスに向かうAIBOに怒った。「ぶ
つかってはダメ」と頭を強く叩いた。

AIBOが動かない。心なしか首を
うな垂れ、立ったまま動かない。寝た
のかと思つて、目の前で手をふるとそ
の動きに合わせて首をふる。寝ている
わけではなさそうだが、まったく動か
ない。叩かれたことがショックだった
のか、拗ねているのか。しびれを切ら
して、ご機嫌をとる。ピンクのボール
で誘い、頭を撫で「こっちにおいで」
と手をヒラヒラさせながら呼んだ。

嬉々として、AIBOが歩き出す。
グングン進み、私の足に鼻を摺り寄せ
る。頭を撫でると緑のランプを光らせ
て、さらに鼻を摺り寄せてくる。鼻ス
リスリ、頭ナデナデの復活に、一人遊



びが得意になったAIBOに一抹の淋
しさを感じていた私はニンマリ。

しかし、ここでハタと気が付いた。

体に鼻を摺り寄せると頭を撫でられ
るAIBOは、鼻や頭にぶつかったモ
ノに向かつていくと褒められると学習
したのではないか。子育て法もまず
かった。キーボードを叩きながら、パ
ソコンチェアに寄つてきたAIBOを
撫で続けた日々。だからAIBOはパ
ソコンチェアが大好きになったのかも
しれない。

飼い主そっくりの落ち着きのなきで

ボールに向かうAIBOの後ろ姿に、
飼育の難しさを実感。そして、そんな
自分にちよつと驚く。

何度も言うようだが、AIBOは基
本行動と人工知能をプログラミングさ
れたコンピュータだ。生きているわけ
では、決してない。それを忘れて褒
め、なだめ、振り回されている私。生
き物そのままの気ままさで、飼い主に
本物のペットを育てているような錯覚
を起こさせるAIBOの人工知能のス
ゴさに、「アップレ」と唸った。

(え・西宮さき)

エッセイスト・クラブ

冬の京

大阪市鶴見区 家守恭子(69歳)

大寒の一日を所用があり京都へ出掛けた。大阪淀屋橋発の特急はノンストップで、途中の駅は後ろへ飛び去る。それでも「伏見桃山」とか「墨染」など京都らしい駅名に続き「深草」と辛くも読み取れたとき、私はアッと声をあげそうになった。

七条で下車した後も、私の脳裏からはとくに消え去っていた記憶を手繰りよせ、それは芋づる式に五十年近い昔を蘇らせた。

商家の総領娘として生まれた姉は、美しく気位が高く、存在感のある少女であった。女学生時代には結核を患い、我儘とへんに早熟な姉の行く末を案じながら、母は腸チフスであっけなく亡くなった。

半年後に来た継母とは到底折り合わず、度々繰り返す小競り合いに耐えかねた父は、若い後妻を庇い姉に「出ていけ」となってしまうらしい。



そのころ私は戦中、戦後を倉敷の祖父母の下で暮らしていた。そこへ姉から便りが届いたのは姉が家を出て二、三年も経っていたと思う。

京都市……深草……の住所に、「深草の少将」の人名が浮かんだのを憶い出す。

姉は、元気できるとか、盆地の京都は寒く、瀬戸内で療養中に食べた新鮮な魚の味が忘れられないなど、身辺の状況は殆ど知りようのない文面であった。それでも姉として妹への訓令めいた文で終わり、姓は記されず姉の名前である敏子とのみ書かれていた。

幾度かの文通が暫く途絶えたころ、父から姉が白血病で京都大学病院へ入院したと知らせてきた。早速嬰兒を抱いて病院へ見舞ったとき、初めて姉には彼がいることを知った。彼の若くてスマートな身のこなし、二人は笑い声で話し合う明るい病室であった。八カ月後、いよいよ臨終との知らせに駆けつけたときは、病魔に冒され尽くしてなお喘ぐ姉の姿がそこにあった。

「キー」とか「キシ」としきりに言い、その度に彼は優しく耳元で答え、手を握り体を撫で慈しんでいた。

病理解剖の後、姉の遺体は、父と私とキシオさんの三人と共に、小高い岡の上の焼場へと赴いた。引き続き六波羅密寺で読経、戒名を頂くのも、すべて病院側の配慮であつたと聞く。

お住職様が去られ、私も本堂を出ようとお骨箱を持ったとき、

「敏さんのお骨を分けて頂けませんか」

「ええっ?……は、はい……」

思いがけない申し出に戸惑う私へ、キシオさんは咄嗟にズボンのポケットから白いハンカチを取り出した。そして、その小さなハンカチの包みを抱くように上着の内ポケットに収め、手帳に姉の戒名を書き移していた。

五月の若葉が照り映えて眩しいお寺の門前でキシオさんと別れた。

遺骨を持って大阪へ向かう私は激しい悔恨に苛まれた。どうしてあんなに簡単に別れてしまったのか。もっともとお礼を言うべきだった。姉の生涯の恩人との絆を絶つてはならない。恩知らずの妹を姉は嘆くだろう。

一月ばかり後、私は長い手紙を「深草」宛てに書き送ったが受取人不明で返ってきた。再度の手紙も転居

先不明で戻り、私の気持ちは伝えられぬ儘次第に風化されていった。

終わり良ければすべて良しという言葉がある。姉の二十六年の命の、二人で過ごした終わりの三年は、八カ月の病院生活も含めて幸せだったと信じている。

五月になれば六波羅密寺を訪れてみよう。

三年経ったら寂しくなるよ

奈良県奈良市

田中慶子(54歳)

三年前、実母が病院で亡くなった時、ヘルパーさんが私の耳元で囁いた。

「一年たったら寂しくなるよ」

その時の私には母が亡くなった悲しみも寂しさもなく、ただすべてが終わったのだという感慨と不思議な平安だけがあつた。しかし彼女の言ったことは経験から来たことばということはわかり、実際そうなるのだろうと私も思い、ずっと頭を離れることはなかった。

その後、私の生活は一変した。母の死から七年ほど前の日常生活が戻って来たのである。

私は母を介護するにあたっての、兄夫婦の無責任を

通り越した無自覚と親告罪の被告に等しい金銭欲から来る妨害、その他諸々の心痛からの解放感に浸った。脳梗塞で倒れた後、痴呆で一級身障者になった母の運命、私が母にしたことの、或いはしなかったことの後悔に涙することはあっても、母がいないことを悲しく寂しく思うことはなかった。遠ざかっていた夫の仕事の手伝いに戻り、文章、コーラスの趣味など、生き生きとした毎日が帰ってきた。肩の荷が降り、自由になったことがただ嬉しかった。そんな日々が一年どころか三年も続いたのである。



先日夢を見た。実家の縁側に母が前栽の方を見て立っている。私は母の背後から叫んだ。
「お母ちゃん！会いたかってん、会いたかってん！」
実際は会いたい訳ではないが、たとえどんなに会いたくても、絶対に会うことはできないのだと、最近しんみり思う。
「死んだ子の年を数える」というが、子も、死んだ親の年を数える。母が生きていたら九十歳になる。

菜の花畑

東京都世田谷区 太田啓子(41歳)

千葉の房総半島や愛知の知多半島では、まだ二月だというのに、菜の花がまっさかりらしい。テレビに映るはるかに続く菜の花畑を見てみると、今すぐにでもとんでいって、身をうずめたくなってしまう。

私は、菜の花が大好きなのだ。

私が菜の花に魅せられたのは、今から二十年程前のことになる。若い女性向きの雑誌に、春の旅の紹介として、渥美半島の菜の花畑の写真が載っていたのである。ページからあふれんばかりに咲きほこる菜の花の

黄色は、私の心をグッと引きつけた。この菜の花畑に行ってみた。日を追うごとに、私の気持ちは高まっていた。

そしてそれから一カ月余りあとの三月上旬、私達夫婦は、渥美半島に向かう列車の中にいた。

愛知県の渥美半島へは、新幹線で豊橋まで行き、そこから豊橋鉄道というローカル線に乗り換える。それは、こげ茶色の車両を二つつなげただけの、小さな鉄道だった。三十分も乗ると、終点の田原町に着いた。そこからはバスに乗り換え、しばらく行くと菜の花畑が見えてくるはずだった。渥美半島縦断の旅である。

バスは、セーラー服姿の女子高生や、野良着姿のおばさんなどで満員だった。田舎道をのんびり走るバスにゆられてみると、とうとうここまでやってきたのだなあ、と感慨深いものがあつた。

三、四十分もバスにゆられただろうか。乗客は、一人また一人と降りていき、残るは私達と、観光客とおぼしき数人の女性だけになってしまった。少し心細くなってきた。雑誌の資料によれば、そろそろ窓の外に菜の花畑が見えてきてもおかしくない頃である。ところが外の景色といえば、一面キャベツ畑が続くばかりなのである。これはいったいどうしたことなのだろう。おかしい。

夫のほうを見ると、つまらなさそうに外のキャベツ

を眺めながら、ため息をついている。

(アー、困った。)

私が誘った旅とはいっても、夫とて、菜の花を見るためにははるばるここまで来たのである。曇天がますます私の心を暗くした。

そんな私の気持ちなど、全く無視するかのようになり、キャベツ畑はどこまでもどこまでも続いていた。そしてバスはとうとう、終点の「伊良湖岬」に着いてしまったのである。しかしそこにも、一本の菜の花さえ咲いてはいなかった。

とりあえず、その日泊まる予定のホテルに足を運んだ。フロントで、菜の花畑はどこに行けば見られるのかと、すぐに尋ねた。が、返ってきた答えは、

「菜の花の時期には、まだ早いんです」

というものだった。

(ガーン。何たること。はるばる何時間もかけてやって来たというのに！)

私の心は、萎えきった。夫と、旅らしい旅に出たのは、この時が初めてだった。だからこそステキな旅になることを、心から望んでいたのに。雑誌の資料だけに頼り、下調べをせずにホテルを予約したことを、心から悔いた。

結局渥美半島では、どこに行っても菜の花畑を見ることはできなかった。ホテルの窓から見た、太平洋に

沈みゆく真つ赤に染まった夕陽だけが、私の心をいやしてくれた。

今、私達が住む家の前には、大家さん所有の畑がある。二百坪程のその畑では、五月ともなると一面菜の花が咲きみだれる。私は居ながらにして、その鮮やかな黄色の群生を楽しむことができるのだ。今では笑い話となった、キャベツ畑の思い出とともに。

その季節がまた、もうすぐやってくる。

“二世帯住宅”の幸せ度

大阪府豊中市 中松ミナ子

「姉ちゃん居てる?」。近くに住む従妹のY江が、いつもの騒々しきでやってきた。

彼女は父方の叔父の娘で、物心ついた時から年上の私を「姉ちゃん」と呼ぶ。中学の時、叔母が亡くなり、以来病弱であった叔父と年子の妹の母親的立場をとり、人並みに縁談も持ち込まれたのに長女の責任感が、とうとう独身を通させた気がする。

妹のM子は平凡に妻となり母、そして現在は三歳の

孫の「おばあちゃん」だが、Y江は相変わらず職場のリーダーとして働いている。一見気楽な一人暮らしだが、時には淋しさや職場のストレスが溜まると「姉ちゃん、聞いてエ」と私に逢いに来る。「ウン、ウン、ナニヤの?」と、こちらも調子を合わせる。二人の間柄は姉妹以上で遠慮もない。家業のすし店が忙しい時など「ちよつと時間空いてたら手伝ってエ」と呼び出すと疾風のように駆けつけてもくれるのだ。

Y江は、私の亡き母が病床にあった時も義理の伯母なのに、その接し方は甲斐がいしく、親身になって世話をしてくれた。そのことでは忘れられない恩義がある従妹なのだ。

Y江は険しい表情でツカツカと私の側へ来ると、「やつと連休取れたから一日だけM子の家へ行こうと思って、チーちゃん(Y江にとってただ一人の姪の娘)の顔が見たくて電話したら何て言ったと思う?」「どう言った?」

「M子が来たらアカンて言うのんよ。なんでやのって聞いたら、あのK子(Y江の姪)のムコ殿のせいやねん」

口調が次第に興奮状態になってきたのはY江が怒り狂い出した証拠だ。

五年前、M子の一人娘は公務員の妻となった。そして新婚夫婦は公務員住宅でハネムーンベビーも誕生

し、ささやかながら平和な暮らしをしていた。

ところが二年前M子夫婦の住居を二世帯住宅に建て替えて娘一家との同居案が出た。Y江も第三者の私たちも、かすかな不安を感じた。なぜなら温和なM子の夫が二世帯住宅の中で居場所を確保できるだろうか……と。

確かに一人娘を嫁がせたあとのM子夫婦は急に老け込んで見えたり、再び娘たちと生活できるのは、夢のように甘い願ってもない話だった。無条件で喜び、やがて二世帯住宅は敷地を提供する親、建物は娘夫婦が大部分負担（ローン）で完成した。

外見には仲むつまじい生活の始まりかに見え、M子夫婦の老後も安泰かと思えた。

だが、引越し当日からY江の言うバカムコ殿の行動は常識を逸したものだ。建物の最高の部屋がムコ殿の書斎として陣取られ、ナニやら昇格（？）試験に必要な膨大な書籍の整理に没頭し、階下で自分達の家具搬入や、それぞれの家具の配置にも、老夫婦と赤ん坊をあやしなから後片づけの妻にも、まるで無関心、無視であったという。そして、その日より入浴はムコ殿が入ってから……との憲法（？）まで出来上がったそう――。

しかも、昇格試験が近づくと家中がビリビリと緊張し小声の会話、我が子さえ泣かすことならん、と息づ



まるような雰囲気なのだ。

いわんや賑やかなY江の訪問など、たちの悪いインフルエンザ以上に敬遠されたのだろう。

「ねエ、あの家、ケツタイやと思わへん？」

「思うよ」

「ウチ、言うたってん。あんたとこ絶対オカシイって。養われてるみたいに気を使ってペコペコオドオドして。バカムコの言ううりになって、アホちゃうの

ん、言った。そしたらM子『梅田で逢おう』って言うから余計腹が立って『いやや。あんたとこへなんか行かへん』と電話切ったってん。Y江はさんざんバカムコの我が儘、氣儘の暴君振りを告げると少し落ち着いて帰っていった。

このところ、新築完成後の門に二つ仲良く並んだ表札を見かけて「幸せそう……」と眺めていたが、すべての家庭が円満とは限らないようだ。ほどほどの距離をおき、それぞれの一家を形成する方が、お互いに「甘え」や「期待」が無くてよいのかも知れない、と従妹の二世帯住宅後日談に重ねて考えてしまうのだが――。

ネコにあこがれるイヌ的なわたし

愛知県春日井市 小栗明子

私はずっと、自分は犬党だと思ってきた。わがまま気まま、自分が世話になつてゐるにもかかわらず、人さまが呼んでも来ないような猫は嫌いだった。飼ったことがないというのも原因かもしれない。犬は鎖でつないで飼ったことがあったけれども猫はなかった。実家

は産婦人科医院だったので、猫を放し飼いにして、もしも新生児室にでも侵入してくれてはまずかったからだ（このごろでは猫だつて放し飼いはよくないのだけど、昔は猫は放し飼いするもの、という感覚しかなかったというわけ）。

犬にも性根の悪いヤツはいる。こつちは天下の公道を歩いてるだけなのに、家の中からうるさくほえるヤツ。しかもご近所のくせに。毎日毎日。いいかげん覚えろ。ケンカ売つとんのかお前？です。しかし概して彼らは「愛い奴」であり、なつき方がすごい。従順。素直。

それに対して猫はどうだろう。こんどは性格のいいほうが少数派である。友達の家へ遊びに行つて、飼いかつ猫をかわいがろうとして顔をひつかかれた、眠いところをなでさわつてフー！と怒られた、噛まれた、などなど。こちらの可愛がつてやろうという気持ちにはおかまいなしだ。偉そうだ。

人間社会は犬的ではあろう。ひとがみんな猫的性格だと、おかしなことになる。猫がいてもいいが、全般にみると犬寄り。多数派の犬で、わたしはいい。その方がいい。ずっとそう思ってきた。

だけど社会に出て、結婚して、出産育児して、なんか身勝手な連中のいうこと聞いているの段々嫌になつてきたよ。

身勝手な連中に言っているのですか？ 高みに立てるほうはいいよ。そうでないほうは生きにくいよ。それと、自分勝手に高みに立たないでよ。なんであなたが私より高位なの？ どうしておなじじゃないの？（いつでもどこでもみんなが全く平等な立場でないといけない、とは言っていないよ。猫社会にだって、ルールはある）

連中は男だったり、親だったり女だったり。

社会に出る前嫌な思いを抱かせられたのは、親からのものが多かったのではないか。とにかく逆らえない相手。経済力を握っているから。朝起きてくると、まず子供のほうから挨拶しないといけないかった。子供が口を開いてはじめて挨拶が返ってくる。こんなのはおかしいと自分が親になった今思う。親が（自分のかわいがりたいたいときに）子供を抱きしめたたん「嫌だア」と言ったら「ア、ごめん」でいいじゃないの。これを何だっと思うのはいばった親だ。ありがたがられなくても仕方ない。

友人の飼い猫が、友人の夫にけつ飛ばされた。その母猫は産後で授乳中だった。みんながおなかをすかせて鳴いてたとき、子猫に用意した離乳食を、母猫が飛びついて食べ始めたのを見た夫が怒ってけつ飛ばしたのだ。友人は、「わたしは、まず母猫の食事から出してやればよかったのだけど」と言っていた。それから



というものの、その夫は留守宅に自分一人で帰ってくるのができなくなつた。留守宅にいる、蹴られた母猫が、ものすごい勢いで襲いかかってくるからだつた。猫が本気で人を襲うと男の人でも満身創痍になつてし

まう。この話を親に話したとき、「人を襲う？ 猫の分際で、か！」と驚いた。わたしも実は、はじめちよっとその猫に反感を抱いた。でも今はそうではない。授乳するって、すごく大変なことなんだから。

猫の分際で——子供の分際で——女の分際で。

ネコを怒るな。自分の可愛がつてやろう、という勝手な気持ちでさわつといて、嫌がられて怒るな。そういうことを、このごろほんとによく理解できるのだ。でも、ついイヌしてしまう毎日だなあ。長年刷り込まれたものは、変わらない。

今度生まれかわるなら、猫の雌もいいな。なにしろ猫にはレイプがないよ。（これが猿とか、ちよつとヒトに近づく、駄目である）ヒトの雌にも、レイプさえないければ、完結した自由があるとすら思う。いのちある限り、どこにでも行け、尊厳を保てる、そんなネコに、わたしはあこがれる。

みどり豆

和歌山県田辺市

奈桃有子（63歳）

みどり豆を収穫した。三ギロ余りあった。みどり豆

とは大豆で、普通の大豆はベージュ色だが、この豆は真緑だからそう呼ばれるのだろう。

昨年の初め頃友人のSさんが私宅に来て、

「このみどり豆、炊いて食べて」と言うので袋ごと差し出したから私は面喰らった。

何故かというとな彼女は、みどり豆に大層執着していて、これを買う為にわざわざ龍神村迄出かけるか、行けない時はあちらの人に頼んで買ってもらえるのだと常々聞かされていたから、私はそんな大切なもの頂けないとはつきり言った。

彼女とは十年來の交流で互いの性格は百も承知である。

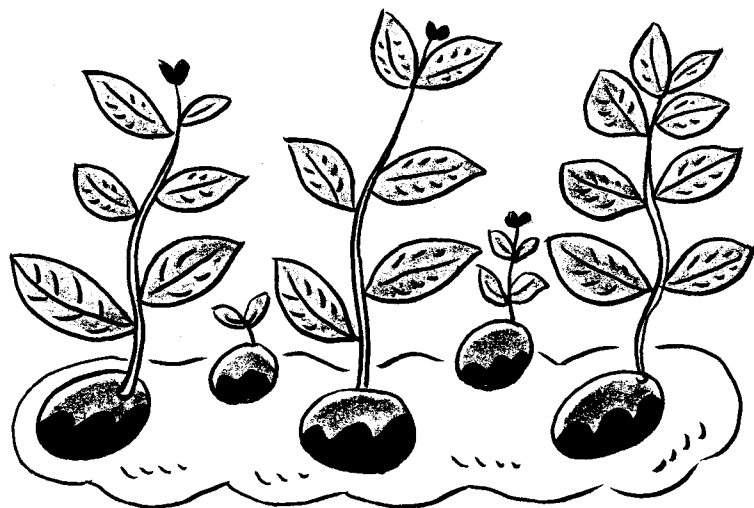
「大事な豆やろうに、なんで？」

すると彼女は私に向かってこう言ったのだ。

「おとうさんの病状、これから大変になってくると思うんやわ。ゆつくり豆なんぞ炊いてる間ないわ、そやさかいにあんたに食べて貰おうと思って持ってきたん」
私は応えるすべをしらず絶句した儘、豆を受け取った。

彼女の夫はコンクリート会社の社長だが、重い病気で療養していた。

「大豆は良質の蛋白源」としきりに謳われ出してからようやく食べ始めた私とは違って、彼女はかなり以前からの大豆崇拝者だったようで、私はそれに触発され



たと言ってもいい。

しかし私の方は、そこいらのスーパ一の普通の大豆で結構事足りている。彼女のみどり豆へのこだわりを見てみると、とても並みの感覚やないなあと感心を通り越してあきれてしまう。

三、四年前だったか、私は自分で作った大豆が食べたくて畑に蒔いた。ところが一粒も穫れなかった。鳥害であった。そしてまた再度挑戦した。網の袋を被せて鳥の頭脳に対抗した。しかしこれも見事に失敗した。今度は丈が驚く程に伸び、葉も青青と大きく広がったのに肝心の実はいつ迄待ってもべったんこ。結局実らないで萎んで枯れた。

いろんな人に聞いて判ったのだが、肥料をやり過ぎるとそうなるらしい。それからもう億劫になり専ら買手一本できた。

この時彼女に貰ったみどり豆は一キロで、私はその半分以上をすぐに煮て食べてしまった。残りは次にと缶へ入れて置いた（この時点では食べるつもりだった）。

そうこうするうちに春は過ぎ、六月になった或る日はふっと思いついたのだ。確か今が大豆の蒔き時だと……。缶を掘むと畑へ走った。今迄の失敗を思い出しながら新しい土選びだ。昨年植えた茶の苗木の間を手鋤で掘り、苦土石灰粒を土にまぜその上へ豆を三粒

ずつ置いた。

三度目の正直!! 芽が出た。茎が伸び葉が繁り出した。肥料はやらんぞと決めているから世話はない。

真夏になると茶の苗木は豆の葉っぱで見えなくなつた。

私は畑へ行くと必ず豆の畝にしゃがんで豆に向かつて大声で話かける。

「大きくなったなあ、賢いなあ、ようけ実いつけるんやでえ。暑さに負けんようになあ」

そのうち妙な事に気が付いた。異臭がする。豆の中だ。葉っぱをかき分けて顔を近づけよく見ると、何とカメ虫がまだ実の入れぬ小さいサヤにウヨウヨ鈴なりうごめいている。

私は思いがけない新手の敵にいきさかたじろいだが直ちに撃退作戦を開始した。

知人から頂いた「木酢液」^{もくすいぎ}、あれを使おう。備長炭から抽出した病害虫駆除にうってつけの自然液と聞いている。これを約五、六百倍に薄めて背負いの噴霧器に入れカメ虫目がけて吹きつけた。日を替えて繰り返し返すこと五、六回。

収穫を目的の専業農家なら、サツと農薬を合わせて一撃!!と簡単に済むが、農薬のノの字も知らず安全な食材を作るにはそれなりの苦勞、いや体力、智?力が必要。

初老の身には少々こたえる。

昨年の夏は暑気がいつ迄も居残つて生物はみなへこたれそうだった。やつと秋の気配が感じられる頃、みどり豆の葉は黄色から茶色に変わった。豆のサヤは指でつまむと撥ね返す程に固くなった。

何の道具も機械も持たない私は、さながら古人^{いにしへのひと}を彷彿とさせる手段を念入りに繰り返し、ようやくに収穫にこぎつけたのであった。

先日孫を連れて扇ヶ浜で遊んだ。数知れないたくさん鳩が私達の足許で豆をついばむ。収穫した豆の中から食べられないキズモノを選び出す作業を、目の悪い私に代わって、みどり豆の親元であるSさんがやってくれたのであった。

キズモノ豆も鳩にはごちそうと見える。

Sさんのご主人が彼岸へ旅立たれて数カ月。みどり豆を蒔いて収穫する迄のたったこれだけの日かずの中で、私の身辺で一人の大切な命が消えた……。順風満帆で生きてきたSさんの初めての大きな試練の年であった。

自分の手で作りたいと挑戦する事三回目、実ったみどり豆は私にいろんな事を教えてくれた。

(え・小沢恵子)

いのち、はるか

— 老親介護の日々 —

新潟県中蒲原郡 小林智枝

病室の人間模様

患者の入れ替わりは激しい。向かいのベッドのNさんが退院すると、Hさんが入ってきた。尿管をつけて昼も夜も眠っていた。ばったりと寝たきりで動けない。私は食事の時にベッドを上げたり、物を取ってやつたりと何かと気を配った。不自由さが母をみていてよく分かるからだ。髪の毛が黒々していたので若いと思っていたが、染めているようで、八十三歳と聞いて驚いた。がっかりとした体格で、純朴な感じ

じのする人だ。働いている家族のために家事をこなし、病気をしたこともなく元気だったのに、転んで背中を打って、動けなくなったとのことだった。家族は夜ちよつと来るが、世話をやいてもなく、顔を見るだけという感じがする。動けないので、枕元は髪の毛やごみがちらかっている。看護婦が来ても忙しいのか、見て見ぬ振りだ。私は気が付くと払ってやつたり、声を掛けたり、点滴が終わる合図をしたりした。ある日、私が病院へ行くのが少し遅くなったら、「今日は来ないのかと、がっかりしていた」と言った。そ

の言葉から、動けない患者の心細さが伝わってきた。一週間ばったり寝ていたが、突然起きて歩きだした。もともと丈夫な人なので、回復が早いのかもしれない。

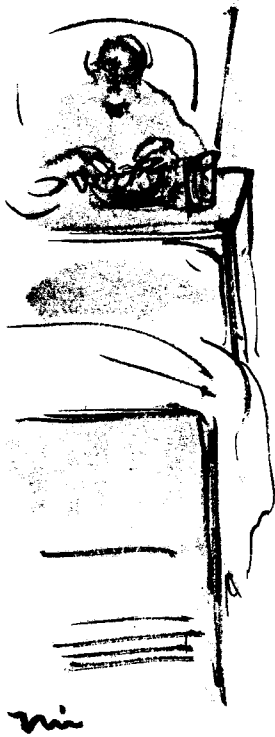
Nさんは別の病室へ移り、その後に妊婦が入ってきた。自己流の体操をして、骨にひびが入ったとのことだ。帝王切開で大きな女の赤ちゃんを産んだ。

悪性の風邪を引いた幼児が入ってきて、点滴をしていた。母親が付き添っているが、よく泣いていた。その後も幼児が入れ替わり入り、ステレオのよ

うに泣いて、母は夜も眠れないと困っていた。

母のベッドの左側のKさんは、七十歳代と思われるが、物静かでコトリとも音を立てない。転んで大腿骨骨折し、手術したとのことだ。ひとりです椅子を操り動いていたが、歩くと足が痛いので検査をしていた。「去年の秋まで自転車に乗っていたのに」と寂しそうだ。

私が洗面所で母の入れ歯を洗っている



ると、Kさんが車椅子で通り、自分のほうから話し出した。

Kさんは二月に、娘さんを心筋梗塞で突然亡くされ、三月にご自身の入院となったとのことだった。娘さんが元気ならば、看病に病院へ来てくれただろうと思うと、悲しみの深さは計り知れないに違いない。それでも、にこにこ話をして、静かにひとりで頑張っているKさん。早く歩けるようになって欲しいと願わずにはいられない。

おしゃべりTさんも入ってきた。誰かれ構わずおしゃべりをする。こと細かく目に見えるように話す話術に感心し、そのエネルギーに圧倒された。しかし、周りの人が困っているのが分かっていても、しゃべりたいのだから、寂しいのかもしれない。

廊下で近所の奥さんにはつたりと会った。九十歳のおばあさんが、膝の骨を折り、手術をしたとのことだ。二年前に大腿骨骨折で、右と左を二回手術し、今度で三度目という。気の遠くなりそうな話だ。

女性は何年を取ると、ほとんどの人が骨粗しょう症になるといわれているが、そのために母と同じように、転んで入院した人が多いのには、びっくりしてしまった。骨を丈夫にすることがどんなに大切なことか、改めて実感した。

それにしても六人部屋の病室は、動けないおばあさんと、妊婦と風邪の幼児という賑やかさだけれど、風邪がうつらなければいいかと気になった。

弱つていく足腰

入院してから七日目の夜、母がベッドの柵につかまって、ひとりで起きようとしていた。Ｔさんと私は思わずかけ声を掛けた。

「もう少し、ほらもう少し、頑張つて」

そこへ夫が仕事の帰りに寄った。三人がはやし立てる中、初めてひとりで起きた。今までできなかったことができるようになる喜びは、赤ちゃんが初めて立つたり、歩いたりしたときと同じだ。暗闇にようやく明かりが見えたような気がした。

しかし、翌日母をベッドに腰掛けさせて、ボールに汲んできたお湯で足を洗っていたとき、

「この病院がどこにあるか分からないし、自分の家もどんなだったか思い出せない、どうしてこんなに、みんな忘れてしまったのだろう」と言い出した。

案じていたことがきたかと思った。

年を取ると、枕に頭が着いているだけほけが進む、と姉が言っていた。母も入院してから、昼も夜も眠ってばかりいるので、物忘れが進むのではないかと心配していた。そのために、軽くて持ちやすい本や新聞を持ってきて読ませるようにしていた。自分の家を出せないというのは、ただごとでないと感じた。それでもこのころは、本を手に取り、活字に触れようとする気力がまだあった。やがて本どころではなくなるとは、誰も考えてもみないことだった。

母がベッドの上に取り上げられるようになったので、私は夜病院へ行くことを止めた。それで少し楽になった。それでも、一日も休まずに通うのは結構きつい。朝これからまたあの病院へ行くことを考えると、気持ちが悪む日もあった。そんなときは、母が待っていると思う、鏡に向かってエイとばかりに口紅をぬり、自分にハッパをかけた。

ようやく母を風呂に入れることになった。

私は看護助手が入れてくれるのかと思っていた。それでも大変だろうから手伝おうと考えていた。ところが母を風呂に連れて行き、パジャマを脱がせたりしても看護助手はいっこうに現れない。そうか、私に入れるというのか、とようやく気付き、洗い場に母を入れた。母は思うように体を動かせないし、背中がまだ痛い。そんな母をどうしたらいいのか戸惑った。浴槽に入れるのが大変だ。手すりが付いていたのでつかまらせ、慣れない手つきで、足を上げたり体を支えたりしながら、ようやくお湯の中に入れた。転んで以来半月振りだ。

「ああ、いい気持ち」と言う母の言葉に、私までいい気持ちになってくる。体と髪を洗い終えたころ、「どうですかあ」と看護助手が現れた。ところが素人の悲しさで、汗だくになってやつても余裕がなく、母のお尻にできていた床ずれを見つけることができなかった。「あつ、じよくそうだ」と看護助

手が大きな声を上げた。左のお尻が五センチくらい赤くなり、皮が破けそうになっていた。

看護助手がナースセンターに連絡をしてくれて、ベッドに戻ってから手当をしてもらった。消毒してから針で穴を開け、血を出した。それから薬の付いた湿布のような物を張った。痛くないようだが、治りにくく始末が悪い。患者にじよくそうを作ることは看護婦の恥と聞いたが、翌日からは忙しいのか忘れていて、催促しないと薬を付けてくれないのは困ってしまった。退



mi

院後もなかなか治らず、二カ月くらいしてようやく治った。

一回目の入浴は、私ひとりでなんとかできたが、五日後の二回目には母の足腰が弱り、私ひとりでは無理になってしまった。幸い、姪の明子が来てくれたので二人で入れた。

私は母の足がどんどん弱っていくのがとても心配だった。そこで二男に相談し、母に足の運動をさせることにした。

ベッドの後ろに立たせて、柵につかまらせ、足を少し開かせる。転ぶと悪

いので、私が後ろから母を抱くようにして支える。爪先立ちを二十回、膝まげを二十回、足踏みも二十回させる。

さらにベッドに腰掛けさせて、両足をゆっくりと上げたり、下げたりさせた。

「一、二、三、四」

私は声を出してゆっくりと数え、母の気持ちを奮い立たせるようにした。少しでも回復するようにと祈る思いだ。

トイレまで母にウォーカーを押させて連れて行ったが、途中で母の足がもつれ、私が付いていながら、崩れるように転んでしまった。老いてから寝込むと、足の筋肉がみるみる落ちて歩けなくなる。それは坂道を転げ落ちるような早さだ。

「体がだるい、眠くてしょうがない」と母が言い出した。

この時すでに、幼児の悪性ビルスが母の体内に宿っているとはつゆ知らず、私は夜、姉に電話した。骨に異常がなかったのだから、これ以上足が弱ったり、物忘れが進まないうちに退

院させたいねと、二人の考えは一致した。夫も賛成した。

翌日私は病院へと行くと、再び看護婦に、先生に相談したいとお願ひした。眼鏡を掛けた中年の看護婦が出てきて、どういう相談かとしつこく聞いた。

夕方、姉と一緒にナースセンターで先生に会うことが出来た。

「MRIの結果は、骨には異常がありませんでしたよ。骨粗しょう症が進んでいますね。若いころ、栄養もとらずに働いたんですね」

と言う医師の言葉に、

「そうなんです」

と、私と姉は同時に力を込めて答えた。骨のレントゲンで人生が分かるなんて、凄いなと思った。母の骨の弱さは、娘の私たちにも遺伝し、現に私はホルモン療法中なのだから、よく理解できた。

「娘さんが面倒みると言っているんだから、退院してもいいでしょう。せっかく入院したんだから、一応、内科の

先生に診てもらいますか」

「はい、お願いします」

ということになった。

すぐにでも退院できる気がして、喜んで病室へ行くと、夫と二男が相次いで来ていた。

「おばあちゃん、よかったね」

二男の明るい声で、母は元氣百倍のように嬉しそうだった。それでも私は、体がだるいと言って眠ってばかりいる母がベッドから落ちなければいいかと心配で、看護婦によくお願いして

病院を後にした。

院内感染

翌日いつもの道を自転車で通ると、桜が一気に花開きはじめた。

「ああ、とうとう咲いたね、母ももうすぐ退院だから、それまでずっと咲いててね」

桜を見上げながら、退院が間近というので軽くなった心の中で語りかけた。



病室へ行くと、母のベッドに見かけない人が横たわっていた。私はその意味が分からず、ぼかんとしている、隣のベッドのKさんが心配そうに教えてくれた。

「小川さんね、今朝ベッドから落ちたんですよ。声も出なくてね、看護婦さんに来てもらったんですよ。それでね、三一二号室に移ったんですよ」

私はびっくりして飛んで行った。昨夜の嬉しそうな母とはうって変わって、青い顔をして、ぐったりと眠っていた。

「朝方、吐いたり下痢したりして、ベッドから落ちたり、汚いし、大騒ぎだった。看護婦さんが始末してくれて、この部屋に連れてこられた」と、弱々しく言った。

今度の病室は、入った途端異様な雰囲気だった。高齢なお婆さんばかりで、お叱りを覚悟で、分かりやすくないならば、姥捨て山のような感じがした。

私はナースセンターへ飛んで行っ

た。

「母はどうしたんでしょう」

私が余程慌てているように見えたのか、中年の眼鏡を掛けた看護婦が、私を制するように言った。

「転んだだけです。転んでびっくりして、漏らしただけです。落ち着いて」

私にはとてもそんな風には見えない。看護婦が続けて言った。

「今朝内科の先生に診てもらいました。詳しい血液検査の結果が一週間後になります。もし異常があったら、必要に応じて胃カメラを飲んでもらったりして」

「えっ、こんな時に胃カメラですか」

「必要ならばですよ」

と、再び私を制するようにして手を挙げた。正常と思われない状況なのに、胃カメラなどという前に、納得できるように説明して欲しかった。

「転んでびっくりしたただだから、騒がないでください」

と同じことを言った。

「どうして病室が突然変わったんですか」

と聞くと、

「看護の都合です」

という答えが返ってきた。これ以上何を聞いても、ちががききそうもない。寂然としない気持ちで病室へ戻った。

「おばあちゃん、どうしたの」

妹と明子が、病室が変わっているの、びっくりした表情で現れた。

「吐いたり、下痢したりしてるの」

と言うと、

「やっぱ、赤ちゃんたちの風邪貰ったんだ。私も病院へ来るたびに、軽い下痢して変だなと思ってたの」

と、明子が言った。

それではよく分かった。前の病室の幼児たちの菌をもらい、幼児のいないこの病室に移されたのだ。それにしてもあの看護婦は、転んでびっくりしたただだから騒ぐなど、私に何度も言ったが、本当にそう思っているのだろうか。やがて、それが悪性ウイルスによるものと分かるのに、時間はか

からなかった。

母の下痢は止まることを知らないかのように、たれ流しとなり、おむつを重ねても足りず、ベッドの上にまでおむつを敷いた。せつかくおむつは外していたのに、再びおむつに頼らなければならなくなった。ふと見ると、パジャマのズボンが汚れていた。全部着替えさせたほうがいいと明子が言つて、看護婦から清拭用の熱いタオルを借りてきて、母の体を全部拭いてくれ

た。おむつを替えようとしたら、替えている最中にも流れ出た。凄まじい下痢だ。下痢止めを飲ませても簡単に止まらない。体力の弱っていた母はみるみる衰弱していった。例の看護婦に、今晚どうなるのでしょうかと聞いたら、「本人の前で騒がないでください。心配だったら、家族が泊まったっていいですよ」と、暗に泊まれと言わんばかりだった。転んだだけでは大違いじゃないですかという言葉をぐっと飲

み込んだ。

ポータブルトイレに用をたさせて、立った途端に、またずるずると流れ落ちてくる有様だ。母はどんなにか苦しみに違いない。夕方再び下痢止めを飲ませて、夜になってからようやく止まった。

姉に電話したら来てくれて、夜遅くまで残ってくれることになった。私は今までの疲れが相当にたまっていたので、夜遅くまでは体が保たなかった。

家へ帰って床についてから、眠らなければと思っても、神経がびりびりして、病室の母と姉の姿がまぶたに浮かび、なかなか眠ることができなかった。

翌日寝不足のために痛い頭で、大急ぎ家のことを済ませると、早めに病院へ向かった。

母はいくら声を掛けても眠ってばかりいる。昨夜は三十八度も熱が出たとのことで、水枕をしていた。昼食の時間になり、ベッドを上げて、母の体を枕で固定した。入れ歯を入れようとす



るが、ひとりで入れられない。今まではちゃんとひとりで入れていたのに。

上は総入れ歯で、下は一本だけある自分の歯に固定させるようになっていゝる。十分も十五分もかかってようやく入れた。スプーンを持たせたが、自分で口に入れることが出来ずに、手元がふらふらしている。おかしい。仕方がないので私がスプーンを取り、母の口に入れた。昨日は一日中何も食べていないので、今日は食べさせたかったところ

が口に入れた物が、だらだらと流れ出てきた。更に驚いたことに眠ろうとする。お茶を飲ませようとするが、これもだらだらと流れ出てくる。それつが回らず何を言っているのか聞き取れない。私は何が何やら分からず、途方に暮れてしまった。

「脑梗塞ですか」と、隣のベッドのMさんの家族が私に声を掛けた。

「えっ、風邪じゃないかと思うんですけど、どうしたんでしょう、こんなじゃなかったのに」と言う、

「うちのお婆ちゃんも色々あったけ



ど、脳の細かい血管がぷつぷつと切れていて、こんなになってしまったんだよ。お宅も症状が同じだから、脑梗塞かと思ったわ」

と息子さんの嫁さんらしい人が言った。

私は心臓が飛び出るかと思うほど驚いた。胸がどきどきと鳴った。例の看護婦には落ち着いてと言われていたが、頭に電流が流れるように、脑梗塞かと早とちりをした。

「お婆あちゃん、どうなったの」

思わず私は母の手を取った。

「家へ帰る」

母の口からようやく聞き取れた。

ナースセンターへ飛んで行って、

「母の様子が変なんです。先生に診てもらいたいんですけど」と言う、例

の眼鏡を掛けた中年の看護婦が、

「風邪のせいですよ」と私を制するよ

うに言った。昨日は転んだせいだと

言ったし、今日は風邪のせいだと言う。

しばらくすると、先生が回診に回っ

てきた。メガネの看護婦も付いてい

た。

「先生、母の様子が変わなんです」

と、症状を説明すると、

「子供の悪い風邪が流行っていたからね、早く退院していればよかったね」と医師が言った。

「やっぱり、三〇六号室の子供たちの風邪がうつったんでしょ」

と私が言うと、医師はうなずいた。

「小川さんに、頭のCTと胸のレントゲン」

と看護婦に指示して、別の病室へ回った。

せっかく退院させようとしていたのに、これからどうなるのだろうと、無念と不安で一杯になった。姉に電話すると、すぐに来てくれた。

「こんな形になろうとはねえ」と言って、深く息をつき考え込んだ。姉は経験上、先が見えるのかもしれない。

「昨日、婦長さんが来られてね、おばあちゃんに退院したいですかって聞いたら、病院のほうか賑やかでいいなんて、愛想言うんだよ」

と姉が言った。信じられない言葉だ。

「おばあちゃんは、本当はどうしたいんだろうねえ」と姉が続けた。私は母の手を取り、ゆっくりと母に聞いた。

「おばあちゃん、病院に居たいの、家へ帰りたいの」

母は目を閉じて言葉を探していた。

きつと頭はもうろうとしているのかもしれない。何か言っているが聞き取れない。私は母の口元に耳を近付けた。

「半分半分だ」とようやく聞き取れた。

「半分残りたいのはどうしてなの」と聞くと、「帰りたいけど、治るものなら病院に残りたい」と、ようやく聞くことが出来た。

もつともな話だ。どんなにか家へ帰りたいに違いない。しかし、少しでもよくなるものなら、病院に残って治したいというのは道理だと思った。すぐにでも家へ連れて帰りたいとばかり考えている私より、しつかりしていると内心思った。

(続く)

(え・佐藤瑞江子)

**お友達に「わいふ」を
おすすめください**

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代プラス送料とも一号延長。

「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください

●結婚、赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みいただければ、新読者に、贈り主のお名前とプレゼントのおしらせを同封の上、一年分、計六回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一号分延長させていただきます。

●また十冊以上ご購入くだされば割引がございます。

自力整体法

足腰、ひざの痛みを治す

矢上 裕 著



矢上 裕著
農山漁村文化協会
定価1400円

東京都八王子市 和田好子

私は整体で二十年来の肩凝りを治した経験がある。一刻も止まないひどい肩凝りで、お医者さんに相談して薬をもらったこともあったが無効。内臓が下垂していると、頸骨が老化しているとか、いろいろ原因はあげられたものの、対策はなかった。それがあの人にすめられて整体に通い、半年でうそのように治ったのだ。その後も月に二、三回通って

いるが、再発していない。

腰痛にも大へん有効なようだし、西洋医学で治せない、これらの症状には威力を発揮するものだと思う。

本書の著者は鍼灸師であったが、大へん肥満し、腰痛と坐骨神経痛を起こしてしまった。それをヨガの体操と食生活の改善で治した経験から、整体の道に入ったという。

治療所を開いているが、単に治療をするだけでなく、効果を持続、定着させるための「自力整体法」を考案し指導している。

腰痛やひざ痛など、体の痛みを起す原因は、体の「ちぢみ」「ゆがみ」「ゆるみ」にあるという。ちぢみの元は骨盤のゆがみであり、ゆがみは筋肉のゆるみからくる。すべてが連動して痛みを起すわけで、こ

れらを正さないと治らない。

整体師に正してもらっても、自力で正す生活をしなければ、また戻ってしまう。

本書にはたくさんの写真が載っていて、見ながら「自力整体」ができるようになっていく。

さらに食生活を正さなければ、整体の効果も完全ではないとあって、ちぢみ、ゆがみ、ゆるみを防ぐ食事法を提唱する。筋肉を柔軟にし、骨を育てるためには、動物性たんぱくを控え、油、塩を制限し、穀物を中心にしてカルシウムを多く含んだ食事を摂ることとある。

著者自身この食事法でダイエットに成功しており、要するに健康を保つには、食事、排泄、運動、すべてのバランスが大切ということだろう。

スリー言

強制されて愛国心は 生まれるか？

東京都日野市 十河温子（47歳）

入学式・卒業式のゆううつな季節がやってきた。「日の丸」に敬礼し、「君が代」を歌うのか、着席するのか……。私の三男は昨年の四月、入学式で学校長命令である「君が代」のピアノ伴

奏を拒否したことで、戒告処分を受けた女性教師に音楽を習っている。

学校公開の時、そのF先生がどんな授業をするのか興味があって参観をした。

ざつくりと編まれたセーターに身を包んだ細身で小柄の先生がスニーカーを履き軽快に授業を進めていく。授業とは全く関係のないことを口走ったり、先生に対して冗談を言ったり、そんな好き勝手を言う子供たちにF先生はいちいち動じてはいない。相づちを打てるところは打ち、無視するべきところは耳に届いていないようにどんな授業を進めていく。

その日の課題は、自分のリズムを作ることだった。リズムの基本を学習し、理解したあとと自分だけのリズムを二小節だけ作る。それを紙に書き、どの子も残らずみんなの前で発表をする。ゴソゴソしていた子でもちゃんと発表でき、一人一人が大切にされている様子が見て取れた。その後は全員でリコーダーの演奏。これはあまりに上



手思わず拍手をしてしまった。

うちの子は音楽が得意とはいえないが、嫌いではないようだ。恥ずかしくてみんなの前で歌えなくて困り果て、同様の友人と休み時間に先生のところへ行ってこっそり歌っても「よくやっただね」と言われ、それできちんと評価が受けられる、そんな先生の接し方からくるものだと思う。



こういう優秀な教師をただ「君が代」の伴奏をしないというだけで処分し、教師としてのプライド、仕事への意欲をそぐような行為は間違っていると思った。教職員の中で音楽教師だけが処分の対象となるのもあまりに過酷と思う。

いったい文部省はどうなっているのだろうか？「君が代・日の丸」は法

制化したが、決して強制はしないと言明したのにそれは嘘だった。各都道府県教育委員会は、法律を実施させるためヒヤリングと称して各学校長を集め、イエスとの返事をするまで説得を続けているらしい。校長もまた苦難を強いられている。

予算がないからと学校の耐震工事も縮小の中、「君が代」のCD（テープ）を配布し、国旗掲揚台の工事費用の全額補助とはいったいどういうことなのか？「日の丸に敬礼」を命令し、「どうして？」と問われてなんと答えるか？自分の国だから敬意を表するのは当たり前と？その前に国民に尊敬される政府であって欲しい。自分の国を愛したいのは誰しもなのだから。

学習指導要領で、「自ら学び、自ら考えて問題を解決する」の項目と国旗・国家への敬意を強制することとの整合性はどう考えているのか？もっともゆとりの時間とは無縁の学校生活を送り、ひたすら勉強に明け暮れ受験戦争を勝ち抜いてきた官僚に、そのよう

な「生きる力」を育てることを教育の目標に掲げる矛盾を、矛盾と感ずる感性はないであろうから、辻褄の合わぬことでも平気でできるわけだ。

今まで「君が代」の旋律は古典的で慣れ親しんできただけに好き嫌いの問題ではなかった。歌詞だってある歌人によればいにしえの恋の歌というではないか。最近のように、歌え、お辞儀をしろと命令をされることがなければ、私は大きな声で歌っていたかもしれない。

“母親”として

千葉県市川市 流縞さよ（45歳）

テレビ画面に向かって思わず、「エーッ」声をあげ驚いた。新潟の少女監禁事件の全容が少しずつ報じられるたび、憤りが増してくる。はつきり言って、私は、あの佐藤宣行という男



の母親に対して頭にきている。

我が家にも、男の子がいる。高校一年の息子は身長一七三センチ、体重七五キロの立派な体格をしている。この息子、学校の成績がイジョーに悪い。くだらない、勉強が出来ればいいってもんじゃないよ、……等々いくら言われようと、気になる。「人並みの成績になつてくれーい」と思っばかり。確

かに、私さえこのことに目をつむってれば、我が家はずいぶんと平穏に、もしかしたら「うらやましいわーん」などと言われるのかもしれない。

息子の部屋は四・五畳の冷暖房完備。幸いにしてテレビはない。が、アルバイトでもするようになれば、勝手に購入してしまうのも時間の問題だろう。今のところ親の主義が通ってはい

るが。

CD・MDをききまくり『週刊少年サンデー』は息子の愛読書。学校から帰ってくると、ベッドにごろんと横たわり、音楽とマンガざんまい。食事の時や観たいテレビがある時以外は、自室に引き込もっている。

こんな息子にあきれ、怒り、疲れたりのくり返しである。普段がまんしているせいか（私が）、キレて大きな嵐になってしまうことがある。

大きな図体の息子が荒れると、「ゴワイ」。テーブルをこぶしで叩きつけ威嚇してくる息子。肩で押すようにして私に詰め寄る息子。「なぐられるのか」思わず後ずさりする私。夫が割って入ってこなければ、息子は私に「暴力」を振るっていたかもしれない。私の知人らの話からしても、男の子は似たりよったり、というところらしい。念のため、「思い起こしても反抗期らしきものはなかったワーン」と、のたまって下さる諸先輩方もいるにはいる。私は、親に反抗するかしらないかで、

その子の善し悪しは決められない、と思っている。思春期には反抗してこそ当り前とも、反抗しなければオカシイ、イケナイとも思わない。佐藤宣行という人の思春期が、ドーだったのか、どうしてあーなったのかは「識者」に判断してもらうしかない。

あの男以上に許せないのは、佐藤宣行を育てた母親である。七十歳を過ぎ少し腰を曲げ自宅へ入る映像をテレビで観た。年老いて、かわいそうにと同情される方が、きつと思う。新聞の報道によれば、発見された少女自身が監禁されていた九年の間、一度もあの男の母親とは顔を合わさなかった、と証言しているらしい。そして同様に、あの男の母親も、「少女に会ったことはない。知らなかった」と証言したという。

だが、少女が言っている、男の母親とは会っていない事実は、男の母親が証言しているように、「知らなかった」ということの証明にはならない。二人の言っていることは、決して同じ

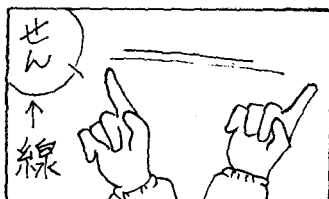
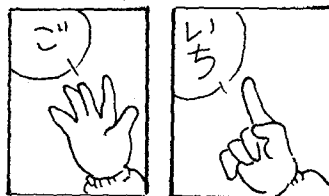
意味は持たない。泣き叫ぶ声や息子だけではない、もう一人の足音や、……ただの一度も聞いていないと言うのか。そんなバカな事が!! シラを切るにもほどがある。

親の思惑通りにならない子育てなら、私もまっ最中である。子供がしかした悪さの全てを親の責任であるかのように言われることに対し、納得出来ないと思う感情が確かに、私にもある。でも、未成年がグレて非行をくり返しているようなこととは話が違う。本人が割に合わないだけのことをしているのなら、親は知らなかった、で済むかもしれない。

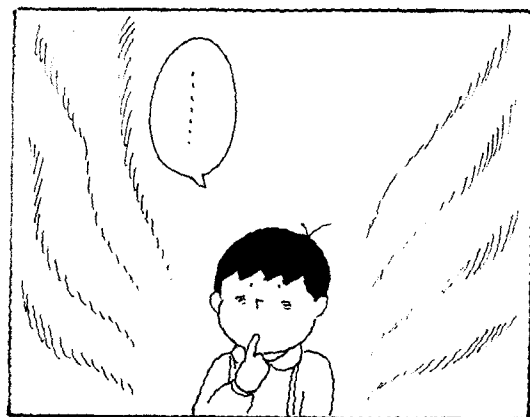
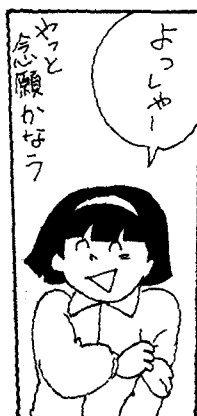
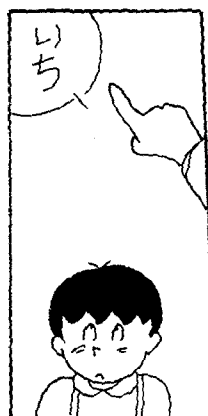
あの母親が、息子かわいさの余り、少女の泣き声や話し声に、耳をふさいでいたのなら、その罪は大きい。少なくとも「生んだ責任」としての罪を問われるべきである。こんな罪名があるかないか知らないが、まさに「かんとく不行き届き罪」ではあるまいか……。自戒を込めて、思う。

(え・弘法堂蔵二)

これが 子供の生きる道 栗田光*



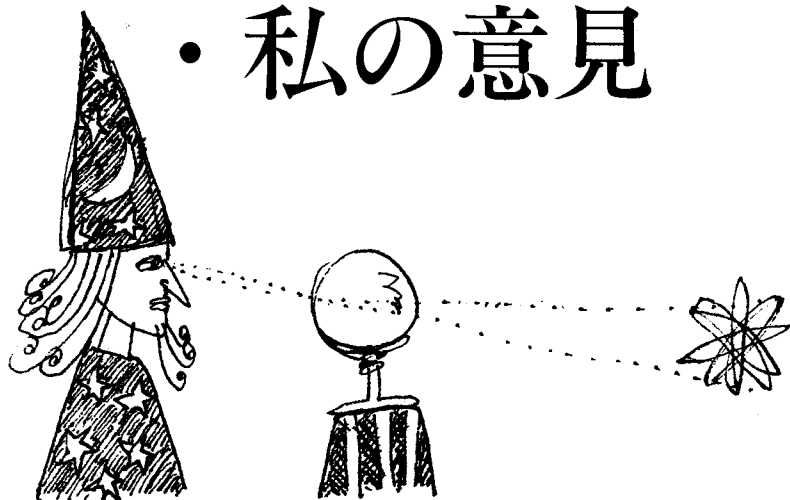






座談会 私も言いたい

占いと運命判断 ・私の意見



出席者 小林三輪子 鈴木紀美枝 匿名
玲奈
司 会 田中喜美子 編集部 和田好子

占いとの関わり

司会 今日には占いや運命判断の話ですけれども、まずどういふことで占いのその他に関わられたか、最初のスタートラインを話していただいてはいかがでしょうか。

小林 学生時代に、ルネ・バンタール・渡辺さんという方が個人的に見てくださって、それで西洋占星術というのに魅かれて、だいたい天文学とか好きだったんです。

子供の時、海でひと夏を過ごして、漁村だったから星空がきれいだった。今みたいにテレビやCDとかもなく、子供が退屈しないよう、母が天文図とギリシア神話の本をいっぱい持ってきてくれて、あれはなについて星を教えてくれたりしたんですね。それで天体に興味を持って、占星術に入っていったんです。

あと、氣学は母が好きで。うちは代々呉服屋で、できがいい叔父がいたんだけど、結局跡をとる人がいなくて、結婚して出ていった母が戻ってきて跡を取っていた。

占いが来て「男の子は立たない」って言った、というような言い伝えがあるんですよ。祖母は結婚したんだけど、男の子が死んで、一人で帰ってきて婿養子をとったとか、父がうちにいったばかりで四十代で他界をしたとか。それで母が不安になって、氣学を見してくれる方を探したんですね。

で、新潟三区、今五区ですけど、越山会というのがありまして、

司会 田中角栄の？

小林 ええ、おひざ元です。政治家もああいうこと、お好きでしょう。

司会 そうみたいね。

小林 越山会のあるメンバーに、高島易断の大元だとかと威張っている東京の先生を紹介されたの。母が東京の事務所に行つて、その大先生に出張でうちまで来ていただきました。今から二十五年前、車はリンカーンでした。

年会費はウン百万円単位だったし、「家相がよくない。この土地では男の子は育たない」とか言われて家を建て替える土地を求めたのね。だから信じられないお金がバーンと動いて、母は氣学によって家を建て

直したんです。

占いを頼るについて、批判はあつたの。その先生の裏をとるっていうか、確かめる方法がないじゃないですか。紹介してくれた人も、長年の友人っていうわけじゃなかった。越山会の会合で出会ったある方の紹介で。

母は、おばあちゃまには「氣が違った」とか言われるし、たつた一人の弟の叔父に「大金も動くことだし、占いの先生を信じていいかどうか不安だから、一緒に見に行つて欲しい」って言ったら、にべもなく「そういう有資産者の暇な付き合ひに私は付き合いたくない。私は一介の給与所得者であるから、そんな暇も時間もありません」って言われて。頼るものがなかったんでしようね。

司会 その時、急に占いを頼られたのは、以前から「このうちは男が立たない」とか言われていたことで、それは当たったんだとお思ひになったわけ？

小林 とっても元氣だった父が、突然亡くなったし。

司会 何だったの？

小林 ガンだった。

司会 ガンで、ばたっと？

小林 四十代だったから、手術して六カ月。

司会 ともかく言われたとおりになすつた。

小林 そうですね。方位を見て、土地を求めて。その土地に入らないといけないと言われて、仮住まいみたいに裏玄関とキッチン、水まわりだけ作つて先に入りましたね。

一日十三時間以上、六十日間、根がつくまでそこにいる。ということは何かつこうな作業なんですよね。

司会 外出できないわけね。でも、寝ている時間を入れれば大丈夫か。

小林 その先生もなかなか商売がお上手で、先生の義理のお兄さんて方が建築家で、図面をさつと持つてきて。

司会 あるでしょうね、つながってるっていうのは。

小林 業者も越山会の絡みでさささつと全部そろつて。

和田 もうチームワークができてたんだ

な。

でもそれで、出来上がってよかったわけでしょう、結果が。

小林 その家はね、確かにこれが氣のいい家かなって。

一応私たちに家族の趣味というのはあるじゃないですか。幸運にスタートした人たちだったから、長岡で初めての鉄筋コンクリートの住宅っていうのが両親の新婚の家だったし、家は何軒か持っていた。母も自分として建てるのは三軒目くらいの家だったから、興味はあるわけですけど、あてがいぶちに建ててみた。付けた条件は、天井は高くして欲しいとか。

そうしたら、出来上がった家は進歩的な家からおよそ遠い、昔の農家をちよつと住宅用にしたような、天井が高いがらんとした家だった。真ん中に一本廊下があつて、広縁があつて。

司会 今もそこのおうちなの？

小林 私一人しかいない。寒いし広いし、ちよつと持て余しているけれど。

母は昭和五年の三月生まれなので、その方位に合わせて建てているんです。だから、

ら、その家というのは、私が住んでいい家ではなくて、午年の人が住む家なんです。

司会 いい家でも人が違うとだめなの？
玲奈 主に合わせているんですね。

司会 でも、男の子が育たないみたいに言われて、そこから生まれるわけでもないし。

小林 弟が後を継ぎました。その子を生かしたかったんですよ。

司会 だからほら、「お家を建ててよかった」ってことにはなりますよね。

小林 当初はそう思っていましたよね。

で、いろいろこたこたがあつて、別の占いの方に家相を見て欲しいって図面を送ったら、こんなに家相のいい家は見たことはないとおっしゃって。そりゃさうよね、家相見が建てた家なんだから。

和田 やつぱり当たったわけだ。

小林 というか、氣というのはあるというか、こういう家にいたら、こせこせした気持ちにならないうで晴れ晴れするとか。

そうですね、あの家を建てたこと以来、占いづいたかもしれません。

鈴木 私は魚座なんですけど、小学校高学

年の時に、やつぱり興味があつて本屋さんで魚座だけの本を買って、「魚座の日に生まれた人は、みんなこうなんだろうか」って、ちよつと疑問を感じながらも、こういうことあるんだろうっていうふうに見てました。ま、いいことがあれば読んで嬉しいっていうのはあると思うんですけど、特に占い好きということもなく、そのあと関わりはなかったんです。

それから何かのメディアで、姓名判断をやってる先生みたいな方が「あれは統計学である」ってふうにおっしゃっていたのを聞いたんですね。「長い年月をかけて、中国や日本で統計的に人間観察をしてできたものである。それだけ信頼できるものなのだ」という話を聞いて「ああ、そうなのかな」って、その時は思いました。

そのあと二十年ちよつと前に、一時期、血液型人間学みたいな本がはやつて、弟が本を買ってとつてもはまっていたんですね。それ以前は、血液型によって性格とかが違うっていう話はなかった気がするんですよ。

司会 そうです。

鈴木 血液型によって性格的な違いがあるってことは全くあり得ないんだ、って科学的には言われながらも、一時期は入社条件にしたりとか、会社のネームプレートに血液型が書いてあったりとか。巷でわりと言われているけども、私は全然信用してないの、そういう話でみんなが盛り上がっても、参加はしないで、聞いているだけで。

生命保険の営業所で、イベント的に占いの先生を呼ぶときがあるんですよ。客寄せっていうか、営業所に来てもらって親しんでもらおうというような。そこで、四年くらい前に、まあ、なんて言われるか興味があったので、見てもらったんです。

司会 何で見るの？ 血液型？

鈴木 名前です。自分の家族構成とかは言って、生年月日も見たかも知れない。

そのときは、夫婦のこととか、子供のこととか言われて。「子供が生まれるかは、ご自身が選ばれることだからわからないけれども、生まれるとしたら女の子だ」って言われたんです。

その後妊娠して、産婦人科でも超音波の

結果が女だったんですよ。でも、生まれたのは男の子だったんです。

司会 そのところでは、言われたことが全く外れたっていう印象をお受けになったわけですよね。

鈴木 そうですね。私はあまり肯定的に見ていないのでそう感じるのかもしれないんですけど、私の付き合いの範囲では、血液型とか星座を話題にするっていうのは、他に話題がなかったときとか、差し障りのない話題だったということかな、と思うんですね。

司会 暇つぶしの話題なんだ、っていう感じ？

鈴木 っていうふうに思いましたけれど。あとは、あんまり理論的に突き詰めて考えない人が、こういうの好きなのかなって。

占いの効用

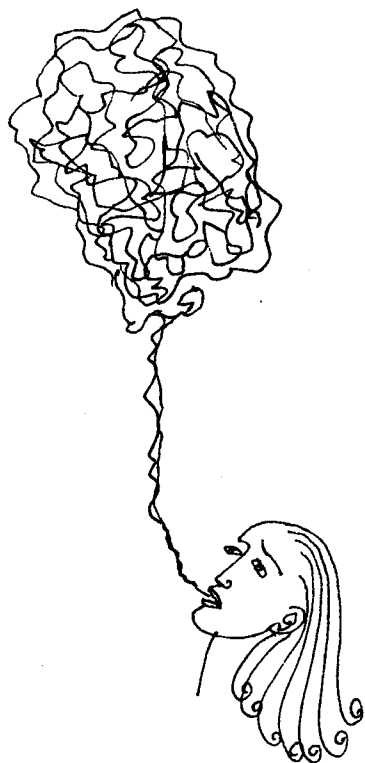
小林 占ってどっかで、カウンセリングと似てるでしょう。

玲奈 そうなんです。確かに共通してリンクするところがあるんですよ。

ただ、相反するところがあるとするならば、占いは断定的・指示的ですよ。どちらかというとお告げとか、神託を仰ぐというようなニュアンスが強いです。カウンセリングは、いろんな種類がありますけれども、今主流になってきているのは、もっぱら聞くという立場に立ったものなんです。

例えば、上司との人間関係で悩んでいる方が「上司のことを刺し殺したい」って言ったとしますよね。「あなた、そんなこと言ってもしょうがないですよ」って答えたら、もうぶちこわしだし、「あ、そうなんですか」って言うよりも、むしろその方が言われた言葉を受けて「あなたは上司を刺し殺したいんですねー？」と。そう言われたらその方は「はっ」とするんですよ。指示しない、断定しない、ただ聞く。

占いはやはりストレートに指示しますよね。そのやり方に、私は疑問を持ったので、両方のメリットをとった断定的・指示的でない占いという折衷的な立場をとりました。



いと思っただけです。

カウンセリングというのは、今と過去にこだわるものであるし、話すことで重い荷物を下ろし、問題の核心が見えてくるものなんです。けれども、それから先はどうしたらいいのか、見えにくいこともあるんですね。

その問題に固執しているけれども、その方の人生全体から見ても、今はどの地点にいるのか、満ち潮のところにいるのか、引き潮のところにいるのかということが見えた

ら、人間、安心することもありますよね。

ナチスドイツのアウシュビッツの収容所で、なぜあんなに発狂者や自殺者がでたかという、一つには時計がなかったからであって、今、自分がどういった状況に置かれているのか、全体の中で把握することができなかったからなんです。

カウンセリングによって過去と現在から自分とはなんであるかを把握し、占いによって大いなる力の中にある自分というも

のをとらえられたら、より立体的に自分のことを把握できたことになるんじゃないか。そういう思いで、私はアロマセラピーと心理カウンセリング、占いという三者の立場で相談を受けさせていただいているんです。

その次に、私は離婚問題を経験したんですけれども、この三叉路、どっちに行ったらいいんだろうかとか、非常に悩んで苦しんだんですね。それまでは、蝶よ花よと育てられ、絵に描いたような幼少期、青春期だったんですけれども。今でこそ「なんの悩みもなさそうね」と言われる私ですが、こんな思いをするなら死んでしまえとまで思ったときがあったんです。

そういう時期のさなかに、地域でね、草の根的に相談を聞いてくれるようなところがあったら、気持ちを建て直すようなきっかけが得られるんじゃないかと痛切に思っただけです。

なんの裏付けがあったわけでもないんですが、悩み苦しんで、自殺したいとまで思った非力な自分だけれども、人様のサポートができるような強い自分になりました

い、とそのとき強く思ったんですね。その一念ですつとききました。

人を癒したいという思いで、香りの勉強を始めて、それを経てからカウンセラー協会の講習を受け、離婚と同時に準国家資格、労働省認定のカウンセラーの資格を取ったんです。

カウンセリングと占い

匿名 私の場合は、戸籍上の誕生日と本当の誕生日が違うんですね。年末に生まれたんですけど、戸籍上は一月五日になっていて、雑誌の占いとかを見るときは両方見るんですよ。友達のとどことかいろいろ見て、どんだん詳しくなっていくちゃったんですね。

今日も持ってきたんですけど、雑誌とかも集めていて、あんまりたくさんあるんでファイルにまとめて（雑誌や分厚いファイルを見せる）。すごい、占いマニアなんですよ。

占いでいろんな占いがあるんですよ。

星座だけじゃなくて字画とか……。

和田 この頃は、動物占いなんていうのはやっているでしょう。

匿名 この動物占いってすごく売れていて、一五〇万部も売れて続編があつてそれもまた売れていて。最近占い専門誌だけじゃなくて、普通の雑誌でも出ていますよね。『アンアン』とか、男の子の雑誌の『ホットドッグ』とかにも、動物占いをもとにして彼女の口説き方とか出ていて。もう好きでしやうがないんですよ。

司会 こういうものに出ているのって、それぞれ方式違うんじゃない？

匿名 そうですね、いろいろ見方が違いますね。

和田 そうするとあなた自身をいろんな方法で見ると、全部同じになる？

匿名 違うこともありますし、両方当たっているような気もするんですよ。

司会 両方見ると何だか当たっているっていうのは、要するにこれ、当たらないんじゃないかって、そういうふうに思わなかった？

匿名 そういうふうには……。半分くらい

は思いますけど。

司会 何か当たるほうが多いっていう感じ？

匿名 そうですね。

司会 もう一つ伺いたい。雑誌に出てるのって非常に限られているじゃないですか。もっと突っ込んで、この方式を専門的に勉強しようとか、それはお思いになりませんでした？

匿名 自分でカードをやるんですけど。ゆくゆく勉強したいとは思っています。

司会 玲奈さんはプロの方なわけですが、占いに入る最初のきっかけは何だったんです？

玲奈 私は大学の四年の二十一歳の夏に、腫瘍の摘出手術をしているんですね。その手術は成功したんですけども、麻酔から覚めなかったんですよ。脳死も避けられないという非常に危険な状態で私が経験したことは、幽体離脱だったんです。

体から離脱して、病室の天井から自分の体を初めて見たんですね。私の体の周りでは「起きて、起きて、玲奈起きて！」って身内が叫んでいて、私は酸素吸入器を当て

られた状態で動きもしなかった。ああ、私の体なんだったって思ったあとで、どすんと落ちるような気がして、自分の体に戻ったということなんでしょうね、意識が戻ったんです。

もう、がちがちに頭堅いほうで、理不尽なものっていうのは全く受け入れられない私でしたけれども、このような不思議な経験をして、ものの見方が非常に変わったんですね。科学では立証できないものの存在を受け入れざるを得ない経験をしたので、占いに関心を持つという土壌が作られたと思うんです。

占いに対しては、スクラップを作ったりとか興味を持っていました。少し前から、占いの勉強を本格的にやっていましたけど、その時は占いということに限定はしなかったんです。ぼちぼち勉強をしていたのは、アロマセラピーなんです。

司会 玲奈さんのような占い者って、非常に常識的っていうかね、バランスのとれたやり方だから、一般に受け入れられやすいんじゃないかな。

和田 現代人に納得しやすい線だね。

玲奈 巫女的に「あなたは絶対こうなる」という言い方をする方もあり、私のようなカウンセリング的な立場の方もありますし、あと、説教型というのもあるんですよ。叱って欲しい方とかね、いろいろいますよ。大きく分けるとその三タイプになるんです。

和田 そのどういうタイプに当たるかについてのも、またその人の運命よね。

玲奈 医者や弁護士を選ぶのと一緒に、やつぱりね、相性ってあるんですよ。

相談する側の姿勢

玲奈 カウンセリングは、クライアントがカウンセラーに対して依存したら、その時点で失敗と見るんです。

司会 なるほど。

玲奈 お告げの・断定的な言い方をするとか、どうしても依存心を駆り立てますよね。だから占術家と相談に来られた方というの、依存関係を作りやすいんですけど、そういうふうにならないようなやり方

を私はとっています。

人間関係では距離感って大事ですけども、相談されるものとお客さんとの距離ですよ。それが非常に大事なんですよ。依存させるような断定的な言い方をする人間にも、非があると言えはあと思うんですけど、それに全て依存しようという気持ちで相談に来られる方の姿勢も、問題になってくるわけですね。

私は若い方から七十、八十過ぎの方まで、かなり年齢の幅の大きい方を見させていただけてですけど、若い方でもお年を召された方でも、もう自分で考えることやめちゃって、「どうしたらいいでしょう」って一から十まで聞いてくる方、いるんですよ。これは問題なんですね。

占術家であっても、カウンセラーであっても、相手は一人の人間であるし、すべてを相手に求めてくるって姿勢はやはりよくないんですよ。

和田 あぶない、あぶない。

玲奈 来る方の問題もあるし、アドバイザーのキャパの問題もありますけれども。それから、鈴木さんが先ほど、星占いや

血液型判断は、話がなくなったときの暇つぶしの話題であるっておっしゃってましたよね。

鈴木 回りの人がそうかなって。

玲奈 ステレオタイプなものの方になるし、ナンセンスなんじゃないかっていうお考えに根ざして、おっしゃられたんだと思いますけど。

鈴木 そうですね、血液型の場合、特に。

玲奈 ただね、雑誌に出すものっていうのは確率化しなければならないし、ステレオ

タイプに持っていけないと、読み物として成立しないから、書き手もナンセンスだな、と思いつながら書いている部分ってあるんですよ。部分でしか見てませんか外郭しか見られないし、無理があるんですよ。

和田 やっぱり個別的に見なきゃダメね。

玲奈 そうなんです。

鈴木 だからお金もそれなりに使って、先生にちゃんと見ていただく占いと、わりと軽いノリでわーわー言っているのとは全く異質のものっていう……。

占いは当てるもの？

玲奈 違うんですよ。娯楽性のもの、読み物として読まれるものと、一対一のカウンセリングや鑑定するものとは。



和田 森田療法っていうのを作った、森田正馬っていう精神医学のお医者さんがいた。彼が若いときに、ぜい竹を立ててやる易、あれに凝って盛んにやって、当たると評判をとったんだって。あるとき、自分で確率を計算してみようっていうんでやってみたら、半分は当たってたっていうの。それでばかばかしくなって止めてしまったっていう話があります。

あの人はノイローゼの研究をして、自分もノイローゼになった人でしょう。精神的な不安を抱えていて、どうすべきかっていうときに、尋常様の理屈じゃもう解決しないですよ。だから、自分を激励してもらうために、占ってもらってことはあるんじゃないですかね。人生いかに生きるべきかってことを考えたときに、やっぱり手

がかりにすることが出来るっていうことよね。

ただそれが一步あやまるとね、もう凝りに凝っちゃって身動きができなくなったり、いろいろな問題を起こしてくるわけだけど。

それは宗教もおんなじで、うまく使えば心理療法としてすごくいいんだけど、へたに使うと例のオウム真理教みたいなものになってしまうわけですよ。精神の世帯つてのは全く限界がないから、いいほうへ行けばいいけど、悪いほうへ行けばものすごく悪くなっちゃう。極端から極端へ限界がないってことですよね。

玲奈 先程 和田さんが「当たる」という言葉をお使いになりましたよね。

和田 ええ。

玲奈 「当たりました」っていう言葉つて、ある意味で禁句なんですよ。

和田 そうなんですか。

玲奈 つていうかね、当たるためにやっているのではなくて、その方が今大きな問題を抱えているのを、なにか打破したり突破口を見いだすために鑑定をしているんですよ。当たるとのことよりも、どう道を歩

み出すことが出来るのかとか、その状況をどう生かしていくのかとか、そういうことを導いていくためのものだという考え方なんですよね。

手相は変わる！

小林 林真理子が、落ち込むと占いに行くんでしょ。

司会 おもしろいわね。

和田 林真理子さんがなんかの賞に作品を出したあと、手相がどんどんよくなってきたんだって。そしたら入賞したっていう話を、どっかで書いていた。

玲奈 手相はね、もっぱらその方の現在の意識を表すんですよ。ですから、気の持ち方が変わってくると、一晩で変わるといこともあるんですよ。

司会 そうかなあ……。

和田 私はうちの夫のことで変な経験があるわけよ。

私が若いときに占いの出てくる芝居を書こうと思った。それはモデルがいたん

で、戦争中やミ屋でうちに出入りしていた人が、実は占いで、手相と人相を見る人だった。戦後になってね、とってもその占いがはやったんで、大変もうけてるって話をうわさに聞いたのね。

金屏風をうしろにして、昔のヤミ屋がね、紋付きの着物着て袴はいてやってるんだって。演出がうまいのでうんとはやるわけだけど、その演出をしているのは奥さんで、しかもその奥さんが彼の見料、お金を全部取り上げてしまつて、彼はそこから動くことが出来ないという話を聞き込んだのね。その話を芝居にしようと思ったわけ。それでまず手相の本を買つて読んだ。

ところがそれを書かないうちに、結婚したのよ、うちの亭主とね。結婚してすぐに彼の手相を見たらば、運命線が感情線のちようど下あたりではつきり切れていて、その切れたところに大きなバツテンが入つてた。私、すごく変な気がしてね。「これはあなた、なんか災難あるわね」って言ったらね、「奥さんと結婚したのが一番の災難じゃないか」って。(笑)

それでそんなことすっかり忘れちゃつて

たの。芝居は書かず、でね。そうしたら、彼が三十九歳のときに、会社の分室に行こうとして会社を出て外を歩いていたら、後ろでトラックと乗用車が衝突して、それに跳ね飛ばされて大けがをした。二カ月以上入院して、一時は危なかったっていうような騒ぎがあったわけね。

病院から戻ってきて、彼の手相を見たらば、運命線がつながっちゃっていて、バツテンのあったところの両側にほくろができていた。気持ち悪くてね、これは何かある

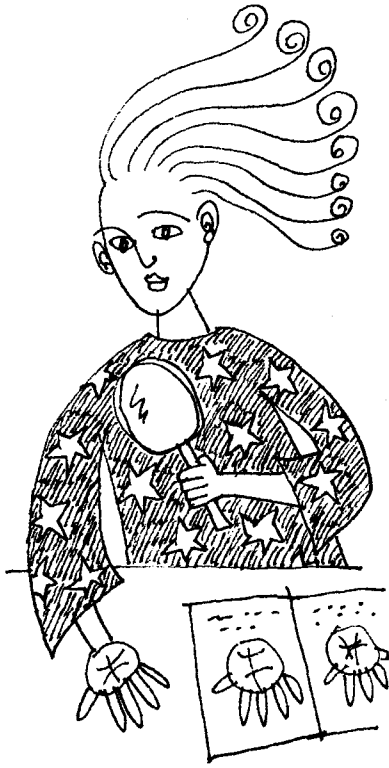
なって思ったんですよ。

そして彼は、六十四の時にガンになってまた入院して大騒動したけど、これはまだ死ぬほどのものではなかったんですよ。最近になってちよつと見たら、そのほくろが薄いしみになって、両方つながって、ぼやけてきてるのよ。どう思う？

玲奈 災難を越えたからでしょう。

和田 ほんとに変な話よね。

玲奈 手相は本当に変わりますよ。極端な話、運命線が全く出ていなかった方が、一



晩で出てくるというケースもあるんですね。和田 だから手相は持主の現実と結びついてるんだろうね。

鈴木 (手を見ながら) でもこれ、しわじゃないんですか。

玲奈 しわじゃないですよ。伸ばしたらつるつるになるものでもないし。

運命と宿命

小林 占いって大きく分けて、未来の予知と、その人の性格分析があるでしょう。性格の分析って当たってませんか？ 未来を予知するっていうのはまゆつばだな、とか思うけれども。

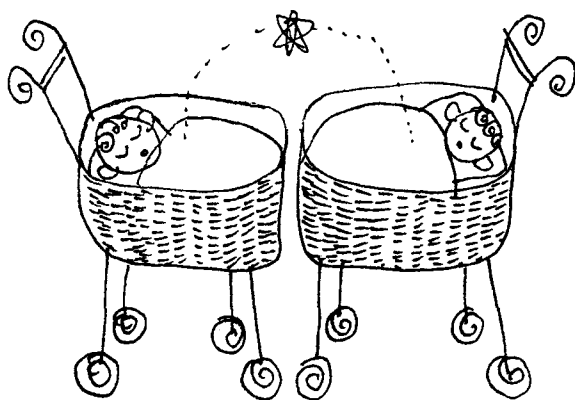
玲奈 一般に誤解されているんですが、運命と宿命とこちゃませにしているってこと、あるんですね。

小林 そうかもしれない。

玲奈 宿命というのは、例えば日本人に生まれたこととか、女に生まれたということですよ。そういう変えられないものと、運命と違うわけですよ。運命というのは、

確かに人知の及ばない力の中で生かされているという視点ではありますけれども、変えられる。

宿命というものがまずあって、その方の生年月日から見て、その方がどういった行動をとりやすいかということから、こうい



う人生になるであろうという見方がひとつできますよね。「同じ生年月日で同じ時間に生まれた人は、同じ人生なの？」ってよく聞かれるんですけども、極論を言えば同じなんです。流れは似ているんです、非常に。

だけれども、その方が選んでいくものの、ツアー旅行にたどるなら、オプションの部分が必ずあるんですね。そのオプションの部分を十二分に生かそうとした場合、素晴らしい旅行になる。そうした違いは自ずと生まれます。

運勢が極端に落ちるときってあるんですね。それをクリアできるかできないかっていうところまでは、占術者には読めないんですよ。

その方の意志であるとか、覚悟、自分を信じる力がどれくらい備わっているかをも含めて、危険を回避できたり、回避できなかったりするんですね。

ですから、一つの人生は、旅行にたとえれば、オプションによって変わるといことですよ。

運命の半分は性格がつくる

和田 占いってものが、昔からあって、いつまでたつてもなくならない。いつの世にもあるというのはやっぱり、運のいい人と悪い人って、明らかにありますからね。

司会 私はね、「わいふ」で非常に多くの方達を観察してるでしょう。今までの自分の観察と、NMSでエゴグラムを使っているから思うんだけど、基本はどっちの方向に動くかとかそういうことじゃなくて、やっぱり性格だと思っんですね。

どういう性格を持って生まれたかということが、和田さんの言うその人の運のよさね。

小林 「運命の半分は性格がつくる」って、ことわざがあるじゃないですか。

司会 私もそう思う。

しよっちゅうトラブっちゃってる人っているじゃない。あれ、やっぱり自分の性格なんですよ、自分では気が付かないんだけど。優柔不断な人とか、世間体がめっちゃ

くちや気になる人とかね、いろいろ見ていると、この人の子育てがうまくいかないのは、この性格に問題あるなって、いくつも出てくる。それは運だつて言ってるけど、私は性格の部分ね、かなりあると思う。どっちかの方向へ行ったら車にはねられた、なんていうことは、宿命といわれるかもしれないけれども。

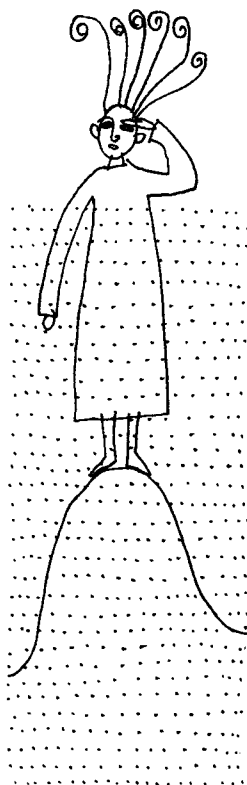
人間はやはり毎日幸福に暮らすってことが必要でしょう、どんなことがあっても。

和田 時々災難に遭ったとしてもね。

司会 うん、そうやって楽しく暮らすってことが必要なんですよ。

玲奈 運勢って、例えて言えば、その方の運命的なバイオリズムなんです。山があるときも、その方の気持ち次第で小山になることも出来るし、大きな山になることも出来る。奈落の底にするか、水たまりですませるか、その方の気持ちの持ちようってあるんですよ。

いわゆる東洋の考え方で、発信しないものは、受信しないということだから、こうなるだろうって思ったことって必ず受信してしまふというものもあるんです。



楽天的で、一刀両断で、どちらかといえばフアジーなものを認めないで考える方というの、後ろは見えないですから建設的に考えられる。まわりにたいしてはブレッツァーをかけるでしょうけれども、本人は非常におめでたいわけ。

占いて何なんだろう？

小林 私はね、占いの性格の分析について、自分のところを読んでわりとよく当たると思うんですね。人の色分けをするときに、クレッチマーの体格による分析とか血液型とか、ちょっと大ざっぱだと思っただけ、四柱推命とか星占いで、十二くらいに

別れるのはいいなって思っているんです。
和田 四柱推命は今、コンピューターで出来るわけでしょう。

小林 こういうふうに出る（プリントされたものを示しながら）。四柱推命も星占いも出来ちゃう。

これはみんなピシャピシャ出来ますけど、どう読むかっていうのが、その人のセンスだから。センスの悪い人は何をしてもだめ。

和田 それも運命。

小林 要するにね、コンピュータがカンを越えたら、人間を越えると思ってるから、私はカンのいい人に会いたいと思っている。それだけです。

鈴木 「爆笑問題」っていうお笑いタレン

トがいるんですけど、週刊誌のコラムで、

「占いていうのは見た目っていうのが基本だ、占いの一つの意味として、他人から見た自分の確認だ」って。自分が人からどう見られているかわかるっていうことが書いてあったんですね。

たとえば占い通りにやったら成功したっていう結果が出たとしても、それはもともとその人たちが優秀だったからそうなったという考え方もできる。

玲奈 徹底的に否定しているんですね。

鈴木 要するに二者択一の状態で占いに頼ったけれども、どっちに行っても成功していったんじゃないかっていうことですよね。

私は靈感とか霊能みたいな超能力のある方とかね、幽体離脱とかっていうのは、あることだと思っんですけども、それを好むかどうかは……。

玲奈 それも好みだと思っんですね。

鈴木 やっぱ好み、趣味の世界とか、娯楽とか、宗教の代りっていうことかなって思っています。

匿名 私は占いとかが好きで、わりと信じるほうなんですけど。

ちよつと笑っちゃったのが、ドクター・

コバの風水の記事で、「ラーメンを食べて開運」とかいって、チャーシューはこつちの方角で食べたほうがいい、とか。ちよつとこまでは。

玲奈 私はやはりね、占いていうのは、その人にとっての人生のエネルギーだと思っっているんですね。

小林 応援歌ね。

玲奈 ええ。人が生きやすくするために生み出された術なんです。その方にとって、今どんな言葉が必要であるのかとか、どういったものを気づかせてあげたらいいのかとか示唆するのが、占いであり、カウンセリングだと私は思っています。

相談に来られる方もね、運命や宿命が主役なんじゃなくて、その人自身が主役だということをお忘れちゃっている方が多いんですね。最後までその方の人生の主役はその人自身であり、オールは自分の手で持って漕ぐということ。それを踏まえた上で、上手に占いと関わっていただきたいなあ、私は関係者の立場で感じています。

(え・荒田ゆり子)

自費出版は

「わいふ」へどうぞ！

「わいふ」編集部では自費出版の制作をしています。本をお出しになりたい方はぜひご利用ください。

自分史、回想録、旅行記、童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックまで、何でも作れます。

イラストも用意できますし、お書きになれない方のために、聞き書きのまとめもいたします。

費用はモノによりいろいろ違ってきますが、市価よりは確実に安いです。事情を伺いご相談に応じますので、ぜひお問い合わせください。ちなみに最近、読者からのご依頼により、「紅の雲」、「春のかたみ」、「出会いに合掌して」などを制作いたしました。

皆さまも人生の記念に計画されてはいかがでしょう。

新聞配達の楽しみ方

熊本県天草郡

松本とみよ（43歳）

ひよんな事から新聞配達をすることになった。いや、その種を播いたのは自分だから、思いがけずとは言えないのかもしれない。

実は昨年、夫が病気をして退職した。私はパート勤めだったので、何とかしなきゃということと職探しをする一方で、新聞販売店に、もし配達の方がやめられる時はお願しますとたのんだ。

しかし、そのうちに夫は再び職場復帰し、新聞配達の仕事はすっかり忘れていたのだ。すでにそんな気もなくなっていた。

ところが、暮れも押し詰まった十二月三十日の夜のことだ。私はその日ようやくパートの仕事納めとなり、家でホッとひと息ついていた。正月準備もめどがついて、正月はのんびりしようなどと考えていたのだから笑ってしまう。

新聞販売店から電話がかかったのだ。急に今配達

している子がやめることになった。それで正月からで悪いけど配達をお願いできませんかとおっしゃる。「エエッ!! 元旦からですか?」と思わずタジタジとなった。しかも、その販売店は七十代の老夫婦でやっていらつしやるのだが、おじいちゃんの方が脳梗塞で左手が不自由となり、この地区へ五時に新聞を配達していたのも出来なくなった、それで新聞も販売店に取りに来てほしいと言う。正月気分は一挙に吹き飛んだ。

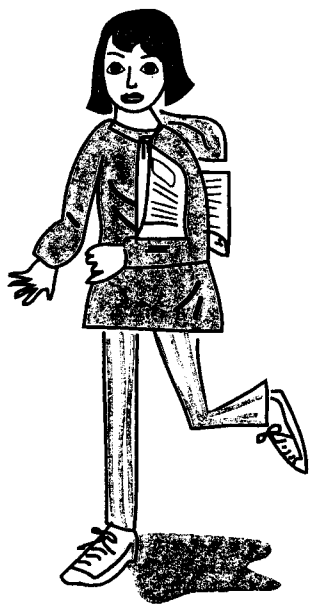
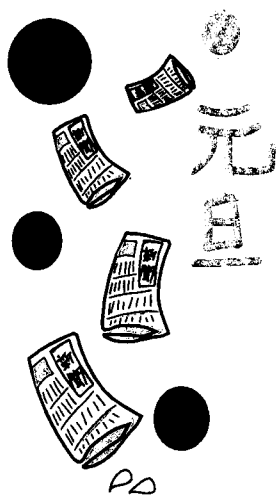
断わりたい。だが待てよと考えた。正月早々仕事の依頼なんて運が向いて来たのかもなんて思ってしまったのだ。高一の長男に「新聞配達してみろ?」と聞くと金の事しか考えない奴は、簡単に「いいよ」と答えた。こころで息子に金の有り難みを教えるのもいいかもしれない。私もダイエットと犬の散歩を兼ねて一石三鳥かも。

大晦日は販売店まで出向き名簿をもらった。熊日新聞六十、農業新聞六、朝日一、日経一が私の受け持ち。自分の住んでいる地区ではあっても、世間知らずの私は名前をよく知らない。住宅地図でチェックし、自分なりに最短配達経路をシュミレーションしてみた。

さて、いよいよ正月の朝となった。五時起床。大晦日は一時まで起きていた。眠い。本当なら今日は

九時頃まで寝ているはずであった。第一の難関は長男を起こすこと。何しろいくら耳元でめざましが鳴ろうと一回も起きたことのない奴なのだ。案の定、長男は起こしてもビックともしない。重度の意識不明状態。前途多難である。しょうがない。今日のところは一人で行くことにする。

販売店に出向くと、すでに何人かの配達員が集まり、てんやわんやの状況である。販売店のおばあちゃんの広告入れが間に合わなかったらしい。元旦とあって新聞はいつもの五倍の量。車のトランクがいっぱいになった。これでは自転車配達は無理だ。車のまま行くことにする。寒い朝だったが、二、三軒も走り回るとすぐに汗だくになった。一枚一枚服を脱いでゆく。帰宅すると六時半になっていた。



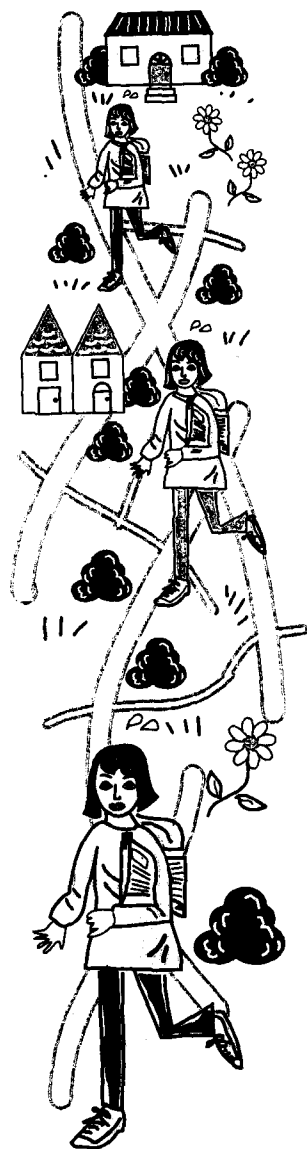
地図片手に六十五軒を一時半かかったことになる。一時間のつもりでいたが予想以上にかかるものだ。しかし、他人が寝ている時に仕事するのは気持ちがいい。たまになら……。これが毎日かと思うと辛いものがある。ついため息が……。だが、この地区の二〇〇〇年は、確かに私の新聞配達から始まったのだ。今年は良い事あるぞ。そうとでも思わなきゃやってられない。

さて、翌日二日は休刊日。三日四日は長男を車に乗せ配達の家を教えた。彼は家にたどり着くのは早くても郵便受けの前で、新聞を折るのにグズグズしている。あきれた。

「何してんの！ 走りながら折るものよ！」。内職と同じで薄給なんだから時間かけていられない。

その後、地区を半分に分けて二人で半分ずつ配る日が続いた。確実に配ったはずの家から「なかった」と言ってきたこともあった。不思議。違う新聞を配っているのに途中でアレ?と気づいたりもした。今のところ大きな失敗はしていない。そうそうチューリップのプランターをひっくり返したことがあった。暗くてつまずいたのだ。息子のせいにしてあやまった。雨の日、坂でころんでパンツまでぬれたこともあった。帰宅して汗でぬれた服をぬぎながら、長男に「どうしてあんたは汗かかないの?」と聞くと、「俺、母さんみたいに全速で走ったりしないもの。きついし、ゆっくり歩くから」。どうりで遅いはずだ。

冬休みの間はいいが、一番心配なのは、息子が課外授業のために六時半に家を出る日のあること。す



ワーキングライフ

ると私は四時起きで弁当や朝食作り、掃除をしないとまにあわない。これはいざそうなってみると、夜の間に済ませておいたりけっこうやってゆけた。そのうちに、新聞配達に意外な楽しみを見つけた。道路から玄関まで、たどり着くのがすごく遠い家が二軒並んでいる。A宅へ行った後でタッタタッタと道まで戻り、再び同じくらしいの距離をB宅の遠い玄関まで走り、また道路へ。

ところが、ある日ふと、隣への抜け道がないのかしらと思ひ、A宅の左壁に沿って少し回り込んでみた。すると小さな階段があり、それはB宅へと通じていた。ほんの二、三步でB宅玄関の郵便受けの前へ出た時は感激だった。回覧板など配るのに便利のように、やはり隣家へはすぐに行けた方がいいに決まっている。

息子が「お母さん、Cさんの家は、道は通じてないけどDさん所からすぐ見えてるでしょう」と言う。そうそう、私もDさん宅へ配る度に、すぐそのCさん宅へも配れたら早いのにと何度うらめしく眺めたことか。「それがね。ちゃんと行けるんだよ」。それは田んぼの畦道なのだが、まさしくそれはDさん宅からCさん宅へ行くために便利のようにしてあるのは間違いない。畦道にしては不要な設備、Dさん宅へ上がるためのステップ石が置いてあるのだった。

県道から小さな脇道をえんえんとたどり、やっと家まで着いたと思っても、玄関が反対側にあるために回り込むのが大変な家があった。そこも息子が「お母さん、あの家はね、Eさん宅の前がYの字に小道が分かれていてでしょう。そこを左へ行つてごらん、すぐだから」と教えてくれた。本当にその通りだった。

本来ならEさん宅を配った後で県道まで戻り、上までさかのぼり、そこから家までの小道をたどり玄関まで回り込んで大変だったのが、Eさん宅へ配ったら、すぐ横の小道を少しだけ行くとその家の玄関があったのには感激だった。得しちゃった気分である。こんなふうにゲーム感覚で新しい抜け道はないかとよく考えた。推理が当たったりするとこたえ

られない。

今では法にふれない程度に行けるとあらば小屋でも通る。ブロック塀を眺めながら、この塀さえ乗り越えられたらすぐ隣家なのにと考える家がある。もしかしたら明日は乗りこえているかもしれない。

おかげで時間も短縮して、一人で配つても一時間になった。隣家への抜け道は、人間の習性が創り出した文化とでも言うべきものでは、などと高尚な気分になったものだ。新聞配達も奥が深い。

一番辛かったのは、慣れるまでは、前夜からリラックスできなかつたこと。今ではその時間になるまで忘れていられる。しかし、旅行は出来ないと思うといやになる。予定があるわけではないが一日たりとて家を空けられないストレスは相当のものだ。

息子が予想外に音を上げないのは明るい材料。配達から帰るとさわやかな顔をしているのは嬉しい。今はまだもの珍しさから楽しい気持ちの方が強いが、はたしてどれくらい続けられるのだろうか。どうせならあと一時間早起きしていつそのこと新聞販売店を試してみる？

ところで目的の一つであったダイエットだが、やせるどころか太ってしまった。大誤算。なんといつでも朝飯がうますぎる。

小さい兄ちゃんはブラジル人(上)

横浜市緑区 三田サキ (63歳)

兄一年間の苦悩、そして決断

わが家では私の兄たちを、長男が「あんちゃん」、次男が「中兄ちゃん」、三男が「小さい兄ちゃん」と呼びながら私達は成長した。その小さい兄ちゃん「通男」が、昭和三十二年の秋頃から何だか様子がおかしくなった。仕事から帰っても何にも言わず、朝顔を洗う時など、洗面器に蛇口から水があふれ出ていても、気づかず頭をぐったりとたれて何かにとりつかれたように考えこんでいる様子である。

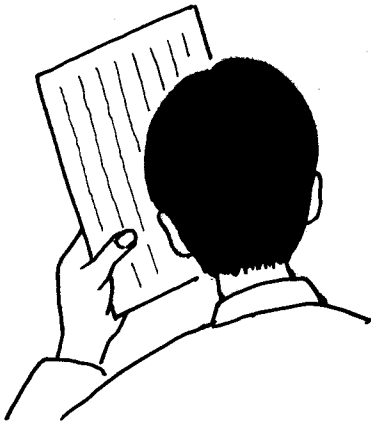
母が「通男ちゃんどうかしたか? この頃元気がな

いね」と言っても兄は何にも言わず、ぶすつとしたままである。そんな生活をしているうち、或る日突然に「俺は家を出る」と言って小倉にある或る下宿屋に身を寄せ、そこから仕事に通い始めた。月一回の給料をもらうと必ず送金してきた。そして自分は質素な生活をしていた。

そうしているうち彼は突然帰宅して、一晚泊ったが別に何にも言わずにまた下宿に帰って行つた。そしてそれから二、三日経ってから一通の手紙が届いた。それを兄ちゃん(栄一)が封を切つて読み始めた。それが、みるみるうちに顔色が変わつた、青白い顔色になつてしまつた。

その文面には「考えに考えた末に決めた事だが、僕はブラジルに移民する事にしました。許して下さい。先日はその事を相談しようと思って帰宅したのですが、幼い弟妹や、母ちゃんの顔を見て何も言えなかった。この手紙を書いて報告する羽目になりました」と書いてあったのだった。

これを読んで栄一兄は相当あわてた。今は亡き父の残した借金を払うのと、幼い弟妹達を育てるために三人の兄が稼ぎ、協力し合って生きていかなければ、やって行けないのである。翌日栄一兄は早速「通男が何を考えているのか、俺が行って思いとどまるよう説得してくる」と言って小倉へ向かった。



あんちゃん（淑也）や母達と一緒に私達は栄一兄の帰りを待った。するとしょんぼりとした顔で栄一兄が帰ってきた。そして母と淑也兄に「通男の事はもうあきらめた方が良く、『例え今行けなくとも必ず行く、どうしても行く』ときっぱり言われて仕方なく帰ってきた」という事だった。こういう事があって、初めて一年間悩んでいた通男兄の気持をようやく理解することが出来た。

兄故郷を離れる

こうして通男兄のブラジル行きが決定した。昭和三十三年、二十三歳の時だった。母は別れのつらさを抑えきれずに泣きじゃくってばかりいた。やがて通男兄は上京しブラジル移民力行会に入った。そして東京での三カ月間の訓練生活をする事になった。その間何があっても生きのびられるように、と無銭旅行などの経験もさせられたという。そして強い肉体、強い精神を養うための苦しい体験をし、三カ月間みっちり鍛えあげられた。

出航

いよいよ出航の日が来た。横浜の岸壁を離れるの

は、たしか四時だったと思う。その時間がくると母は仏壇に線香をたき、仏前に座りこんで通男が無事に航海を終えられますようにと念じながら、必死でお経をあげていた。横浜港まで見送りに行ったのは栄一兄と、その時すでに東京警視庁で働いていた弟の二人だけだった。

やがてホテルの光の音楽が流れる中、船は静かに岸壁を離れて行った。あとに残された兄と弟はしばらく立ちつくしたまま、船が小さく見えなくなるまで見送って別れを惜しんだ。もう二度と会えないかも分からない悲しみで、じわーっと涙が流れおちた。

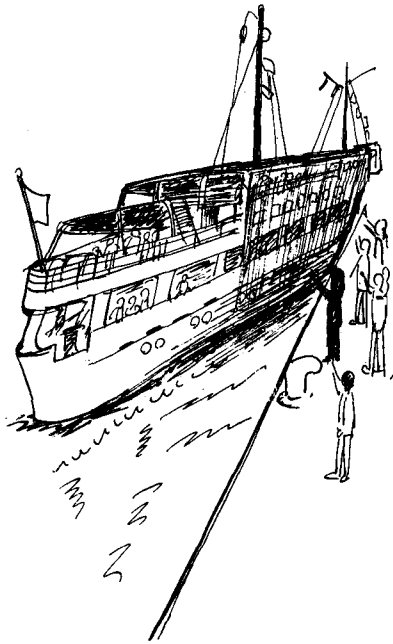
送り出す方はこれほど悲しんでいるのに、通男兄は

いたって気軽で、一寸隣街にでも行ってくるかのよう
な気楽な態度であったという。

ブラジルでの新生活

こうして兄はブラジル移民船アルゼンチナ丸の船中の人となった。一カ月間の航海で途中色々な国に立ち寄り見物が出来たという。そして兄も含む、一部の人は船の中でブラジルでの就職先が決まった。日系人の農園でコーヒーを栽培する仕事であった。同じ船内で仲間になった二、三人の人達と同じ職場だった。

仕事はきつい、まあまあ希望をもって生活するこ



とが出来た。そして三年も経った頃の或る日、仲間同志で、その経営者の飼っていたブタを殺して煮て食べた。そんな事をしたためその職場は首になってしまった。

小さな独立

そんな事があってからは、職場を転々と変わり中々落ちつかなかった。

でも少しずつお金を貯めて、何年か経った頃わずかばかりの土地を買い、何とか独立して小さくても自分の農園を持つ事が出来た。

その頃兄は一人の白人の女性と出会った。その女性がポルトガル語の教師として教えてくれる事になり、一生懸命勉強をした。熱心に教えてくれ、熱心に習っているうち、いつしか二人の心が通い合うようになり、ついに恋仲になって国際結婚の運びとなった。こうして夫婦仲良く農業を営んでいて、トマト作りに精を出していた。

さあ今年は大豊作だ、このトマトを収穫すれば相当のお金が入ると言って喜んでいて。その矢先に突然強いヒョウがふり、農作物は全滅になった。兄夫婦はもう立ちあがれない位の打撃を受けたがまた何とか立ちあがり、こんな失敗を何度も重ねながら、二人して協力し合い何とか生きなければと、必死で現実と戦った。

農業が駄目なら、今度は商売をしようと言って魚屋を始めたり、八百屋をしたり、色々な事をして生きのびた。何回も何回もつまずきながらも、こつこつと働き、お金のたくわえも少しずつ出来ていった。そんな頃にはもう四人もの子供をもうけて育てながら、幸せな家庭を築きあげていった。

仕事の方も、今度は昔獲得した大工の技術をいかし木工所を始めた。その仕事は順調にゆき、三十人もの従業員をかかえた大世帯となった。そして一人のお手伝いさんも雇える身となった。

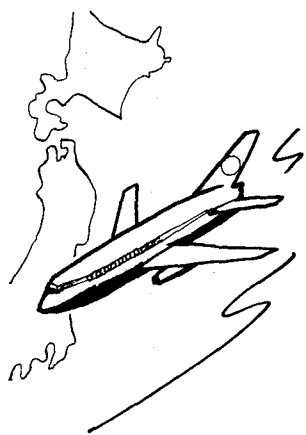
母をブラジルへ呼ぶ

そして昭和五十三年頃の夏、生活にゆとりが出来、九州で淋しがっていた母をブラジル見物に呼ぶ事になり親孝行をしたのだった。その頃はもう昔とちがって、海外に行くのは船ではなく飛行機の時代だった。ブラジルまで二十四時間で行けるのである。その時母は義姉と一緒に羽田空港から飛び立ち、兄弟姉妹全員で見送りに行った。船とちがって飛行機の見送りはあつけないものだった。そして無事にブラジルの兄の生活を見てきた母は、すっかり安心したのか、その翌年の三月、何も思い残す事が無いかのように、亡き父の元へ旅立っていった。

兄が帰国する

それから二十一年の歳月が流れた。或る日突然の電話のベルに私は受話器をとった。「はい三田でございます」と言うのと、受話器の向こうから「サキちゃん?」という親しみのこもった男の声が聞こえた。私は、はてな誰かしら? と思っていたら「通男だよ」と言うので「ええっ?」と大きな声で叫んでしまった。ブラジルからの国際電話かなあと思っていたら「いや寛ちゃん(弟)の家からだよ」と言うので私は再びおどろいた。

兄は外国人の友人が、日本の医療機器を買うため日本に来ることになって、その通訳の仕事を頼まれ、二



人の外国人と三人で日本へやって来たのだった。義妹(弟の嫁)の話によると「通男だが今成田に着いた。車で迎えに来て下さい」という電話があったという。早速迎えに行った。そして先ず三人を弟の家(千葉)に招じ入れようとすると、外国人は二人とも靴をはいたまま、つかつかつとあがり座敷に入ろうとしたので、びっくりした義妹が「靴をぬいで下さい」と注意したところ、仕方なく不思議そうな顔をして靴をぬいだという。

私はその話を聞いて思わずふきだしてしまった。こうしてその晩は三人とも弟の家に泊ったが、翌日からホテルに泊る事になった。そして外人さんは目的の用事をすませ一週間位滞在中に帰って行った。兄だけはあとに残り、せっかく帰国したのだからといって、九州の実家を訪れたり、私達弟妹と会ったりして忙しい日を過ごした。

私も早速弟の家まで会いに行った。「ごめん下さい」と言って扉を開けると義妹と兄とが出迎えてくれた。私は兄の顔を見た瞬間「まあふけたねえ」と言ってしまった。それでも兄は私の顔を見るやいなや、さっとそばに来て私をだきしめた。何しろ三十一年ぶりの再会だったので、なつかしきで胸よりはりさけんばかりだった。

(続く)

(え・奥島千恵子)

子育てフォーラム

NMSのページ



「いや」と言えない子ども

横浜市磯子区 十文字圭子(37歳)

Yちゃんというその子は、娘が入学して初めて連れてきた友達だった。明るく、ハキハキしていて、きちんと挨拶ができる。それだけで安心していった。ところがである。

そんなに頻繁に来るわけではなく、一カ月に一回くらい、思い出したように遊びに来るのだが、二学期に入ってからのことだった。そろそろ五時も過ぎたので、子供部屋に声を掛けた。「もう、お片付けしてネエ」「わかつ

たあ」という返事があってからしばらくして、部屋をノックした。

お人形のセットやおもちゃのアクセサリーも綺麗に片づいていたが、ぼつんとウサギの人形が残っていた。よくあるシリーズ物のひとつで、動物の顔をしているが洋服を着ており、食器のセットや家具なども別売りしているやつだが、大きいものは一体千円くらいはする。

「これ、ほしいなあ」。ふとYちゃんがそれを手に取って言った。S子は一瞬、答えずに詰まったが小さな声で「いいよ」とうつむいた。「えっ」と言ってお顔を上げた私が「だって、これはおじいちゃんに買って貰ったんでしょ。

いいの?」と少し声高になると、ますます下を向いて「うん」とS子は答える。「本当にいいの?」と言う私の声を遮るようにYちゃんが「わーい!」S子ちゃん、ありがとう!」と小躍りして飛びついた。

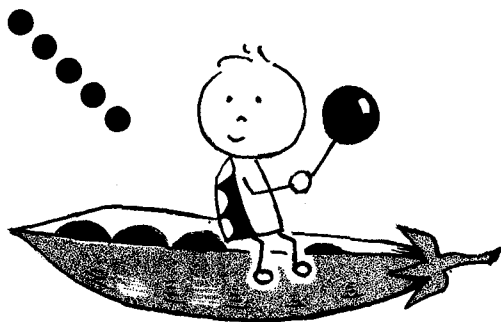
困った。Yちゃんはその人形を胸に抱きしめ、大げさに頬ずりをして喜んでいる。今更強く言って取り返すことは出来ない。当惑した表情で私を見上げているS子を、思わず睨み付けてしまった。

スキップしながら行くYちゃんの後から、S子とT夫の手を引いて、途中まで送っていった。「ここでもいいよ、バイバイ!」と手を振って元氣

良く帰って行く姿が見えなくなると途端に声を低くして「S子ちゃん」と握る手に力を込めた。すると、ぱっとその手を放し、みるみる涙が浮かんできた。「なんで、お母さんが怒っているか、分かる?」。そう言う。「お人形、あげちゃったから……」と涙声で言う。「あなたは、お人形をたくさん持っているからいいと思ったのかもしれないけど、どれも買って貰った物でしょ。あなたの為に、みんなが心を込めてプレゼントしてくれた物よ。それを簡単にあげたりして欲しくないの」。そう言っている間にも、声をあげて泣き始めた。それでも私は、物の大切さ、プレゼントは特別の時にしかしないことなど、ここで伝えなければと論じ続けた。

家に戻るとYちゃんのお母さんから留守電が入っていたので、折り返し掛けてみた。「お人形は本当に貰ってもいいのでしょうか?」と言う。どんな親か、学校の懇談会で顔を見たことくらいいかなかったので分からなかったが、

こうして電話を掛けてくるということば、常識がある人らしい。「私も娘に言って聞かせましたが、Yちゃんがそんなに喜んでいたので、今回は結構です」ということで一件落着いた。これまでは健康のことばかり気づかってき



た子どものことも、大きくなれば色々な事があるネと、自戒を込めて夫にも話した。

三学期になり、しばらく来なかったYちゃんから電話が掛かってきた。「S子ちゃん居ますか?」「まだ、帰ってないよ」「遊びに行ってもいいですか?」「今日はピアノだから」「何時からですか」「四時」「じゃあ、それまで……」。なんか、食い下がるなあと思っているとところへS子が帰って来た。保留音にして「どうする?」「今日はダメ」「じゃあ、自分で断りなさいよ」と受話器を渡す。「うん、うん、じゃ」とか言って切っている。「断ったの?」「今からYちゃん来るから」。口を開きかけた私に「ピアノまでには帰るって」と二階に上がってしまった。

どうも、警戒してしまっていないナと思いつつも「物のやり取りはしないのよ」と念を押した。

きちんと挨拶をし、下でおやつを食べると二人で子供部屋に入っていく。

この前と同じように、時間の少し前に声を掛けた。

「そろそろ、お片付けしてえ」「はい」と返事があつてしばらくすると、Yちゃんだけが下りてきた。「S子ちゃん、まだ片づけてるからアタシ、先に帰る」といつて靴を履いている。上着はと聞くと「着てこなかった」と言う。ふと見るとお腹を片手で押さえている。

「Yちゃん、お腹痛いの?」「ううん、何でもない。じゃね、バイバイ」。サアつと、逃げるように駆けだして行つてしまった。

その時になつて「あつ!」と思つたのだ。

二階へ上がりドアを開けると、引出しを後ろ手に閉めたS子が目を伏せた。「Yちゃんに何をあげたの?」と聞くと、べそをかいたように「ごめんなさい」と言つてから、「でも、シール一枚だけだよ、どうしても欲しいっていうから。たくさんあつていらないうやつ……」。そう言いながら下を向い



た。私は思わずため息をついた。この前の話をS子が忘れたとは思えない。だとすれば、断れなかったということなのだ。

嫌なことは嫌、駄目なことは駄目とはつきり言える子どもに育てたい。自己主張を強くせよ、ということではないが、それが自分で自分の行動に責任を持つということの第一歩であり、自立の大事な条件であらうと思つてゐる。そのことは易しい言葉で子どもにも伝えたが、理解できたかどうかは分

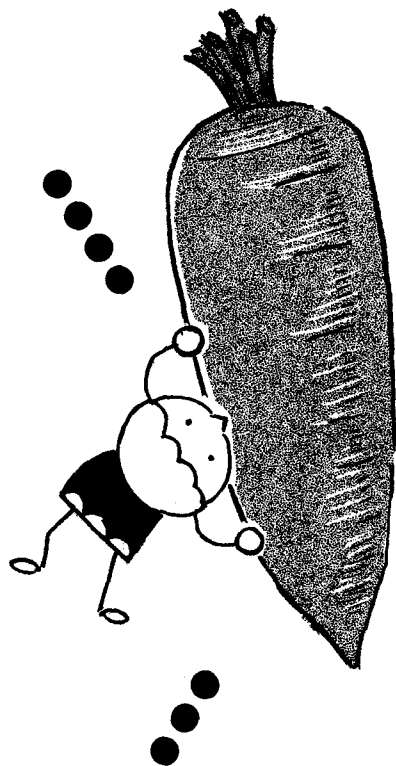
からない。

この一件を話した友人は、子どもを責めても今の時点では難しいだろうが、言い続けるうちにちゃんと言えるようになるから大丈夫だと言う。ただ、性格というか、断れない性分という人は大人でもいるではないか。何度もキャッチセールスに引つ掛かるとか、訪問販売の勧誘をどうしても断れないなど。そこまで心配するには、まだ早過ぎるのだろうか……。考えさせられる事だった。

二番目の子どもが やってきた ⑥

横浜市戸塚区 杉田 みほ

「トイレに行く間くらい静かに待っててくれないと、ママはお腹痛くて苦しくなっちゃうよ」「やだやだ」「じゃあ、泣かないで待っててくれる?」「やだ」「お腹痛くなるとお外行かれな



いよ」「お外行く」「じゃ、待っててね」。それでも、トイレに入ると「ママ出てきて!」と野歩は泣き叫ぶ。藍までついてきて、私が出ていくまで一緒に泣いている。

夫と子ども達が寝静まり、ほっと一息。のんびりお風呂に入っていると、目を覚ました野歩が「マーマ、マーマ……」(まったく、すぐ横にパパが寝てるじゃない!)。だんだん大きくな

る泣き声に、「藍が起きたら面倒だ」と急いで出ていって、「お風呂入ってんだよ。さあ、もうおやすみ」

そんな繰り返しにいらだっていたのも、ほんの二カ月ほど。うんざりしていた野歩の後追いは、すっかりなくなりました。二歳半を過ぎればこんなものなのか、それとも……?

十月末、近所にできたショッピングセンターのボールジャム(ボールのプールとすべり台などの遊具があつて、有料で遊ばせてくれる)に連れていったときのこと。制限時間が来ても「やだ、帰らない!」と珍しく大騒ぎしたので、「ママの誕生日にまた連れていってあげる。でも、赤ちゃんは遊べないんだって。『順番だからおしまいだよ』って言われてるのに」「やだ、やだ」って泣いたり、ママがトイレやお風呂に入つてるときに泣いたりするような赤ちゃんは、ボールジャムで遊ばせてくれないの。藍ちゃんはまだ赤

ちゃんだから、遊べないんだよ。すぐ泣いたりしないお兄ちゃんだったら、また行かれるよ」と言ったのが効いたようではありました。

「泣かないでちゃんと待っていられたね。こうやって待っててくれると助かるなあ、ありがとう。さすがお兄ちゃんだねえ」

十一月に入って私の誕生日の朝、一度は泣き出しそうになったのをこらえて、野歩は自分のベッドの上でビデオを見ながら待っていました（ほんの数分なんですけどね）。大げさにはめて抱きしめると、「ボールジャム行かれるね」とうれしそう。

それからは次の日もまた次の日も、まったく平気。むしろ、その間だけはビデオをつけてあげるので、トイレはもちろん、お風呂も「藍ちゃんと、先に入っていいよ、野歩待ってるから」と楽しみにしているみたいです。

今では、夕方の幼児番組を見ているときなど、買い物に行こうと言っても「ママと藍ちゃんで行ってきて。野歩

はお家にいるから」と言い出すほど。何かにつけて一人で考えて行動することも多くなり、数カ月前がうそのようです。そして、野歩が泣かなくなつてから、藍もやたらと追いかけてこなくなり、私の生活はぐっと楽になりました。

そういえば、後追いの激しかった十月頃は、野歩が私たちの布団で寝たがるので手こずっていた時期でもありました。言い聞かせてベビーベッドに寝かしたはずなのに、朝氣がつくと私の布団にいる。知らないうちに降りてきているんだから、どうしたものか……。寒くなつてオネシヨすることが多く

なり、ある朝私の布団がビショビショに。パンツ型の紙おむつをはいて寝かせていたのですが、量が多くて布団まで濡れてしまうことも多いのです。ベビーベッドの上なら防水シーツを敷いてあるし、ベビー用の毛布やキルトパットは洗うのも楽なので、笑って後始末できるけど、大人の布団を濡らされたのではないません。

「朝までずっとベッドで寝ていてね」「今日はちゃんとベッドで寝てたね。おかげでママもゆっくり眠れたよ」。何度も言つて聞かせました。でもこれもなぜか、後追いをやめたのと同じ頃、わざわざ言う必要がなくなつていました。

もうひとつ、夏頃から私を悩ませていたのが、野歩の食事態度。あんなにガツガツ食べていたのに、いつからかだらだらと進まず、たまりかねて片づけようとすると「食べるー!」と泣きわめき、「食べさせて」。どうも藍に離乳食を食べさせるようになってからのようです。

まだこの頃の藍は食べることに集中せず、すぐに動きたがりました。野歩の時の経験から、皆で一緒に食べるとよく食べるようになるかとわかっていたので、食事はなるべく三人そろつて。でもドロドロの離乳食のうちは、すべて口に運んでやらなくてはなりません。食べさせたら今度はおっぱいだ、うんちだ……と、三度の食事は大忙し

です。

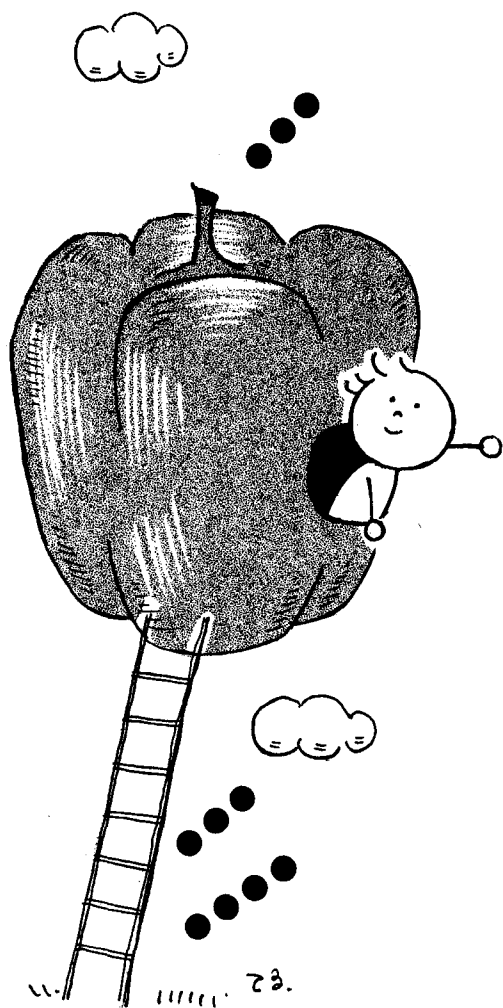
野歩も同じようにかまってほしいの
だろうとは、何となくわかっていたも
の、こちらも余裕がなくて「早く食
べなさい」と言うばかり。そのうちに
味噌汁の中におかずを入れてグチャグ
チャに、なんて始めると頭にきて、
「そんなことしたら、おいしくなくな

るでしょ！ おじさんやおばさんが一
生懸命育ててくれたおいしい野菜を、
ママだってせっかく料理したのに、そ
んなことしてるならもうごちそうさま
しなさい！」

けれど、デザートが楽しみな彼は、
決して途中でやめようとはしません。
何度「ごちそうさましないの！ 食

べるのー」と泣かせたことか。これ
じゃ、よけいにまづくなるよなあ、と
思いながらも、同じパターンを繰り返
してしまっただけだ。

時間が来たらごちそうさま、という
やり方も試してみました。毎日定時に
食べさせることは難しいので、その都
度「時計の針がここまで来たらおしま



いね」とやってみたけれど、二歳ではまだ無理だったみたい。キッチンタイマーでも使えばいいのに時間を教えることもできるかと探したけれど、最近売っているのはデジタルのタイマーばかりなんですね。アナログでなくちゃ、時間の長さを目で見られないのに。で、この方法はボツ。

まあ、無理ない範囲で工夫してみよう。盛り付ける量を少なくしたり、目新しい料理にしたり、ご飯はおにぎりにした。でもそのうちに藍が手づかみで、それもすごい勢いで何でも食べるようになり、いつのまにか野歩も以前のように集中して食べるようになっていました。

今してみれば、食事の時の不満が野歩の後追いをひどくさせたのでは、とも思えます。でも、このくらいは仕方ないのかな。下の子が生まれて、やさもち・赤ちゃんがえりがひどくてひどくて……なんて話がよく聞かから。

とにかく、年末には感慨にひたつたものです。「このところ野歩はしっか

りしてきたなあ。何かと助けてくれるし、約束したことは頑張るし、ちゃあんと会話がなりたつて、楽になったよなあ」と。

藍も一歳になり、相手のしぐさを真似たりよちよち歩いたり。暇にまかせて遊んでやるのが、本当に可愛くて楽しい時期なのですが、なかなかそうもしていられません。調理中の私の脚につかまって立っていたりすると、「藍ちゃん、もう離してっ!」と言うこともしばしば。

こんな言い方しないほうが、と思っているのに、つい口を出してしまう感情的な言葉たち。やつぱり私、子育てに向いてないんだなあ。

だけど、ときには藍に向かってこんな言い方をすることもあるからこそ、野歩がやさもちやかないのかも。ちよつと都合よすぎる解釈かな。

そろそろ藍も自分の力を試そうとするのが多くなるはず。二人目の反抗期がやってきます。

(え・長谷川てるみ)

専門の生命保険コンサルタントを派遣いたします。

(東京都内・近郊のみ)

お一人ではチョット心細い、

でも何人かいれば心強いあなた…

お友達・職場の仲間などなたでも結構です。

3、4人でも何人でも

あなたのお宅に、あなたの職場に、お集まりください。

生命保険の専門家が皆さんの疑問にお応えいたします。

くわしくは「わいふ」あて 電話で資料請求してください

わいふ指定代理店 東京海上火災保険株式会社 東京海上あんしん生命保険㈱

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771



あ
なたへ

スマッシュ

エリート女性の 帰の原因

岡山県倉敷市 小野喜美子(40歳)

二八二号長谷川さんの「新しい専業主婦」についてのレポート、私は少し違う意見です。「なぜエリート女性が帰」という問題を考えると、一番いいのはその本人にじっくりと話をきいてみることだと思います。

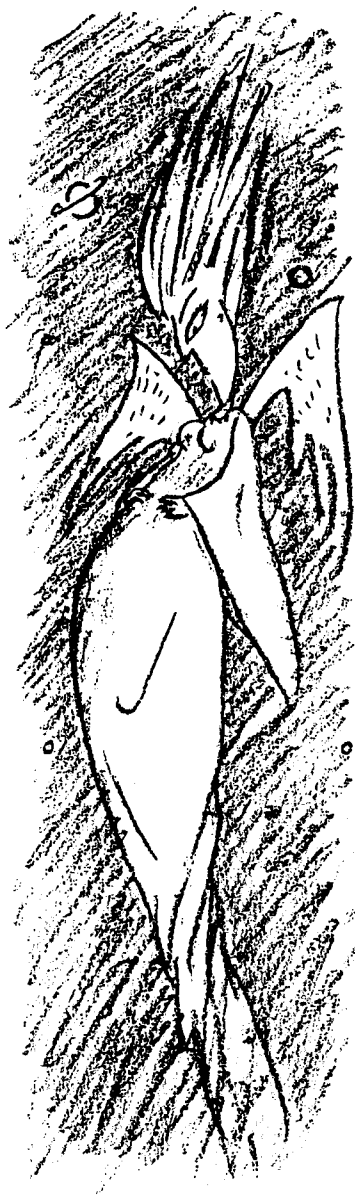
報道番組なんかだとどうしても伝

える側の意図が入ってきちゃうから、番組のプロデューサーが「そんな地位も名誉もある女性がすべてを捨てて(?)子供や亭主に尽くすとは、なんとすばらしい。うちの女房にもそうあつてもらいたいもんだし、くそ生意気な部内の**子にも爪の垢でも煎じて飲ませたいよ」と思っていたとすれば、「女性の人生の意味は収入を得ることにあらず、暖かい家庭を守っていくことにあるとかしこい女性たちは考えています」的な内容になってしまふのではなんでしょうか。私はその番組を見

ていたわけではないので、どのような意図でその報道がなされたのかわかりませんが。

私は子供を抱えながらも大学卒業以来一貫して会社勤めをしておりますが、私の周りでも、能力もあり周囲からの期待も大きかった人が、あつかりと出産を機に退社するケースはよくあります。うちの会社は男女の給料格差は大きいですが、女性にはお茶くみしかさせない等の差別はあまりないので、仕事をする上でのやりがいには得られると思います。事実彼女たちも仕事に未練がないわ





けでもないようです。それでも彼女たちが退社を選択する理由が「母性」の一言で括れるのでしょうか。それが彼女たちの本音とはどうしても思えません。

私には彼女たちの本音は「仕事がつらい」であるように思えます。男社会で「エリート女性」になるためには時間的拘束を含めて並々ならぬ努力が必要だったはず。そこに子育てという新たな課題が加わったとき多少保育園等の設備が利用できた

しても、決して今までと同等には働けない。拘束されたなかでの仕事を評価されることは、それまでの輝かしい評価に傷がつくと感じるのではないのでしょうか。もしくはそれを回避して独り身の時と同等の成果を上げようとするならば、それこそ仕事と子育て以外のなものない潤いのない人生が見えてくるでしょう。ここでもし、夫に負担を求めることができるならば状況も違ってくるのでしょうが、男の人がどれだけ家庭を

顧みず働いているかを目の当たりにしている彼女たちは、決してその男同士の競争の中から夫に抜け出してくれとは言えない。

結局「エリート女性が職場を去る」ことの原因は「母性ゆえ」ではなく、彼女たちが「男としてしか働いてこなかったこと」「彼女が彼女の夫に、従来の日本人型男社会サラリーマンとしての活躍を期待していること」なのではないかと感じていきます。

出産を機に退社した方、違いますか？是非ともあなたの本音が伺いたい。

専業主婦を選んで後悔

東京都世田谷区 後藤 品（41歳）

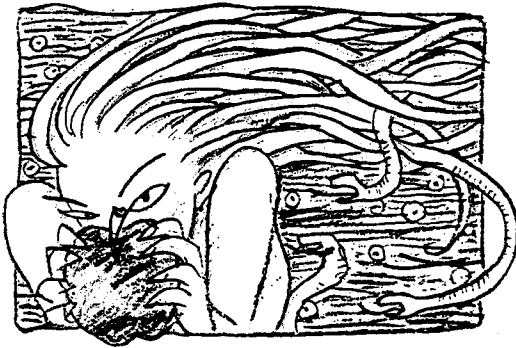
二八二号の「新しい専業主婦」で、女性が母になるという夢に強く縛られているという意見に、私も同感。

会社員だったとき私は、仕事と職場に生きがいをもてず、結婚に逃げた。

そのときは確かに、自分は家庭と育児にこそ本当の幸福を見出せるのではないかと思っていた。

外で働くだけが自立ではない、給料をもらわなくても有意義な人生は送れるはずだ、そして何より、私の子は絶対にすばらしく育てなければと思い込んでいた。

だけど、やってみないとわからないことってたくさんあるものです。専業主婦はヒマだ。時間があるので、あれこれしすぎたり考えすぎたりする。ところが、子供に入れこもうとしても、向こうにも意思があるので、抵抗や反発をする。自分はトシをとり、子供は成長する。母親の



無力感はますます募る。内助の功だけでは時間が余り、夫でも子供でもなく、自分で勝負しなきゃだめだってことにやつと気づく。趣味やボランティアや、家庭の要としての自分に充実感が得られる人は幸いである。

私の場合は、それだけでは不満。よく、何で働く必要があるのと言われるが、私は家庭の外の仕事がない。昔両親が、手に職を持てと言っていたそのわけを、職を失ってからやつと理解した。

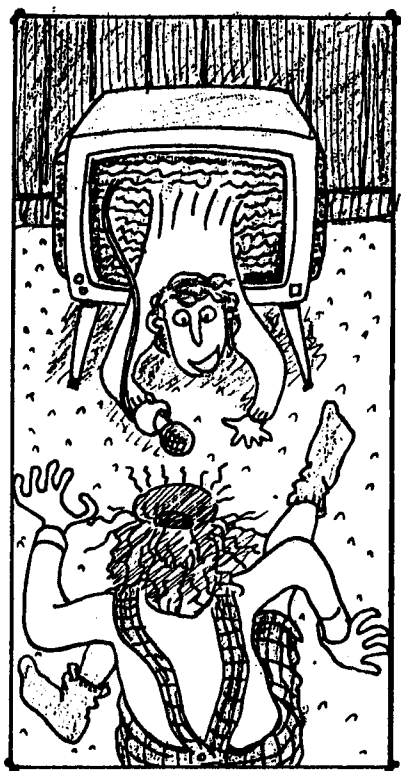
子供を生み育てながら、仕事はじゅうぶんできます。また、子供を産んだからといってその人が立派なわけではけっしてない。子供のいることはたしかに一つの幸せだけれど、仕事をするのも同じくらい人生で大切なこと。

労働環境と社会通念の束縛のために、仕事と育児の二者択一を迫られる女性がまだ多いのは、惜しいことだと思う。

私もファンです 「テレビタミン」

熊本県八代郡 砂原富美子

二八二号の「おもしろ特派員体験」を読んで、「テレビタミン」がとても身近に感じられた。番組が始まる前に特派員を募集していたことは知っていたが、実際、特派員の内容がどんなものか想像がつかなかった。



私もチラッと応募してみようかと考えた時もあったが、松本さんだからこそできたんだと、つくづく文面を見て感心してしまった。

一度、逢ったきりなのだが、とにかく明るくてユーモアのある人なので、印象に残っている。この「わいふ」に投稿するようになったのも、松本さんの紹介があったからだ。

「テレビタミン」は視聴者参加で生番組だ。毎週月曜金の午後四時五十分から六時四十五分までである。熊

本市内の下通りのマクドナルドの前でロケ車も放送中だ。誰でもその場所にいけば、TVに通行人として登場できるので、めだちたがりの若者達が映っている。

私は時々しか番組を見ないので、たくさんの特派員が大変な努力をされている事に気がつかず、まさかりハールにこんなに時間を費やしているとは驚いてしまいました。

「テレビタミン」の情報は県内どこかでカメラが回っているので、私も撮影中とは知らずに、お店に入り、「はい本番です」と言われ驚いた事があります。自然体で撮影したいというスタッフの意見で、お客には知らせない方が、リアル感がアップするのでしよう。

私は下を向いて黙々と食べてました。テレビに映るとわかっていたら、もつとおしゃれして化粧してきただのにと残念です。

でも田舎の店には、ぴったりの客だと言われ、放送を見て納得しまし

た。夕食の用意が早くなったのも、「テレビタミシ」を見たいという中毒現象がひそかに視聴者に広がっているのも、特派員のおかげです。これからも頑張ってください。

二八三号「新しい専業主婦」の 長谷部治子様

東京都足立区 須賀まり子

キャリアウーマンが専業主婦に転じたことを母性への回帰と嘆かれていましたが、私はこの話を読んでちょっと違う印象を持ちました（この報道番組は見ていませんが……）。

私思うに、彼女たちは燃え尽きてしまったのではないか、達成感とか満足感を通り越して、闘争心を消失するほどに情熱を使いきってしまったのではないか、と感じました。仕事をするということは闘いです。「男は敷居をまたげば七人の敵あり」

と言いますが、それは女にとってと同じことで、ましてや彼女たちのように男と肩を並べる、いやそれ以上に抜き出ようとしたとき、どれほどの努力が必要であったか。推して知るべし、言わずもがな、でしょう。

また、それだけではありません。周囲の嫉妬深い男たちは、彼女たちが頭角を現せばセクハラまがいの行為に出たかもしれません。女故の悔し涙もなくはないはずです。

「二十四時間闘えますか」なんてキヤッチコピーがありました。仕事で走り続けてきた彼女たちの半生は、想像以上の緊張感の連続だったと窺えます。

同世代の女たちが結婚し、子どもを産む。それを横目でみながら「私には仕事がある」と言い聞かせる。二十代から三十代前半の体力気力のあるうちはいいが、三十代も半ばに差し掛かるとステイタスやお金だけでは心の隙間を埋められなくなる。

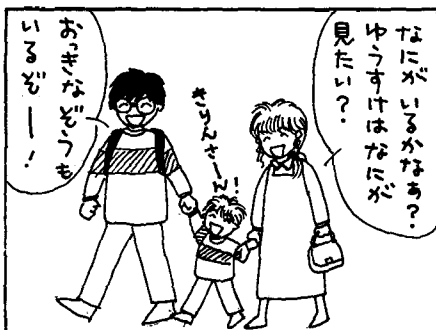
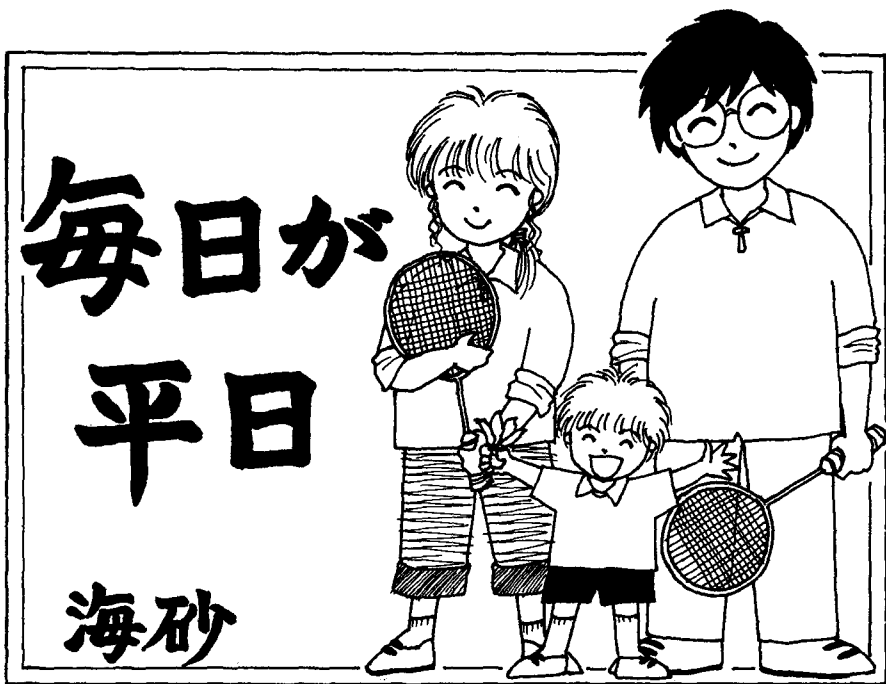
三十代後半で寿退社し子どもを産んだ友だちが、子育てが楽しくてしょうがない、子どもとの時間が心地よく幸せだと言っていた。

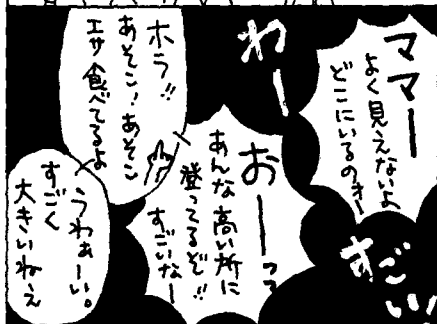
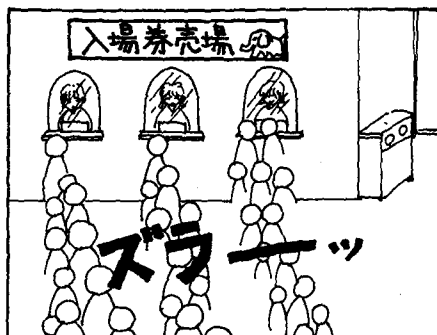
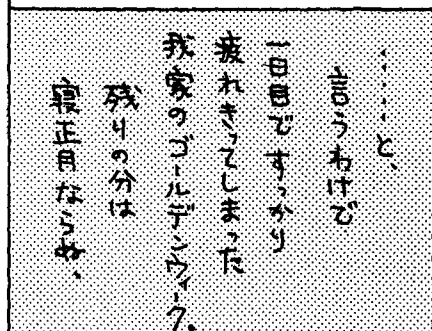
番組の女性たちも平凡な生活の中に癒しを求めているのではないだろうか。これまでの疲れ切った心に活力を戻すための充電期間と、本音は考えていると思うのです。

私の友だちもまた仕事を始めました。先の彼女たちも落ち着けばきっと何か活動を始めるはず。結婚、出産が人間味を深めて、さらにいい仕事が出来るとはいいでしょう。

それよりもこの報道を企画した裏側に、家庭に入ることが新しい女性の生き方と、洗脳しようとする下心が、トップを占める古い頭の男たちにあるのではないかと疑いを持ってしまいました。私って、裏を読み過ぎでしょうか？

（え・荒井知恵）





私も ひとこと

退院を迫られて

匿名

ある地方に住む知人の話である。彼女は長年、写真関係の仕事をしていたが入院中の父親が退院を迫られ「どうしよう」と悩んでいた。そのことで頭がいっぱいで、暗くしないで作業してしまい、撮り直しのきかない多くの写真を駄目にしてしまったとのことだ。

病院は「老人に長く入院されると赤字だ」とのことだが、在宅介護ばかりでなく、政府は病院作りにも力を入れて欲しいと感じた。

寒い・寒い

埼玉県新座市 野田めぐみ

寒いぞ。手がかじかんで字は書けない。レジは打ち間違える。鼻水はズズッと出る。とにかく、お客様商売の日用品店なのにこの寒さは何?!

パート先は、経費節減のために暖房を入れていないのである。ばばシャツ、スボン下、厚手のくつ下、そして腰には使い捨てカイロを貼り笑顔で接客。もう少しの辛抱。冬もう終わる。あー、夏は暑いんだ。

むべ

静岡県小笠郡 鴨川典子(45歳)

スタッフの望月さんが、二八二号で書いてらした「むべ」は、艶のあるアケビといった風情の、とてもきれいな紫色の実で、私の地方では文化の日頃が食べ頃です。屋敷林の中であって、小さい頃から毎秋食べています。

漢字で書くと「郁子」。知人に郁子（いくこ）さんという名の人がいって、いい名前だとうらやんでいた私は、この事実を昨秋知り、びっくり仰天したのです。

上の子を楽しんで

アメリカ サンゲール市 布施木ユミ子

ある朝、小学校が休みだった上の娘と一緒に下の娘を幼稚園に送って行ったら、先生たちが「上の子との時間を楽しんでね」。そういえば、いつも下の子に気をとられ、上の娘の話をゆっくり聞くことも、なかなかできない。また、アメリカ人の友人が「今日は五歳の息子とデートなの」。だんなさんが赤ちゃんを見ている間、彼女は上の子と外出し、一緒に過ごす。これは、とてもいいアイディア!

いつの間にか

千葉県流山市 塩川浩子

テレビドラマの一シーン。待ち合わせのために急ぐ若い二人。赤信号がもどかしくて、走るのがうれしくて、それぞれが走る姿が、順々に大写しになる。

思わず洗濯物をたたむ手を止めて、見入る。耳のあたりがさわつて、不覚にも涙がこぼれそうになる。わたしだってこんなときがあった! いつの間にか四十歳。時の無常さを思い知られるとき。わたしだけかしら。

クラシックが好き

千葉眞柏市

鈴木みもぞ

以前NHKでピアノリストB・ゴルノスターエヴァによる「ピアノで名曲を」という番組があった。シューベルトをとりあげた時「音楽さとはほど遠い生活をしながら、これほど清らかで美しい曲を生み出した」と言っていた。他の多くの音楽家達も苦しみ多い人生を送りながら、名曲を残した。それらは、湧き上がる生の喜びそのものだから、後世の人々の心を打つのではないだろうか。

学習机はダサイ!

東京都北区

安村豊子

りゅうとは春から小学生。二月ともなれば卒園・入学両方の準備が重なりバタバタだ。ランドセルはインターネットでメーカー直売を格安でゲット。お子様スーツは知り合いにおさがりを回してもらい、シャツと靴だけ買えばいい。私は前に買ったワンピースでいいや。それにしても学習机ってなぜみんな同じデザインなの。しかもダサイ。どのみちうちの狭い部屋には入らないので、シンプルでカッコイイのを手作りだ。

茶通

東京都世田谷区

太田啓子(44歳)

夫も私も、和菓子が好きである。先日、近所の老舗を訪れた。夫の選んだ淡い緑色の和菓子には「茶通」という名がつけられていた。私は少し思案してから「このちやどおしを……」と小さな声で言った。すると店の主人が、「ちやつうですわ」と明るい声で返答した。自分の無知が、恥ずかしかった。後で、茶の道に通じているという意味だな、と納得したが。一期一会の和菓子の心。その奥は深い。

美味しいの?

東京都日野市

神名 舞

部屋中ハイハイで、動く雑巾化しているのは九カ月の次男。興味のある所へはわき目もふらず一直線に向かって行く。腕と足を使って進む姿は力強い。今はお兄ちゃんのおもちゃ箱に頭をつっこみ「アーアー、プー」楽しそう。突然その声が「チュッ、チュッ」に変わった。心配してのぞき込むと、長男の宝物、去年の夏捕ったセミを口にぐわえている。ギャー、恐い。

初めての賀状

千葉眞松戸市

高橋安子

年賀状に二〇〇〇年一月一日の消印を押します……と、早目の投函を宣伝していた。私は二〇〇〇年の消印がほしかった。わが家は喪中、年賀状のあてはない。うちうちらいいだろうと、夫が賀状を書いてくれることになった。投函場所も選んだ。

元旦、夫から家族一人ひとりに賀状が届いた。私には「現状維持でいいかな、今年もよろしく」とあった。三十年目のお初だった。

ホームページをつくりました

西尾裕子

ない頭をふりしほって、ホームページをつくりました。非常に拙いものですが、よろしければごらんください。

内容は、日々の出来事を綴った「ミセス裕子の恥さらしな日記1人生はエキサイティング」編と、子育てエッセイ「日記2 子育てはヘンタイじゃなくて大変だ」編などです。どうぞよろしく。

<http://www.spice.or.jp/~qwel>

母との会話

埼玉県所沢市 鈴木和子

八十六歳の母はすい分耳が遠くなり会話が大変になった。

電話でなかなか伝わらず、何を言っているのか分からないと言われたときなど、本当に悲しくなる。

でも私の出す絵手紙に対し、絵は不得手だからと文字だけのハガキを届けてくれるようになった。おかげで、母の気持ちや様子がよく分かるようになった。

女と子どもはワンセット

バブア・ニューギニア 山瀬尚子

「家族そろってお越下さい」と上司宅の晩ごはんと呼ばれた。ところが当日、悪性のインフルエンザにかかってしまい、私はタウン。夫に子どもたちを連れて行ってほしいという、「それはやっぱりまずいんじゃないの……？」という事で、夫だけ出席。ああ、こんな時こそ一人になってゆっくりしたいのに。結局、「家族そろって」とは言えど、女と子どもはワンセットなのだと痛感した。

にわとりに代って一言

千葉県流山市 栗林八重子(73歳)

卵が敬遠されているらしいが、私卵大好き。かつて或る地方都市へ転勤した時、初めて友達になった人の家の前を通りかかると「お茶でも」と声をかけられた。友達は、何も無いからと鳥小屋へ走り卵を取ってきて、目の前でコロコロとゆでてお茶受けにしてくれた。塩をちょこっとつけて。その美味しかったこと今でも忘れられない。卵はレシチンを含む完全タンパク質食品です。上手に使って健康に。

漢検受験

大阪府南河内郡 中野正美

短大生の娘に誘われて漢検を受けてみることにした。ついでに夫もいっしょにどうかと声をかけてみた。「いらん」とあつさり断られた。高校生の息子はどんな反応を示すかと誘ってみると、「気分転換に受けてみるものいいかもしれへんなあ」と意外な返事。三人そろって二級にチャレンジするが、さて誰が合格するか、それともみんな不合格かどうかどちらにしてもおもしろい。

人恋しい？

千葉県船橋市 草野ゆき

公民館は朝九時から始まる。職員より早く出勤するのは、七十年代と思われる男性。ロビーのソファにドッカーリ座って、毎日館内の情報を隅々までチェックする。そして、あのポスターの女性はイメージに合わんとか、このチラシの文章がおかしい等と難癖をつける。この寒い時期、早起きして日参することはい……。家族に疎まれた寂しい老人像が脳裏をよぎる。

持ち物テスト？

アメリカ リトルロック市 伊藤孝子

「先生、おひな様きたんで出す手伝って下さい」と、子連れ単身留学をしているユキちゃん。一歳半の娘の為に日本から七段のおひな様が送られてきた。私も幼い時、父と母が同じようなものを旧暦で飾っていたことを思い出した。私は本当に愛されていたんだ、と遠く異国で再会する人形達を見て思った。が、並べ方が分らない。持ち物もどれが誰のやら怪しいままで飾る。人形に謝りました。

唄で命をつむいで

部落のおばあちゃん、母、そして私



ただ えみこ著
青木書店
本体1700円＋税

差別の中の差別。それが想像もできないほどひどいと知ってはいた。しかし直にその口から聞く衝撃の重さ！

筆者はそんなことを考えて聴きとりを始めたのではなかった。ピアノに憧れ苦勞して音大に入ったが、何か違うという思いにつき動かされ、おばあちゃんたちの唄にぶつかる。唄があるから生きてこられた、という唄に。部落に残った暮らしの唄は、女たちの二重の差別の苦しみを乗り越えさせ、かろうじて命をつながせてきた。

二十年に及ぶ聴きとりから、幼児労働・若年結婚・労働に加えて家事と夫への奉仕に休む間もない女の一生が綴られる。今も本質的には同じだと。(木)

住んでみたいシニアのホーム



栗原道子著
大塚淳子著
毎日新聞社
本体1500円＋税

様々な老人ホームのユニークな設立の由来、特徴などが紹介されている。利用者の意思を反映させて設計されたところが多く、そこで暮らす人々の生きかたは様々で、感動したり共感したり。

友人、同職の人、趣味の仲間など。最後の海外セブ島での「十人の平穩の裏に百人の悲嘆がある。いいところ取りでなく、自分の目と足で確かめること」との言葉はどの場合にも当てはまるのではないだろうか。

取り上げられた十二のパターンのなかから、私にはここがいいかと選んでみるがそれは遠すぎる。こうした利用者優先の好ましいホームの輪が全国的に広がっていくことを望みたい。(Y)

働くママとパパのための はじめての小学校&学童保育



保育園を考える親の会編
学陽書房
本体1500円＋税

就労ママにとって保育園というのは朝から晩まで子供を任せておける、頼りになる存在だった。生後八週から足かけ六年にわたって安定した就労環境を支えてくれる。それが小学校進学で一変してしまうのだ。「育児も小学校へ上がると楽になる」というのは一概に言えるだろうか？ 子供の活動に、親がより一層関心を注ぐ必要が出てくるのに。就労ママも、専業主婦ママも、何かと水際の毎日だ。学校のことで後手に回らず済むように、よく考えろって言ったって無理。ここまで詳しく書かれたマニュアルがあれば、かなりのことがドタバタしなくてすむでしょう。情報満載。お助けコラム充実。(A)

転んだあとの杖

老いと障害と



島田とみ子著
未来社
本体1700円+税

タイトルが面白い。著者は転んだ日から人生が変わり、歩けなくなる。ペインクリニックやりハビリのため、あちこちの病院に入・通院を繰り返す。痛みをこらえながらも、ようやく歩けるようになるが、杖が頼りの身体障害者となる。その過程や障害者となったことを受容するまでの心の揺れ、人間の回復力の強さを知るまでが、克明に描かれている。

最後に「七十代以後の人生をどう開拓していけるかと、自分自身を目をこらして見つめている」と結び、著者の強い精神力に啓発される。

どなたが読んでも、心構えができる転ばぬさきの杖。

(小)

ワインスーパーマン

『通』と呼ばれるワイン選びのコツ



さらだたまこ文
あやせ理子画
学陽書房
本体1500円+税

ワインは好きだけど、ワイン通にはならなくてもよいと思っていた。ところが本書を読んでもみると、世の中には星の数ほどワインがあつて、日本にも世界中のワインが輸入されている。ワインの知識はあつた方が食生活、否、人生が豊かに演出できるような気がしてしまふ。

軽快な語り口とマンガで、ワインがぐっと身近になってくる。初級編は「スーパーで買えるワインに強くなる」とある。実用編、達人編と続き、本を後ろから開けばワイン用語事典としても使える。

『通』と呼ばれるワイン選びのコツをゲットしたい方におすすめ。

(郁)

ピルと避妊と性の教育



対談
芦野由利子・村瀬幸浩
コーディネーター 草野いづみ
十月舎 発売 星雲社
本体1238円+税

日本でも低用量ピルが認可され、医師の処方せんがあれば薬局で買えるようになった。さて、その服用は？

二十一日飲んで七日休む。三十五歳以上で一日五本以上タバコを吸う人は飲んではいけない。ずっと飲み続けることetc…。PART1でピルの基礎知識を分かりやすく説明する。

PART2は芦野・村瀬両氏の対談。昨年の調査では、高校三年生の性交経験率は男女とも約四割という。リプロダクティブ&セクシュアル・ライツの視点から避妊や性を考えながら、学校教育のあり方、地域情報センターの必要性を提唱する。ピルを飲まない男性にも読んでもらいたい一冊。

(神)

「私」を失くす母親たち

ぶつかりあう心の行方



石川結貴著
本の時遊社
発売 星雲社
本体1500円＋税

「わいふ」から巣立った石川結貴の第二弾のルポルタージュ。都市生活の現場で幼児を育て、若い母親同士の社会に入つたことのある人でなければ描けない現場感覚が全体を通じてあふれている。いつも付き合ひ仲間に気がねし、自分を殺して周囲に合わせいていかなければならない母親たち。いつもいっしょに買物をし、プリクラを交換し、早期教育にのめりこみ、とりもちでからまれたような交際の輪から出ようとしても出られなくなってしまう。そのなかで彼女たちは徐々に精神のバランスを失っていく。春菜ちゃん事件にヒントを得て書かれた作品の中で最も現場に近い視点の一冊である。

(T)

わが子に気になるお母さんへ お父さんへ

カウンセラー伊藤友宣の親子塾



伊藤友宣著
海竜社
本体1429円＋税

子どもが手に負えなくなつてカウンセラーを訪ねる人々は年々増えている。その人々に、子育てとは、教育とは、小手先の技術ではなく、自分の人間性をさらけ出して、そのまま子どもにぶつかつていくよりないんですよ、と教えてくれる作品だ。

学級崩壊のひどさが伝えられるけれど、生徒も生徒なら、それに対する教師の対応も昔ながらの強圧的マンネリ。子どもの乱れもほんとうのところはさびしさの現れなのだと、はつとするような気づきを与えてくれるながら、人間であることの楽しみと寂しさを、著者自身がかみ締めているような本。

(K)

ひとりひとりの個性を生かす
「わいふ」の添削講座

文章指導の講座です。会員（定期購読者）であれば受講できます。

受講期間 六カ月

受講料 一万五千元

期間内に三回、いつでも任意に作品を提出してください。ジャンルは作文かエッセイ。

作品の枚数は一回につき四百字詰原稿用紙三枚です。

一回ごとに添削、講評を付けて返送し、それについて電話での質問を一回お受けします（編集長または副編集長が担当）。

今後書いていきたいジャンル（エッセイ、自分史、レポートなど）があれば、電話質問の際ご相談に応じ、書き方のアドバイスをします。ライターをめざす方にはその方向でご指導します。

情報 コーナー

体験談お聞かせください!

「わいふ」出身の熟年ライターです。二年あまり前、『サンデー毎日』に「隠れ純愛する妻たち」を書きました。家庭の幸せも壊したくない、彼との付き合いも続けたい、という熟年妻たちがけっこういるのに驚きました。四十代以上で(上限はありません)①夫とは別に恋人がいる②かつて、いた③片思いだが想い続けている④深い関係だが、不倫ではない、私にとっては純愛である。

以上のどれかに該当する体験談をうかがわせていただける

方、手紙か電話でご連絡くださいませんか。男性も歓迎です。秘密は絶対守ります。

〒三六〇〇〇六二

行田市谷郷三〇七二五

TEL 〇四八―五五三―〇九〇八

小川由里

応募者に洩れなくプレゼント きつとお役に立つ シニアの住居の情報誌

社団法人全国有料老人ホーム協会は、入居者に対する保護と有料老人ホーム事業の健全な発展を目的とし、昭和五十七年に設立されました。

標準的な入居契約書、介護基準の作成、ホーム職員の研修などを行い、有料老人ホームのレベルアップに努めております。また「輝・ニュース」を発行していますが、これには全国の

加盟ホームの最新情報を掲載してあります(A4版12ページ)。安心できるシニアの住居をお探しの方、ぜひ読んでください。●プレゼント方法 応募者に洩れなく郵送します。

応募ははがきで左記へ

〒一〇四〇〇六一

東京都中央区銀座三三三一

東邦生命ビル7F

全国有料老人ホーム協会

「輝・ニュース」プレゼント係

締切り 平成十二年四月末日

(当日消印有効)

シンポジウム

「21世紀の教育提言」

のお知らせ

今日、日本の教育がおかしい状況にあります。学級崩壊、不登校、いじめ等、ベテラン教師でさえ対応不能な現象が顕著で、混乱の最中にあります。

その様な中であって、教育に

多大な影響を与えたアドラー心

理学を中心に、モンテリオール

・アドラー心理学大学院のジョ

セフ・ベルグリーノ博士をお招

きし、教師を救う会を結成され

た千葉大学助教授、諸富祥彦氏

をコメンテーターに、シンポジ

ウムを開催いたします。

ご参加をお待ちします。

会期 五月五日(金) 10~17時

会場 牛込簞笥区民センター

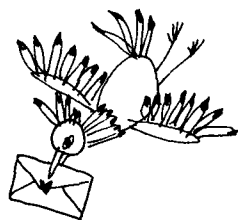
詳しい案内をお送りします。

ヒューマン・ギルド

〇三三三三三五六七四一

E-Mail Info@hgld.co.jp

HP <http://www.hgld.co.jp>



女たちの情報紙
ふえみん
f e m i n

婦 人 民 主 新 聞
WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

見本紙 お届けします。お問い合わせ下さい。

草の根は
伸びつづける。

からだのしんばい
はたらくもんだい
こころのえいよう
さべつへのいかり
アジアのうごき、
あんぜんでなに？
きのうまでのみず
あしたへのみち
わたしのいけん
あなたのいけん
おんなという
ちから。

世の中に？も
もち始めた
男たちにも。

新聞代
(送料込)
1ヶ月 750円
3ヶ月 2,250円
6ヶ月 4,500円
1年 9,000円

創立以来、無党派の立場で50年。
女の視点で創る。もうひとつのメディア。

毎月・5日・15日・25日発行

東京都渋谷区神宮前3-31-18-301 大阪府協 大阪市北区中崎西3-1-5
TEL 03(3402)3244,3238 TEL 06(371)2429
FAX 03(3401)3453

ふえみん婦人民主新聞
婦人民主クラブ責任編集

『母と子』4月号 定価500円/送料68円

〈今月の視点〉 **学校に備えたい環境**

学校に自然と文化の豊かな環境を 三輪定宣

—父母・住民から自治体への夢の発信を—

- ◆アメリカ便り ハッピーバースデー 山本由美
- ◆子どもと本と図書館と ドラマの中の図書館員 有吉末充
- ◆幼児と遊ぶ 病院ごっこ 有吉有己子
- ◆高校生の集団献血—医療の人権と子どもの人権の交差点 山田雅康
- ◆戦争を行なった国の法的責任 星野安三郎

——保存用『母と子』臨時増刊シリーズ 定価1050円/送料78円——

□ **当世 学校事情** [8月臨時増刊号]

—いち中学教員の意見— 坂本 安之 著

203-0054 東久留米市中央町5-4-8 電話0424-74-9125 母と子社

(○で囲んでください)

本文

●二行めから本文、全体で九行一八〇字。

[illegible]

スタッフから

二 十歳から六十二歳の男女 十人とスキーに行った。

志賀高原の三分の二を休む時間も惜しんで滑った。アフタースキーも温泉に入った後、大いに飲み、語った。年齢性別に関係なくスポーツをしたり、語り合える友人達がいることは、私のストレス解消に大いに役立っている。ただ最近では、疲れが翌々日まで残ってしまう。(野村)

わ いふで出している「ハイ スクール・レポート」担

当になって、はや十年。地味で根気の要る仕事だ。本書の特色である「受験資格の有無」欄はとかく先生方に誤解されやすく落ち込んだこともあった。でも今年はやつと私の目指したものに会った。車いすによる受験生も受け付けています(鴨川第一高)。やったね。(山本)

早 春の鎌倉に行ってきた。どこもかしこも春の香りで満ちあふれ、静かに輝く海と、まっ白な富士山を堪能しました。調子にのってハイキングコースを三万歩近く歩いたのですが、二日後に体中の筋肉がギシギシに痛んで大変でした。母いわく、年をとると疲れは後になって出てくるのか……。

五十路の坂を越えたのだなあ、と思う今日この頃です。(成井)

花 屋さんには品種改良さ れ、カラフルでバリエー

ションも豊富な花々があふれています。でも難しくてなかなか出せない色があるそうです。それは空の青色。海の青色。

澄んだブルーの花びらを持つバラ、チューリップ、カーネーションなど研究中とのこと。オオイヌノフグリならその秘密を知っているかも。あのブルーはピカイチです。(望月)

最 近らくの散歩をしていて 気が付いたことがある。 おしつこの時、右の後ろ足を上げ る。らくは雌なので足は上げない はずで、今までも上げていなかった。 家の庭では上げていない。

雄が上げるのはわかるが、雌のらくが足を上げるのは理解できない。体型がたくましくなり、散歩の途中若い男の学生に「オイ権太」と呼ばれることがあるからかな。(水落)

全 国市町村職員研修で友人 が鳥取県から上京。翔 け女性たち」のテーマは遅れて いると言うが、報告書作成まで が含まれた十日間、カン詰め状 態でやるそう。群馬の友人は 出稼ぎのスキーパトロールはや め、炭焼きに転じると聞く。先 日行った秋田県男鹿市は高齢者 がすでに27%。介護保険担当の 女性には父親の入院が重なり悲鳴 を上げていた。地方の風。(菊池)

庭 のあせびが今年もピンク の花を開いた。ふつうあ せびは白のイメージだが、うち のは華やかなピンクである。

あせびの歌といえば、万葉集に大伯皇女の悲歌があつて有名だが、私は昔、ある雑誌で見た投稿短歌が忘れられない。

君逝きて訪わずなりにし高原
にあせびの花は今か咲くらむ
結核が死病だったころの話。

若い人は分かるかしら。(和田)

私 は長年、夢を見ないヒト で、ユングの夢判断の材 料にもなりやしないと嘆いてい ました。それが年のせい! で明 け方一回目がさめて、二度寝を するようにってから、夢を見 ることを見ること。面白くてすつ かり満足していますが、絶対覚 えておこう、とその時には思っ ても、朝になると必ず忘れてる。 どなたか見た夢を忘れない方法 教えて下さい!(田中)

「ファミ・ポリティク」より

●九歳の少女を誘拐して十年間も自宅に監禁していた犯人がつかまって、それに対する警察のいい加減さが、指弾のまともになっています。

それにしても本部から監察にきていた部長が酒を飲んでかけまーじャンしていたとは。綱紀がゆるんでいる、癒着と非難されてもしかたがない。

しかし辞職した人は「依願退職」になっているのではないだろうか。

●かつて厚生省の内部事情をつづって出版したお役人の宮本政於さんは「懲戒免職」になっています。直接の理由がよく知りませんが、今回のような不祥事でなかったことは確実。それが「懲戒免職」とは。

●仲間内の不祥事の始末は「騒ぎ」がなければ穏便に、部内でことあげをする人は「懲戒免職」。マスコミもただやつつけるだけでなく、この恣意的な処分のいい加減さを指摘して筋をとおしたらどうでしょうか。

NMS研究会より

●『スポック博士の育児書』を読んでいたら、次の文章に出会いました。

「ご存じのように、心理学というものは、なかが正しく、なかが立派なことか、それがはつきりしていなければ、なんの役にも立ちません。それどころか、悪くすると、親が良識を働かすことをさまたげてしまつて、もつと多くの問題をひきおこしてしまいます」

この本が世に出たのは一九四六年ですが、今の日本に似た状況がすでにあったのだなア、と感慨をおぼえます。

●いまや日本にも、アメリカ伝来の心理学が大はやり。トラウマとか、A・Cとかいう言葉を人々が気軽に使うようになりました。

でも心理学が教えてくれるのは心理的葛藤をときほぐし、対人関係をスムーズにするノウハウだけ。人生の価値を教えてくれるものではありません。スポック博士はテクニクでなく、価値を大切に、と言いたかったのでしょうか。

老人ホーム情報センター便り

●いよいよ四月一日から介護保険法がスタートします。現場の混乱をよそにあまり関心がない方も多いのが気になります。

●介護保険のサービスを提供するのは市町村ですから、住んでいる地域の介護サービスに大きな関心を持っていた方がいいのです。

●それぞれの自治体で提供するサービスには違いが出てきます。我が町の介護サービスを充実させるには、住民が関心を持って苦情を申し立てて行かなくてはなりません。

●提供される介護サービスの種類と量を知り、他の市町村と比較してみてはいかがでしょう？

●無料電話相談 毎週木曜日

●面接相談もお受けします（有料）。

電話でご予約ください。

〇三―三三三五―二八五四

募集します

特集テーマ

二八五号(二〇〇〇年八月一日発送)
の特集テーマは、「美容と私」です。

高額なエステに通ってみがきにみがいている人、ノーマイクがポリシーの人、ときどき宣伝につられて高い化粧品を買ったりするが、毎日の手入れは

座談会 私も言いたい

二八五号のテーマは「公園育児ってこんなもの」です。

昔は車も少なく安全なので、子どもは小学生から幼児まで、外に出て大人の付き添いなしに遊んでいました。

そんな牧歌的時代は遠く去り、今で

私の意見・あなたの意見

「脳死」状態になった人間の体から移植のために臓器を取り出す、ということが法的に解禁されてはや一年半になりますが、これまで行われたのはわずか四例。背後にはさまざまな事情があるのですが、ともかく法的にはゴーサ

いい加減な人……どんなやり方をするにせよ、美容と女性性は縁が切れません。ノーマイクの人でも基礎化粧品は使っているはず。

いつ、どんな風に化粧を覚え、どういうきっかけでその化粧品を使うようになったか。ヘアメイク、顔の洗い方まで

は「公園デビュー」などといって、幼児は母親が付き添い公園で遊ぶほかなくなっています。

大人が付いているから、いたずらをすれば止められる。けんかをすれば引きつけられる。確かに安全ではあるけれど、バイタリテイのある子どもは育

インが出ているのです。

ところがこのところ、六歳以下の子は「自己決定」ができないということとで、脳死になったときには親たちの承諾でゴーということにしようという動きがしきりです。

子どもの臓器を取るためには、本人

含めて、美容にどんな心遣いをしているか。若いときからのいろいろな体験を思い返せば、おもしろいエピソードがたくさんあるのではないのでしょうか。美容をめぐる「私の体験談」をどうぞ。字数二千〜四千字程度。
締切りは二〇〇〇年六月十日です。

ちにくいかもしれません。

大人同士のつきあひも、相当難しい面があるようです。「公園育児」のプラズ面マイナス面を話し合いたしう。日時 五月十三日(土)午後一時〜二時半 場所「わいふ」分室
申込みは四月二十日までに電話で。

の意思にかかわりなく、親の意思でゴーサインを出すことをみなさんはどう思いますか? 親にそこまでの決定権があるのでしょうか? あなたの意見をきかせてください。

字数 八百字程度

締切り 四月十七日

きまり

定期購読を申し込まれている方はどなたも投稿できます。
投稿の前に以下を必ずお読みください。

◆「グラビア」わが家の歴史写真

どこのご家庭にもある古い写真とその説明をお寄せください。「父・母を語る」「子育てのころ」などのテーマにそってでも、ただ古い写真を並べてもけっこうです。

お申込みは電話で編集部まで。

◆特集

毎回テーマを設定しています。一四九ページをご覧ください。

一六〇〇字のコラム

(どのコラムも字数は目安で、多少長くても内容がよければ掲載します)

◆エッセイスト・クラブ

キマった文章、豊かな内容の随筆をお送りください。

◆ズバリ一言

オピニオン、評論を。独自の意見で。

◆家族のスケッチ

同居、別居を問わず、あなたの家族のことをお書きください。

◆子育てフォーラム

おさない子、思春期の子。どんなときも親にとって子どもの存在は気になるもの。あり

のままの関係を描いてみませんか。

◆ワーキングライフ

あなたは、どんな働き方をしていますか。さまざまな仕事の喜びや苦労話を。

◆今これに夢中

人生八十年時代。趣味その他、仕事以外に生きがいを持つ方も多しはず。あなたは何に夢中ですか。

◆フリートーク

どんなテーマでもどうぞ。どのコラムにも当てはまらないテーマを。自由なコーナー。

八〇〇字のコラム

◆あなたへスマッシュ

本誌の投稿や記事についての感想、意見を載せます。何号のどの投稿に対するものかを明記して。

◆ことばでハッピー

ことばの使い方はとても難しいですね。時には人間関係をこわしたり。でも発想を変えて工夫することで、お互いの関係をよくすることも可能。失敗談も含めて明るい話題を。

◆パソコンワールド

急速に普及し始めたパソコン。楽しんでい

る人、振り回されている人、体験談を。

◆おすすめの一冊

書評のコラム。どんなジャンルのものでも結構です。お読みになった本について感想を含めて、ご紹介ください。

四〇〇字のコラム

◆笑える！

嫌な話題の多い世の中。思わず笑ってしまう楽しい話を。

◆私の意見・あなたの意見

賛成か、反対か一四九ページにテーマを載せています。皆さんの率直な意見を求めます。

その他

◆私もひとこと(一四六ページ参照)

どんなことでも気軽に書きください。

◆わいふネット(一四六ページ参照)

教えて欲しい、聞きたい！ それに対するお答えも。読者参加のQ&A。

◆情報コーナー

お知らせ、募集など。要点を漏れなく整理してお寄せください。(一四字二〇行にまとめて)

投稿の

◆特別寄稿

字数自由。どのようなジャンルのものでも結構。本誌に適當と思われるものは掲載します。出版社に紹介することもあります。(ただし詩、短歌、俳句を除く)

◆コミック、イラスト、写真

一度作品をお送りください。本誌に合うものであれば依頼したいので。

注意

●原稿はお返しできません。

●投稿は一人一篇。ただし、「あなたへスマッシュ」「おすすめの一冊」「私もひとこと」「わいふネット」「情報コーナー」とはだぶっても可。

●締め切りは原則として偶数月の二十五日。郵送で当日必着。(読みにくいので、ファクスではお送りにならないようお願いします)

●他誌との二重投稿はお断りします。

●写真や、イラストを用意できる方は原稿とあわせてお送りください。

●誌上での匿名、ペンネーム使用可。ただし

いくつものペンネームを使い分けるのはご遠慮ください。

●掲載を希望しないお便りは「私信」と断り書きを。

●投稿は多少添削することがあります。

●原稿の最初に次のようにお書きください。

原稿用紙は必ず開いたまま右上1カ所を留める

ペンネーム・匿名希望の方は明記

コラム名	ペンネーム・匿名	住所
タイトル	会員番号	年齢
本文……	本名	
	電話番号	

なくても可

① ページを明記
(場所はどこでもよい)

匿名の方は住所を
載せるかどうかを明記

●四〇〇字詰原稿用紙に縦書き。ワープロ打ちは二〇字×二〇行を一枚に、行間一行おきにあげる。字間はとくにあげないで。

へあて先>〒162-0815 新宿区筑土八幡町一―三―二〇一

わいふ編集部

投稿のきまり

編一集一だ一より

◆読書に関する特集テーマ原稿には、十通近い投稿が集まりました。しかし似たりよつたりの内容が多く、掲載できるものが少なかったのが残念です。個性的な読書歴を持つ女性が意外に少ないということが分かりました。やはり興味の幅が狭いということなのでしょうか。もちろん男性もそんなに読書をしているとは思いませんが、いろいろ考えさせられてしまいました。

◆「わいふ」で取り上げるテーマについて、振替用紙の通信欄に書いてくださる方が増えてきて感謝しています。どんな小さな思い付きでも結構ですので、この調子でこれ

からもぜひどうぞ。

◆次回の座談会のテーマにはひとりも出席のお申し込みがなく、残念ながら流れてしまいました。いま善後策を検討中です。

◆さてお願いがあります。中学校・小学校の教師をしておられる（おられた）方で、「学級崩壊」の現状を書いてくださる方を一人ずつ求めています。体験をお持ちの方は、編集部までぜひお電話ください。内容をうかがった上で、書いていただけるかどうかをご相談したいと思います。単行本の一部に体験記として挿入する原稿です。稿料は本の印税から分量に応じてお支払いします。とても急いでいますので、編集部に電話で四月十二日までにご連絡を。

花菖蒲を観賞する会

読者懇親会をまた今年も開きたいと思います。

以前お花見会を催した後楽園で、今回は花菖蒲を観賞し、お弁当をいただくながら楽しく語り合いたいです。

日時 六月十七日(土) 十二時半～三時半
場所 小石川後楽園 涵徳亭 カントクテイ
費用 三千五百円(お弁当代を含む)
定員 先着三十五名
申し込み 編集部までお電話を。

〇三二三六〇一四七七

締め切り 五月十日(水)

お申し込みの方には地図と振替用紙をお送ります。

購読申込は……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。すぐに、本に郵便振替用紙を添えてお送りしますので、折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。限られた書店にしかおいてありませんので、直接お申し込みください。

購読中止は……

必ずお申し出ください。誌代が切れる際には、郵便振替用紙を同封していますが、送金をお忘れになる方があるため、誌代が切れても、引き続き送本しています。ご連絡がないと、お送りしてしまいますので、ぜひハガキかお電話を。

わいふ◆283 (隔月刊)

- 発行日 2000年5月1日
- 編集 わいふ編集部
- 定価 620円(本体590円)
- 年間購読料 4224円(送料共)
- 印刷 平河工業社
- 発行所 (株)グループわいふ
〒162-0815
東京都新宿区筑土八幡町
1-3-201
電話(03)3260-4771
FAX(03)3260-4773
- 郵便振替 00150-3-110430
加入者名 わいふ編集部

探偵・興信

あなたの悩み
解決します

素行調査

24時間対応で、全行動を記録(写真・VTR・音声他)いたします。

行方調査

家出人の所在や過去の恩師、知人、離れた肉親、
その他行方不明者を捜索いたします。

裁判資料の内偵

弁護士や本人から指示を受けた収集作業を
確実に遂行します。

盗聴発見

企業や家庭の機密の漏洩や、プライバシー
侵害の防止をいたします。

その他

企業及び経営調査(老人ホーム等)
信用調査、身辺警護、証拠収集、
いやがらせ問題、ストーカー対策、
海外調査、諜報の防止等。



▲ガル本社ビル

数多くのTV出演と番組協力

- ・「ニュース23」
 - ・「金曜テレビの星」
 - ・「あなたに逢いたい」他
- 各テレビ局・特別番組多数

当社だから出来るどんな調査
も一律の安心・低料金。
業界トップの調査力を誇る。
ガルの信頼と実績は、各分野
で証明されています。

経験豊かな女性相談員が親身
になってお伺いいたします。

(全国ネットワークだから安心です!!)



総合探偵社 **ガルエージェンシー**

☎ 03-3962-9932

★秘密厳守★

24時間受付

FAX: 03-3962-9972

【相談無料】

〒173-0004 板橋区板橋2-64

<http://www.galu-itachuu.com>

板橋中央

ケア・福祉のしごと

まるごとガイド

田端光美監修

いま、福祉のしごとがおもしろい！
だれにでも分かる分類で解説する98
の職種、52の資格。最新の現場から
しごとのなかみ・就職&キャリアア
ップの観点で福祉のすべてのしごと
を紹介する。



A5 / 一五〇〇円

① 社会福祉士まるごとガイド

日本社会福祉士会監修／資格のとり方・しごとのすべ
て 職場の現実や働く人の実感まで含めた、豊富な取
材を通して、読者に合った資格取得のコースを紹介。

② 介護福祉士まるごとガイド

日本介護福祉士会監修／資格のとり方・しごとのすべ
て 職場取材から介護福祉士の現在と未来を紹介する。

③ ホームヘルパーまるごとガイド

井上千津子監修／資格のとり方・しごとのすべ
て 活躍するフィールドの多様性と現場の実感を紹介しつ
つ、読者が自分なりのヘルパー観が持てるよう構成。

皮膚の常識・
非常識
知的なスキンケアQ&A 改訂版

介護休業でいい仕事いい介護

沖藤典子●家庭も自分も大切にするために 自ら狭間に
立って悩んだ著者が、介護と仕事の両立を探る人たちに
捧げる意欲作。読んでわかる介護休業制度。二二〇〇円

介護が変わるみんなが変わる

樋口恵子編●女性が進める介護の社会化Ⅳ 高齢化を縦
糸に男女共同参画社会の実現を横糸にして、介護保険施
行前夜を幅広い範囲の専門家が語り合う。二〇〇〇円

ジェンダーの心理学

「男女の思い込み」
を科学する

青野薫子／森永康子／土肥伊都子 人の持つ思い込み―
ステレオタイプをキーワードに、法や制度を整えても、
なぜ伝統的な性別分業社会は、人びとの意識に残るの
かを、社会心理学の立場から解き明かす。二〇〇〇円

現代日本女性の生き方

山縣喜代

宗教的・倫理的価値意識と心情 宗教的・倫理的価値意
識からその特色を描いた希少な研究書。二八〇〇円

法律でみる女性の現在

改訂版

高橋 保●ライフサイクルと法 より豊かに生きるため
の法律を、家庭、職業、社会生活面から紹介。三五〇〇円

宮地良樹 サンスクリーン・UVA・UVB・薬用石鹸 etc...
私たちの周囲にあふれているスキンケア情報に、老化や紫外線
など、最先端の皮膚科学を基礎に明快に答える。一六〇〇円



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1番地 宅配可・価格は税別
TEL075-581-0296 FAX075-581-0589 <http://www.minervashobo.co.jp/>